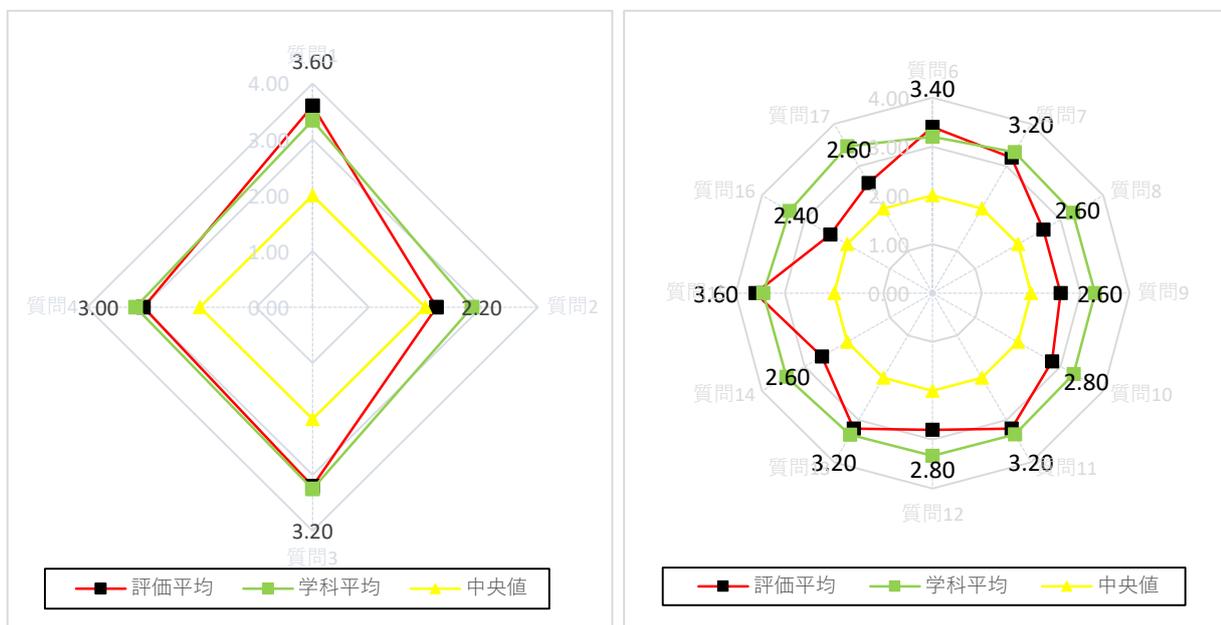


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		基礎演習あすなろう	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

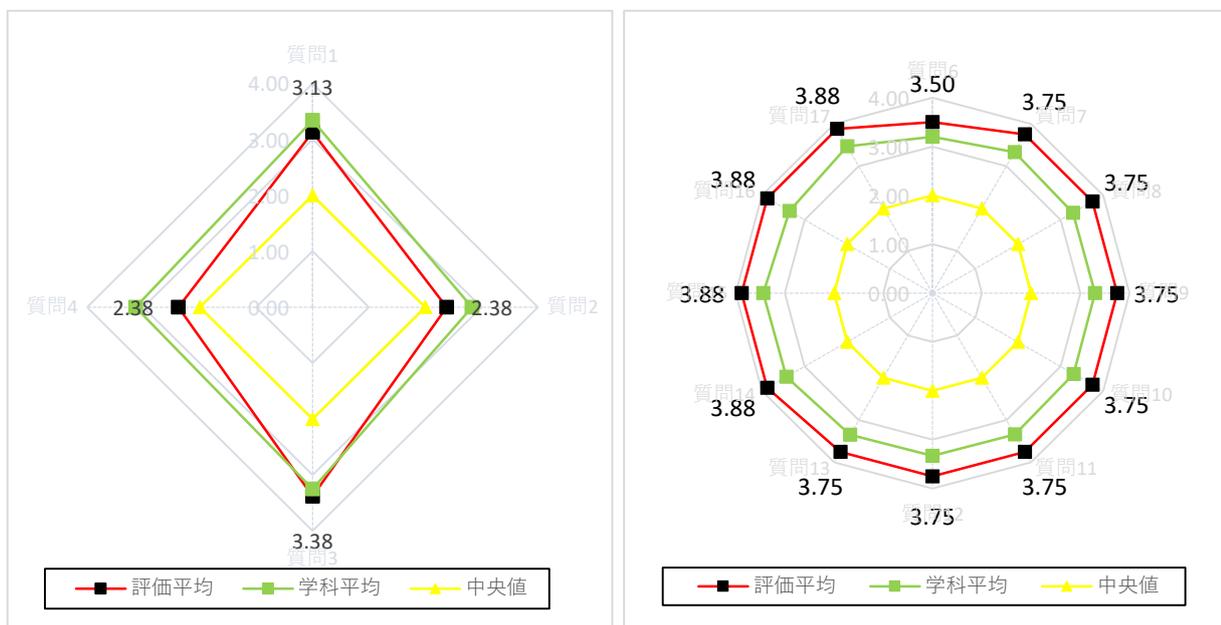
基礎演習あすなろうの授業評価においては、質問8、9、10、12、14、16、17において、学科平均よりいくぶん低い結果となった。特に低い項目は無かったが、学生が満足すべき内容に至らなかったと感じている。質問6、7、11、13、15は、学科平均レベルにあることから、基本的な授業の進行は行えていたと思われる。本授業は本学への入学生を社会へ送り出すための最初のステップとして、社会人としての常識的なマナーやスキルを身につけさせることにあると考えられる。また、本学科での勉学への取り組みの姿勢を身につけさせることにある。私自身が勤務初年度でもあり、授業内容を学びながら進行するのがやっとの状態であったのは残念であるが、次年度への糧としたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

基礎演習あすなろうにおいては、ポータルサイトを通じた学生との双方向のやり取りが大切である。質問16をはじめとしたいくつかの評価において、評価が学科平均を下回った点においては、ポータルサイトを通じてやり取りがうまく行えなかった点が大きいと感じている。これはポータルサイトのシステムや操作の不慣れが一番大きな原因であったと思う。この点については、1年間経過し経験したことにより解消されると思う。一年間の内容も全体を把握できたので、それぞれの授業において、本授業の目標を目指して授業を進めていきたいと思う。新入生は新しい環境の中でさまざまな不安や壁にあたることもあると思うが、学科のカリキュラムの進行に沿ったアドバイスも授業の中でしていくつもりです。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		基礎演習あすなろう	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

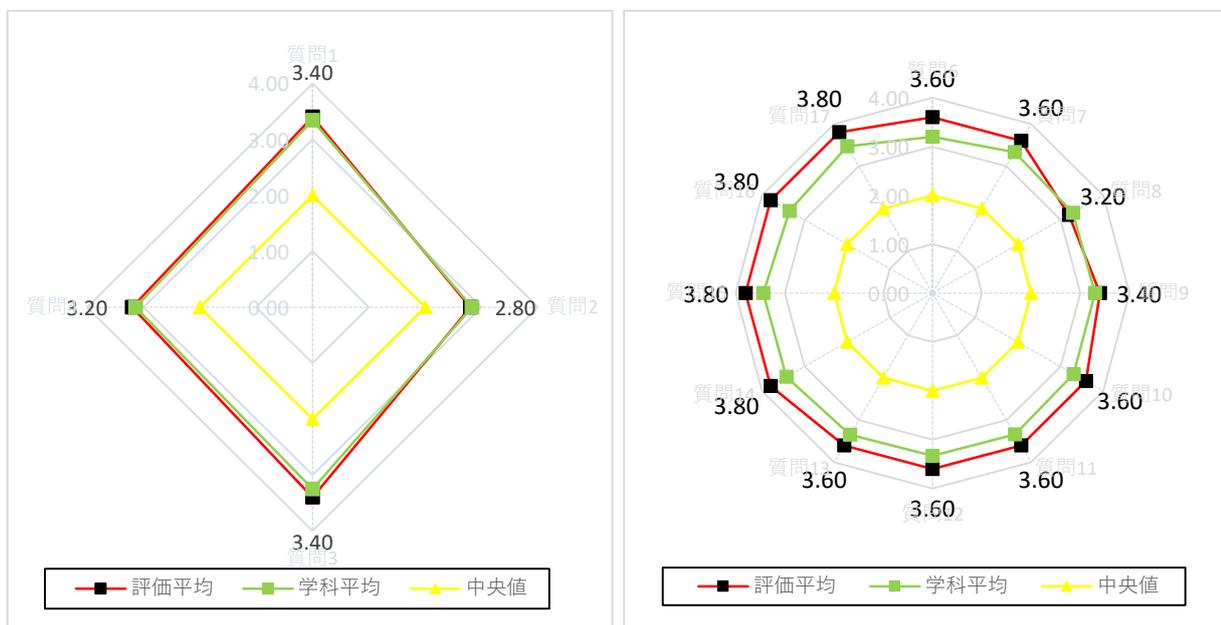
この科目は、1年生のゼミ単位での少人数の授業であったため、1人1人の学生をよくみる事ができた。学生の評価も高く、大学への導入の科目となったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度も少人数クラスの担任としても兼ねるので、アットホームな雰囲気での授業を心掛けた。来年度も今年度同様、クラス担任を兼ねて楽しい授業を行うこととする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		基礎演習あすなろう	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

・ 問8 「授業は興味・関心が持てる工夫がされていきましたか。」に関する評価は、わずかに学科平均を下回っている。

この事について学科全体として各先生の裁量的な講義があっていたと聞き、予め予定されていた統一テーマに沿った講義をする必要があると思われた。

また、日程調整の不備や資料作成に関する統一も必要であると考えられる。更に担任別では、テーマに沿った事を忠実に行ったが学生の興味を引くまでには至らなかった。

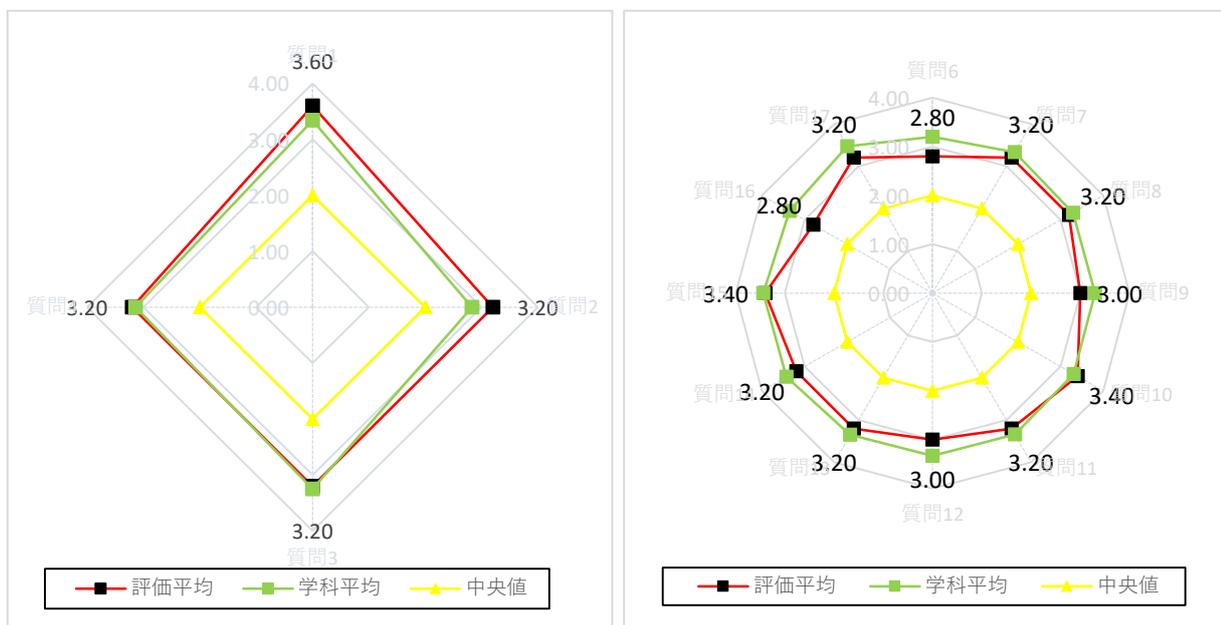
・ 上記以外は、学科平均を上回っていることから特に問題は無いと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

・ 次年度からは、科目名も変わることから内容に関してや担当教員全員の共通認識に関する検討が必要であると考えられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう体験Ⅰ（基礎）	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

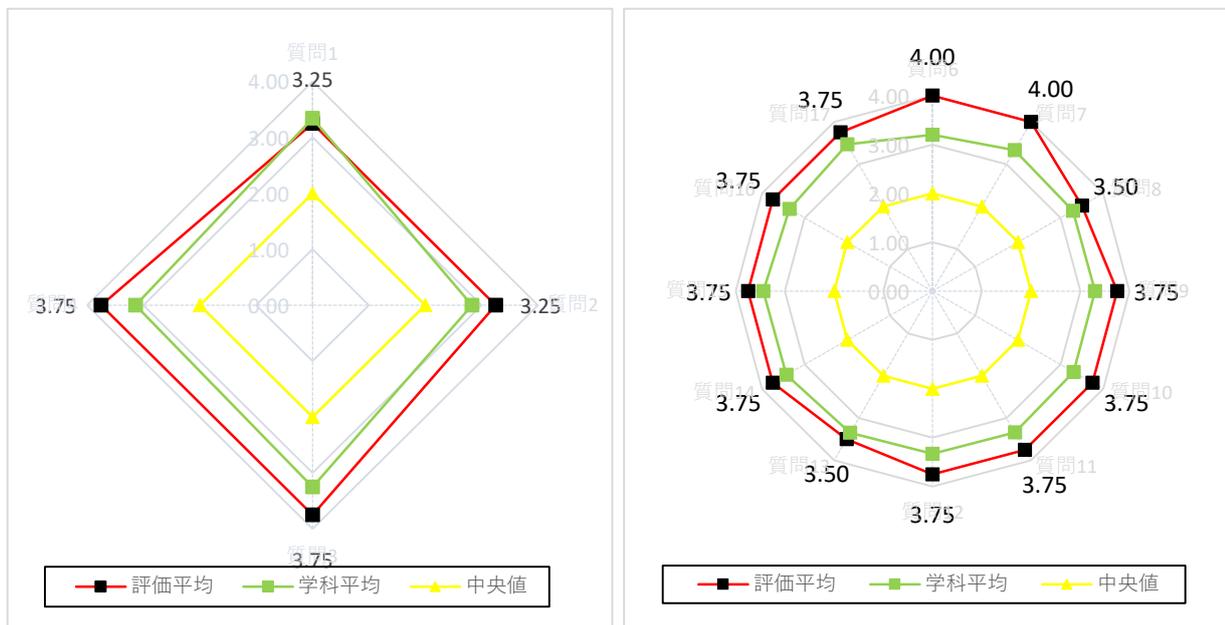
あすなろう体験Ⅰにおいては、多くの項目において、学科平均とほぼ同じか、わずかに低い項目も見られた。中でも質問16の「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか」が低い感があった。この点については、ポータルサイトを通じたやり取りがうまく行えなかった点が大きいと感じている。本授業は本学への入学生を社会へ送り出すための最初のステップとして、社会体験を積ませ、社会人として踏み出せるための言動や行動を訓練するためのものと考えられる。私自身が勤務初年度であり、授業内容を十分把握できてないところがあり、適切なアドバイスができていなかったという反省点がある。次年度においては、この1年を糧とした授業としたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

あすなろう体験Ⅰにおいても、基礎演習あすなろうと同様に、ポータルサイトを通じた学生との双方向のやり取りが大切である。評価項目においても、この点の評価が最も低かったことから改善が必要である。ポータルサイトのシステムや操作に不慣れであったことが一番大きな原因であるが、この点については一年間経過し経験を積んだことで解消されると考えている。一年間の内容の全体も把握できたので、本授業の目標達成を目指して授業を進めていきたいと思う。学生自身の授業への取り組み状況や出欠状況は平均を上回っており、ボランティア体験に積極的な学生がかなり見られた。そういった点で、学生の興味や関心を持つ授業となりえると思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう体験 I (基礎)	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

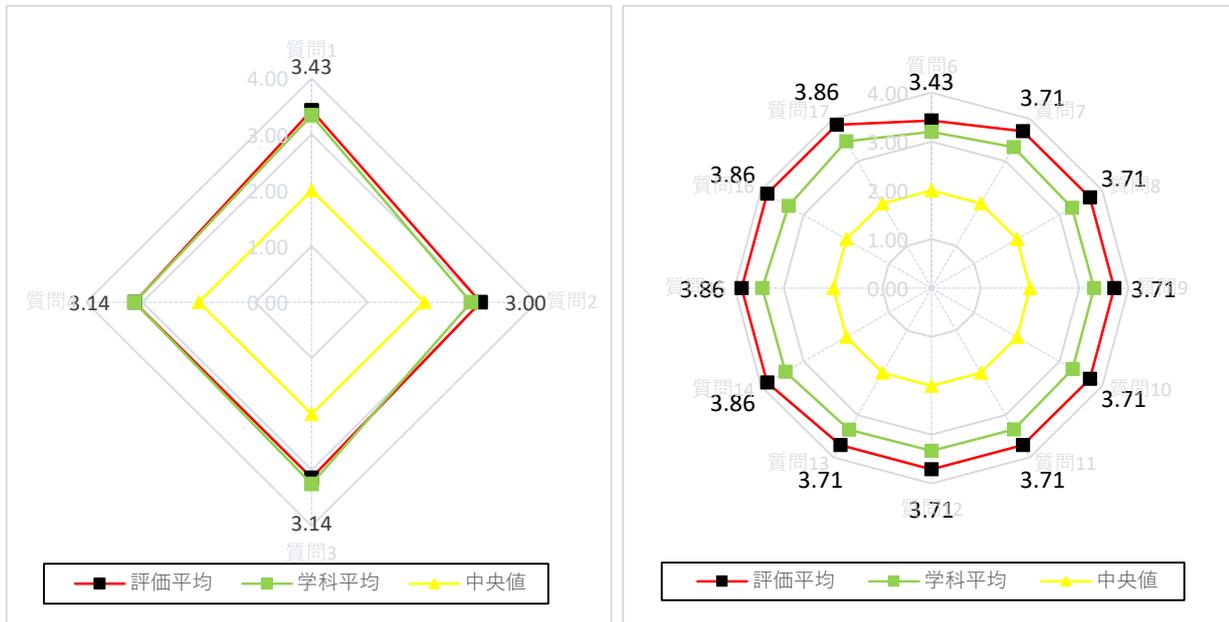
- ・ 学生による授業評価結果の「授業は何回欠席しましたか。」が学科平均をわずかに下回っていたが、体調不良などの連絡を受けていたことから特に問題は無いと思われる。
- ・ それ以外の項目については、全て学科平均以上であることから問題はないと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 次年度も今年度同様に学生満足度の高い講義を心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう体験 I (基礎)	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

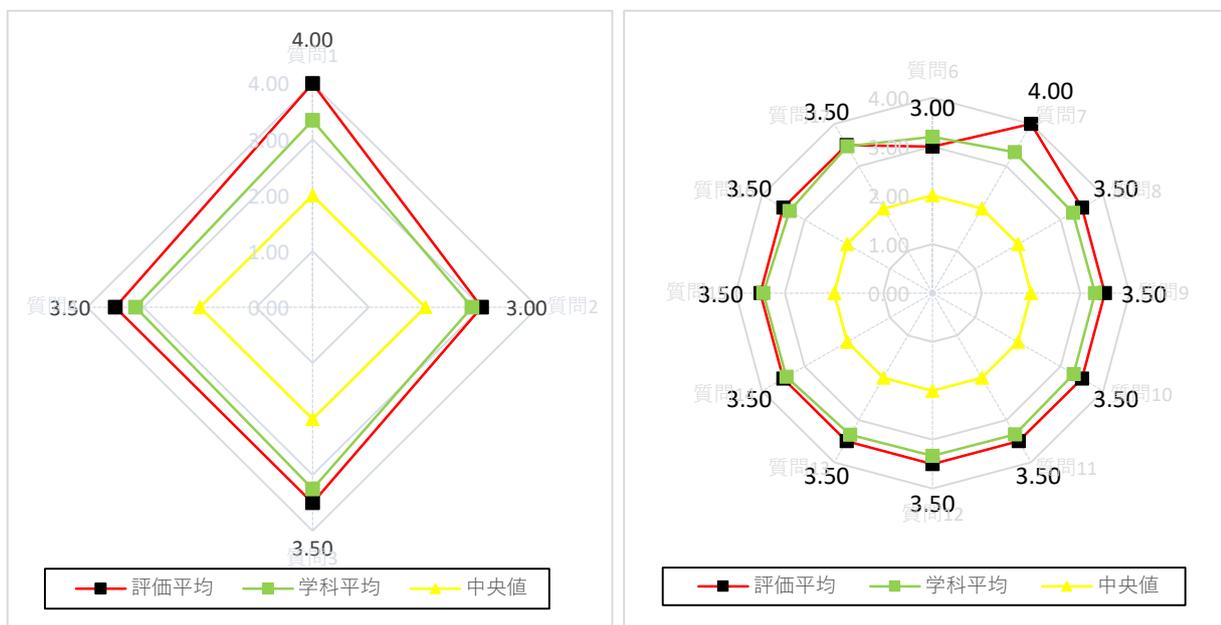
この科目は、1年生のゼミ単位での授業であったため、学生一人一人をよくみる事ができた。学生の評価も高く、大学への導入の科目となったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度も少人数クラスの担任としても兼ねるので、アットホームな雰囲気での授業を心掛けたい。来年度も今年度同様、クラス担任を兼ねて楽しい授業を行うこととする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう体験Ⅱ（実践）	6名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

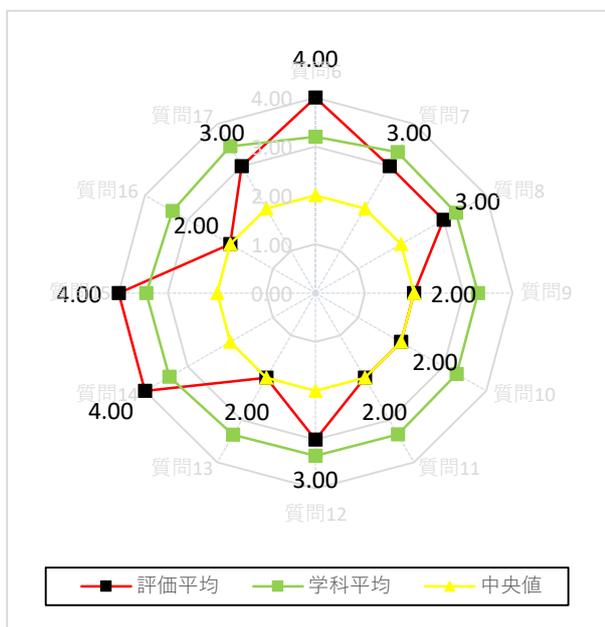
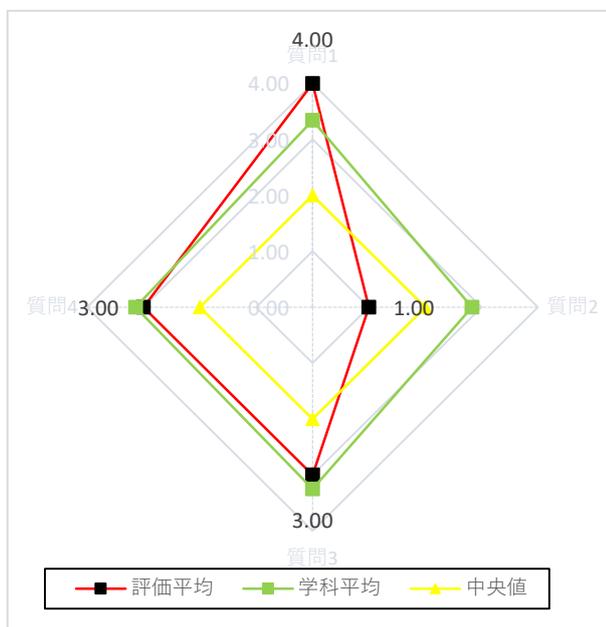
この科目は、夏期休業中にインターンシップに行く科目である。
 受講者が少なかったため、手厚い指導ができたと思われる。

（３）次年度に向けての取り組み

学生がよりよいインターンシップを取り組めるように、何のために行くのか、何をしたいのかなど取組意識を高くもたせるような事前指導をもう少し徹底したい。また、あすなろうセンターとの連携が最近あまり密に行われていないので、改善する必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう体験Ⅲ（応用実践）	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

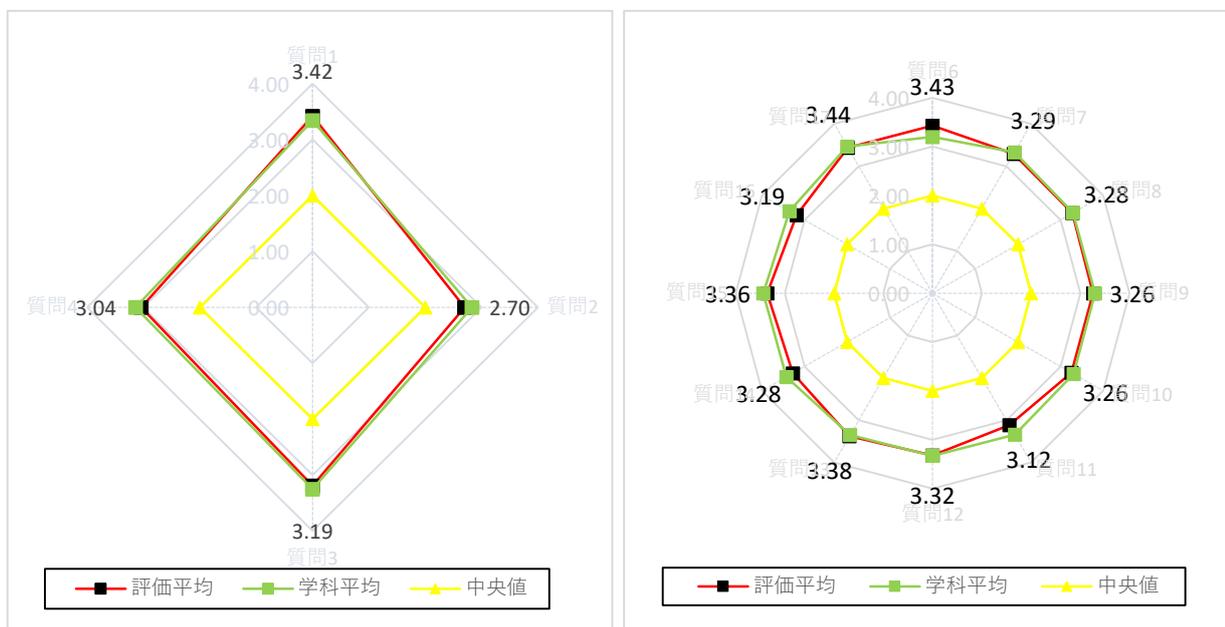
2名だけの受講であったため、分析や評価が難しい。
もう少し受講者が増えるよう、魅力ある内容であることをシラバス等でアピールしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

魅力あるPBLプログラムを構築するなど改善したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		現代社会と倫理	198名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

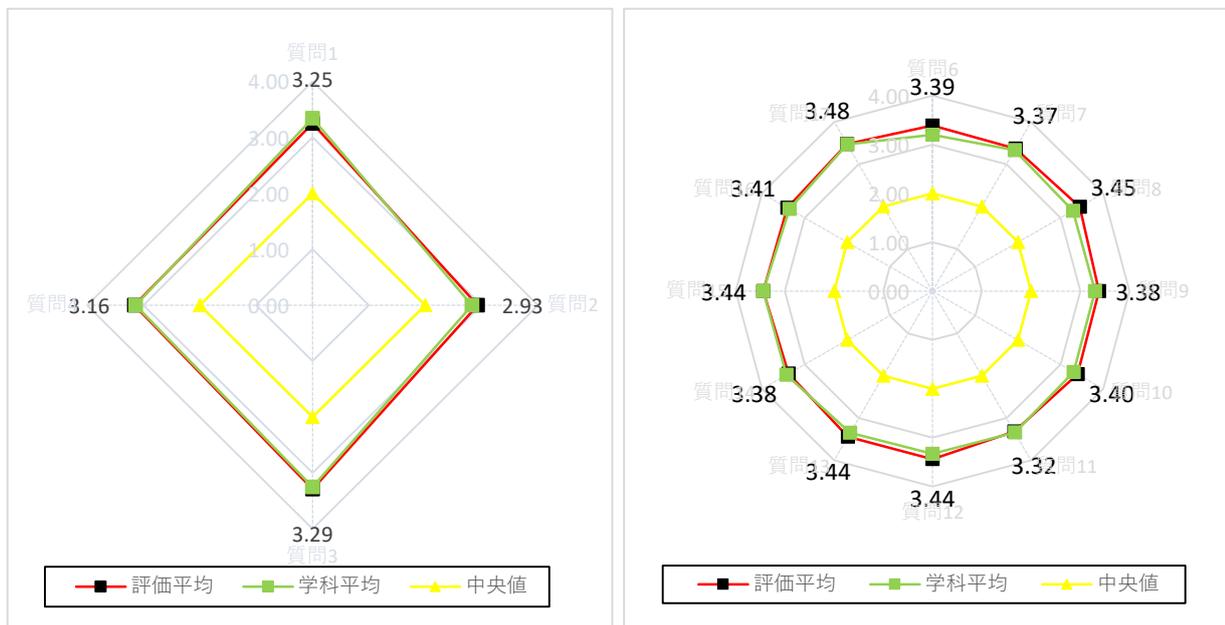
学科平均を上回っているのは、質問6「シラバスに関する説明」。下回っているのは、質問11「教科書や配布資料」、質問14「学生の質問等に対する対応」、質問16「双方向的な授業方法」であった。特に質問11に対する回答が低くなっているが、教科書を用いることなく、ノート講義を中心として行っているからであろうと推察している。大人数講義でもありなかなか資料を配布することが困難ではあるが、今後はウェブ等を活用して必要な物の配布を行っていくことも考えていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

質問14および16に対する評価について、学生と双方向に授業を進める工夫をもう少し行う予定である。リアクションペーパーを取ることを中心に、学生の質問に答える形式で進める予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		人間論と現代思想	228名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

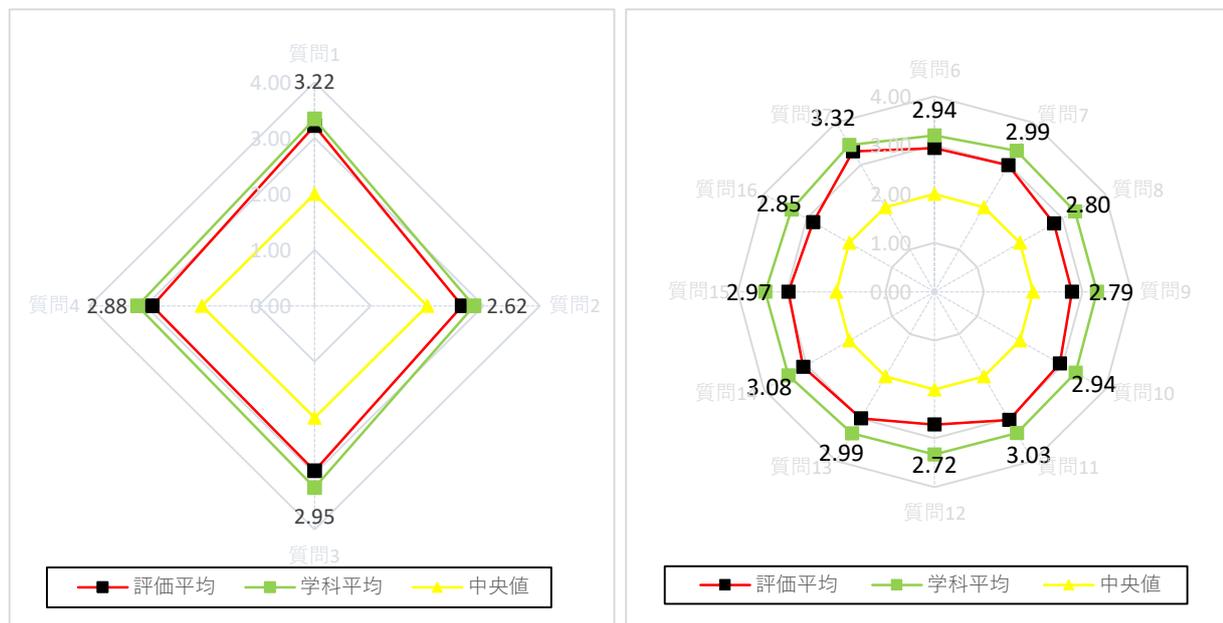
学科平均を明確に下回る評価項目は存在しない。若干下回っているのは、質問11「教科書や配布資料」、質問14「学生の質問等に対する対応」であったが、前期の同様の授業科目に比すれば、低下率は小さくなっている。教科書を使用しない旨をはっきりと伝えたからであると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生からの評価が若干平均値を下回った項目に関しては、リアクションペーパーを取ることを中心に、学生の質問に答える形式で進める予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		生涯学習論	194名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目は、前年度までは、子ども学部（子ども学科、心理カウンセリング学科）の学生を対象に後期に授業を実施していた。本年度より、子ども学部以外の学生を対象とする前期の授業が加わり、合計すると194名という大量の学生を対象とする授業となった。教師として、学部異なる学生、多様な専門分野と背景をもつ大人数の学生に対して行う授業の難しさを痛感した。評価では前期・後期に受講した学生を合計して平均値を出しているため、前期（神埼キャンパス）と後期（佐賀キャンパス）の学生の差は数値に表れていない。

まず、学生の受講態度への評価であるが、「私語・居眠り」に関する評価値が2.6と、私の担当するどの科目よりも低かった。とくに神埼キャンパスでの授業では、「スポーツ健康福祉学科の学生の私語がうるさい」という苦情が、他の学科の学生から出てきたことがあった。

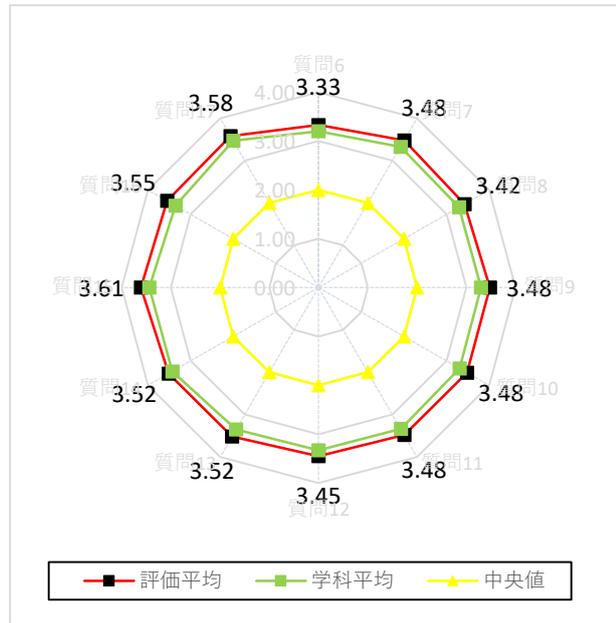
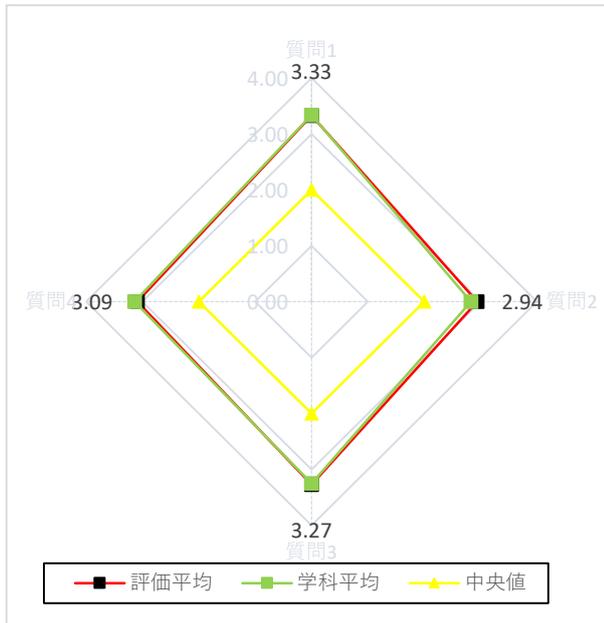
授業の方法についても、半数の項目で3.0に達しないなど、授業の効果があがっていないことが示され、反省点が多かった。学生の人数が多くなると、授業内容の工夫以外に、学生管理の方法も工夫が必要になり、後者がうまく行かないと前者の結果に反映する。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、前期、後期と大人数の学生対象の授業を展開せねばならない。第一に、教室管理、学生管理の方法を工夫し、私語の多い学生が真面目な学生の学習意欲を阻害することのない環境を作り出したい。第二に、授業のスピード、話す速さや発声、声の大きさに留意して、随所で学生の反応を確かめながら授業をすすめていくようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		脳と認知科学	59名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

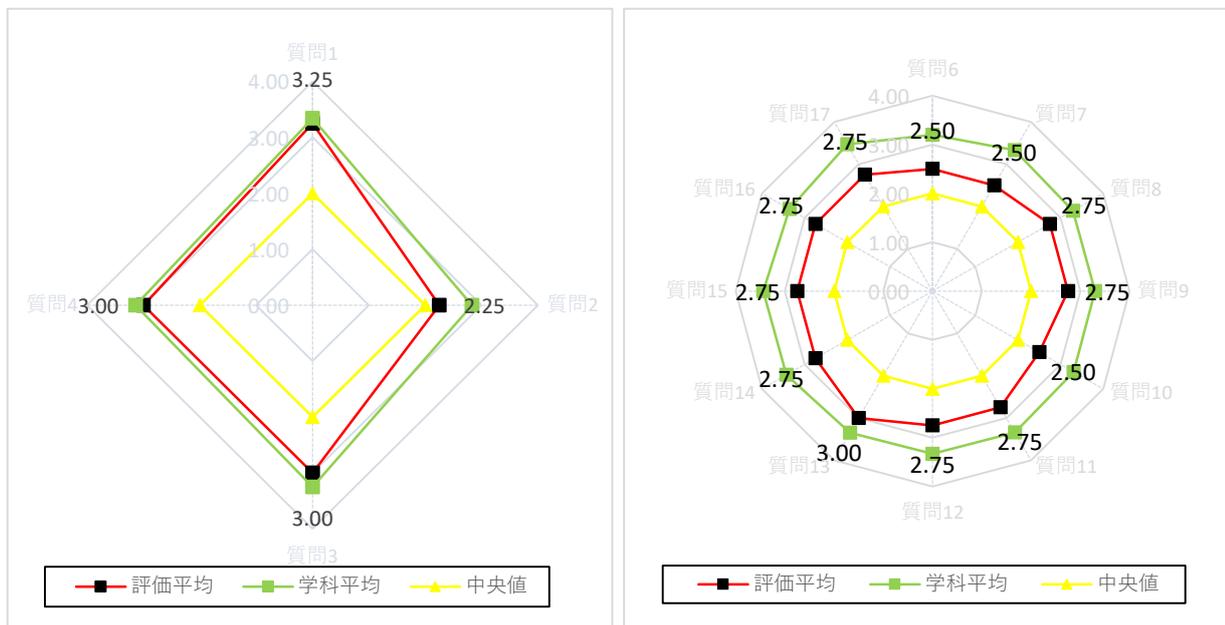
全体に良好

(3) 次年度に向けての取り組み

松尾先生に加わって頂き、より身近な内容にする

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		海外研修	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

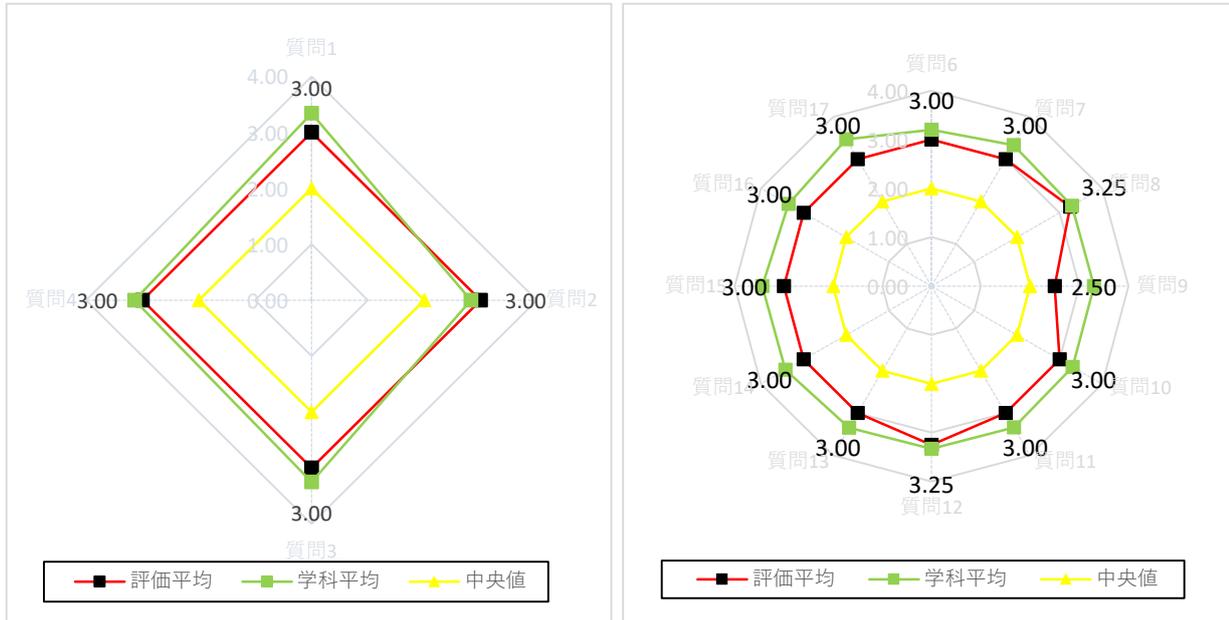
この授業は集中講座に向いてません。学生も教員も大変です。でも学生が頑張りましたので、ほめてあげたいです。受けてからそれぞれの派遣先にも頑張ったようです。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度この科目は新カリに入ってますので、次年度に向けて取り組みはありません。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		留学準備演習	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

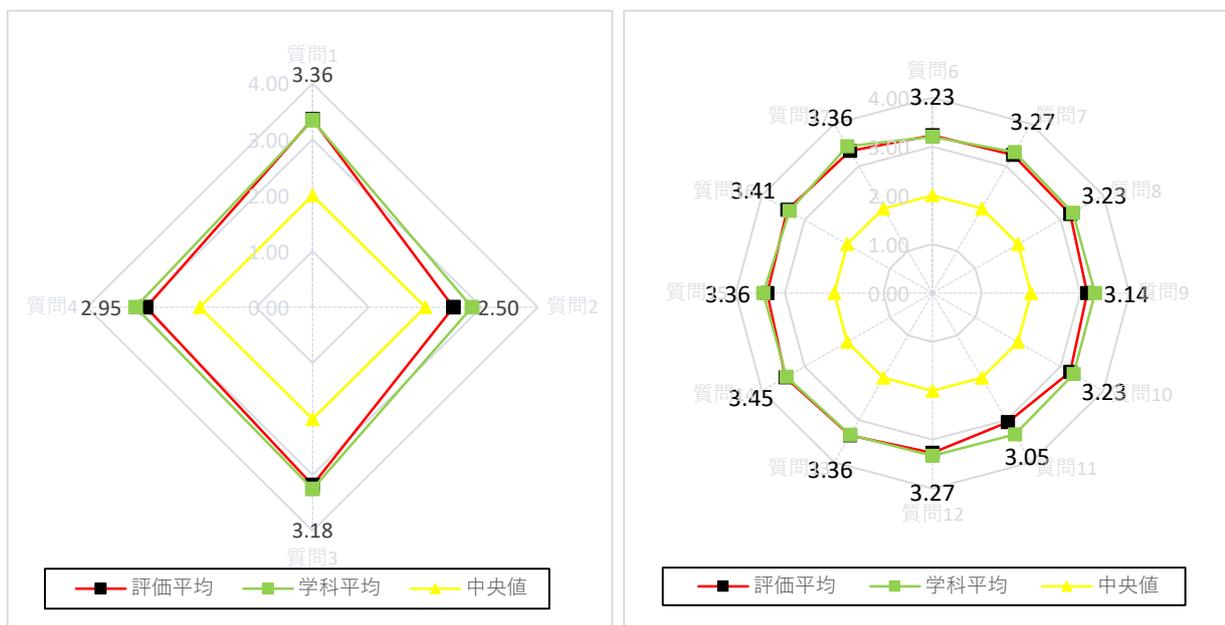
この科目は留学ですので、それぞれの派遣先で行っています。今年は危機管理に問題ありました。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は危機管理に関してはもっと地から入れるべきだと思います。後期に気管理のセミナーを企画しましたので、前期のプログラム前も企画したいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		Introduction to Japan and Japanese Culture	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

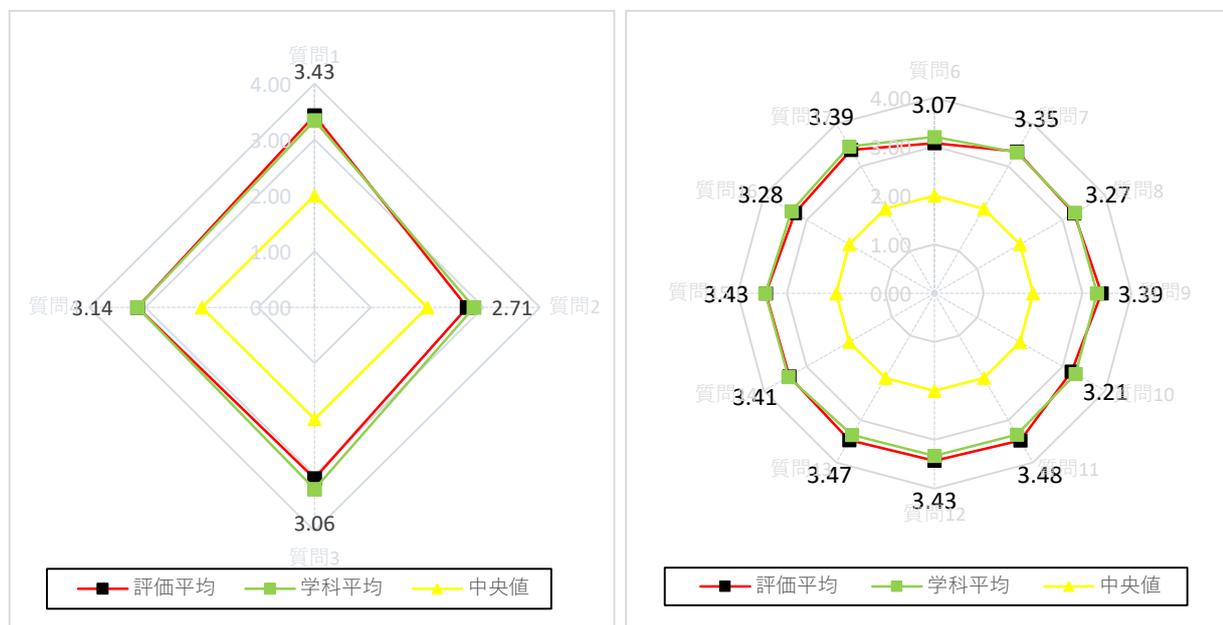
この科目は平均的な結果のようです。39名中少ない人数しか答えてないのでから分析する用がありません。学生に呼びかける必要があります。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業には日本人の学生と交換留学生と正規留学生が受けます。日本語能力も英語能力さまざまで、とりまとめが難しいですが、内容は充実していると思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		くらしと経済	194名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業評価の結果は、概ね学科平均に収斂するものとなった。わかりやすい説明を心がけた結果、いくつかの項目では学科平均を上回るものもあったが、逆に下回る項目もあった。これは今後改善していくべき課題である。客観的なデータとしてこのような授業評価があるのは、授業改善のモチベーションにもつながり、学生の意見を聞ける稀有な機会であり、非常に良い。くらしに役立つ経済の知識を習得していくことが授業の狙いであったが、授業評価から鑑みてこれは達成できたものとする。ただ、黒板の文字が見えにくいなどの意見もあり、今後改善していきたいと思う。□

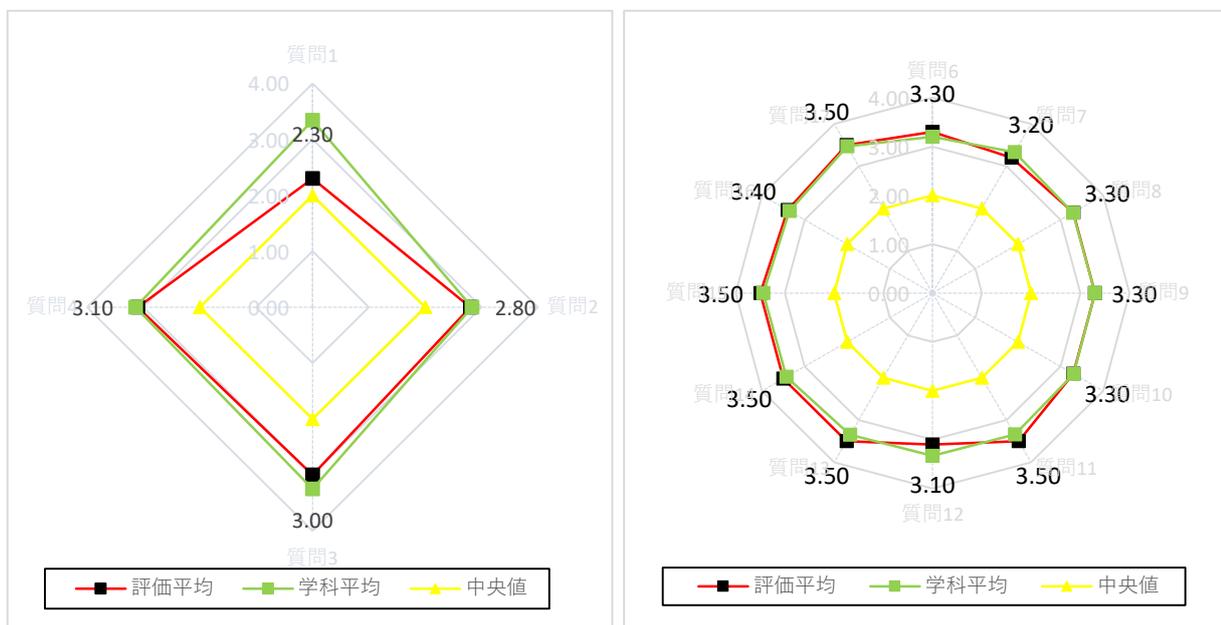
□

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明についての項目に関してはやや評価が低かったが、これはもう少し時間をさいて、丁寧に説明したいと思う。初回の授業で話してはいるのだが、多岐におよぶ項目で、理解しにくいのもかもしれないと思われる。したがって、今後は論点をしぼって、わかりやすく説明したいと思う。さらにシラバスそのものを使用しつつ説明を加えていきたいと思う。黒板の文字が見えにくい場合は、配布資料でカバーするなどしていきたい。次年度においては、わかりやすい資料の作成と説明をさらに向上させていきたいと考えている。また、学生諸君が飽きないように時々穴埋め形式のプリントなども作成し配布したいと思う。そして、学生諸君が経済に関する知識をできるだけ増やせるように全力で取り組んでいきたいと思う。□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		ジェンダー論	19名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目の履修者数は19名であるが、受講態度については個人差が大きかった。ほとんど休まずに出席する学生たちがいる一方で、失格ぎりぎりの学生たちが相当数おり、平均すると非常に低い出席率となったのは残念である。また学生のシラバスの活用ができていなかった。

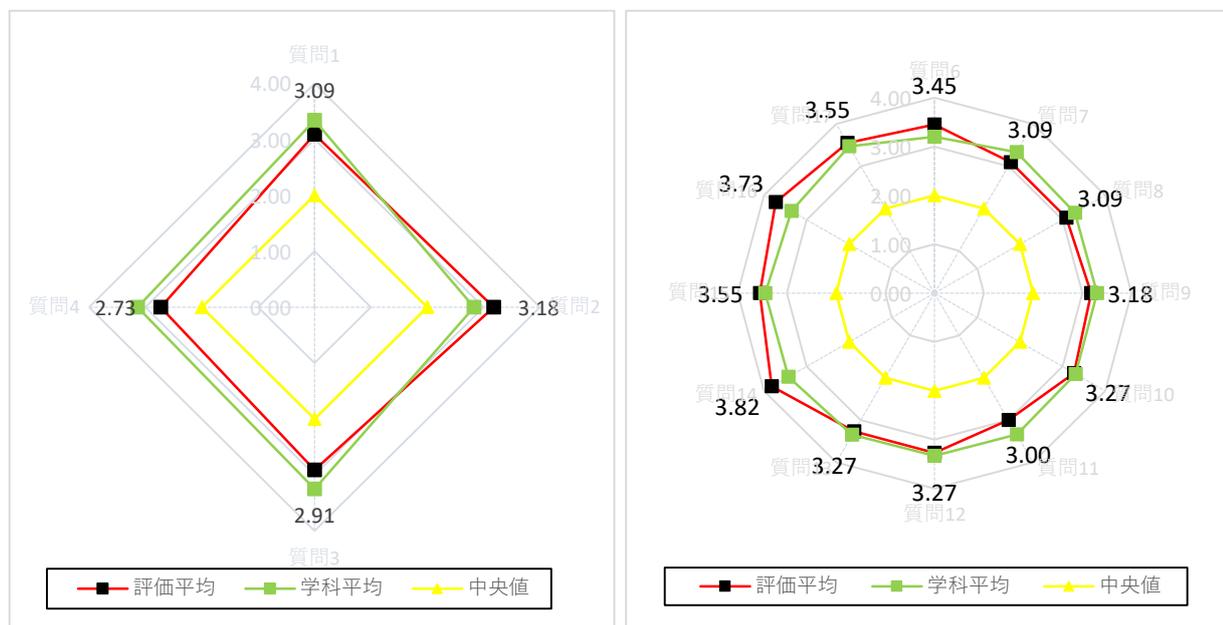
授業では、少人数を活かしたグループワークや発表を取り入れた。その結果、ほとんどの科目が学科平均をわずかであるが上回った。学生の質問への対応、公平さ、双方向的なやりとりという点での評価が高かったのには手ごたえを感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

受講生が19人という少人数だからこそできる双方向的やりとりについて、真に学生の理解を深めるアクティブラーニングとすることをめざして、さらなる工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		人類学	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

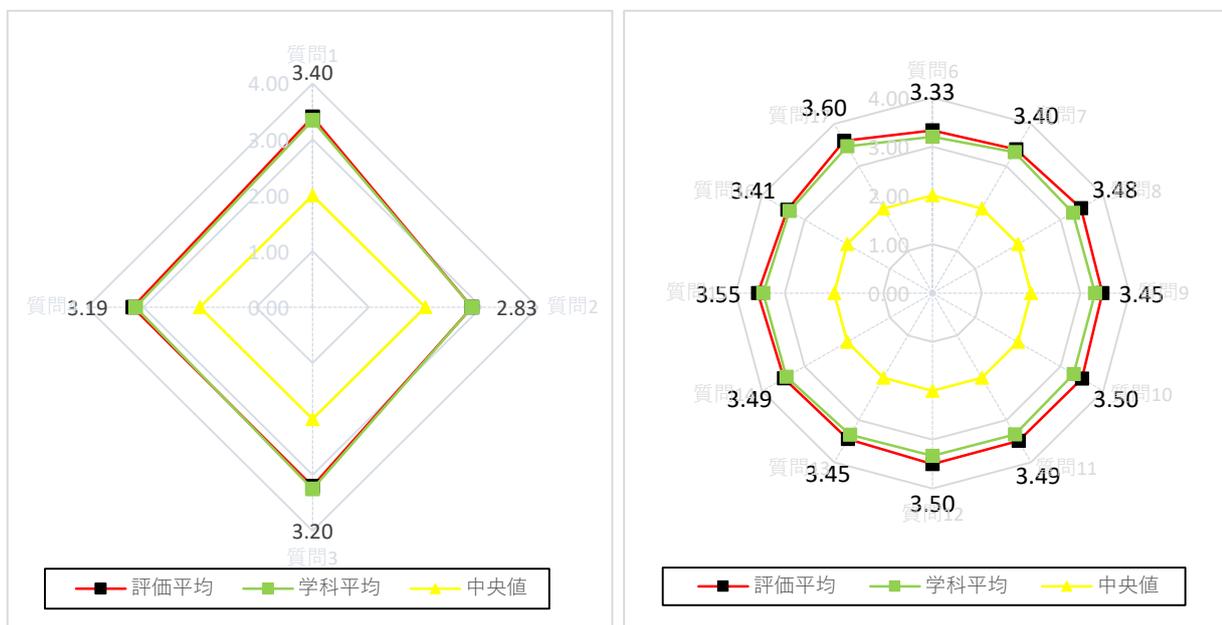
質問6-17で学科平均を下回っている分野がいくつかあり、目標、興味、配布資料といった部分においてそうである。より明確な講義目標が必要のようだ。

(3) 次年度に向けての取り組み

15回で出来ることは限られるが、より明確な講義目的を示すような講義資料と講義展開につとめたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		化学入門	156名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

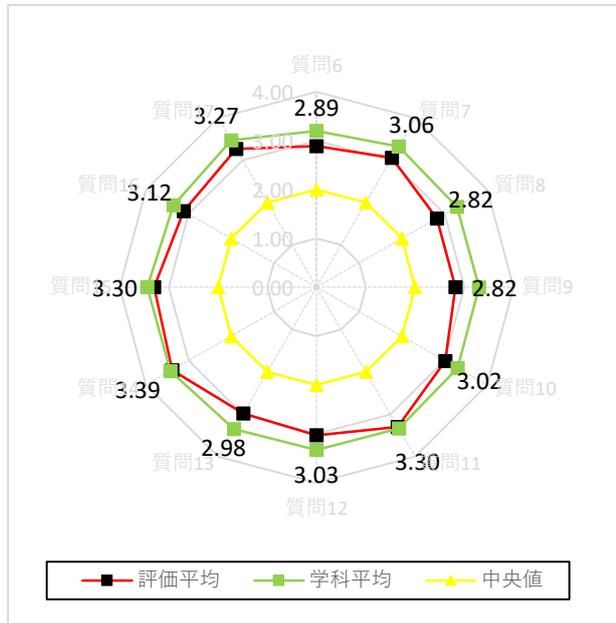
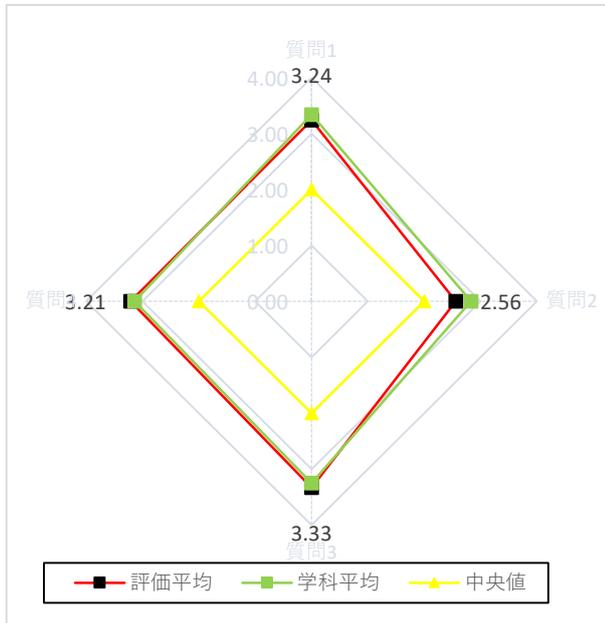
この授業は、教養の科目なので全学科から多くの学生が受講した。そのため、おしゃべりが多く、何度も注意しながらの授業となった。化学嫌いの学生も受講していることから、授業に集中するようにと、身近な例を挙げて授業に興味を持ってもらえるように工夫した。その結果、評価については平均値と同じか、それよりも少し高い評価もあった。中身を充実させることにより、大人数でも評価の高い授業となることがわかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も多くの学生が受講することが予想される。なるべく化学に興味のある学生に受講してほしいが、そうでもない学生も受講すると思われるため、今年度のように興味を持つように内容を充実した授業を行うようにしたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		統計学の基礎	77名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

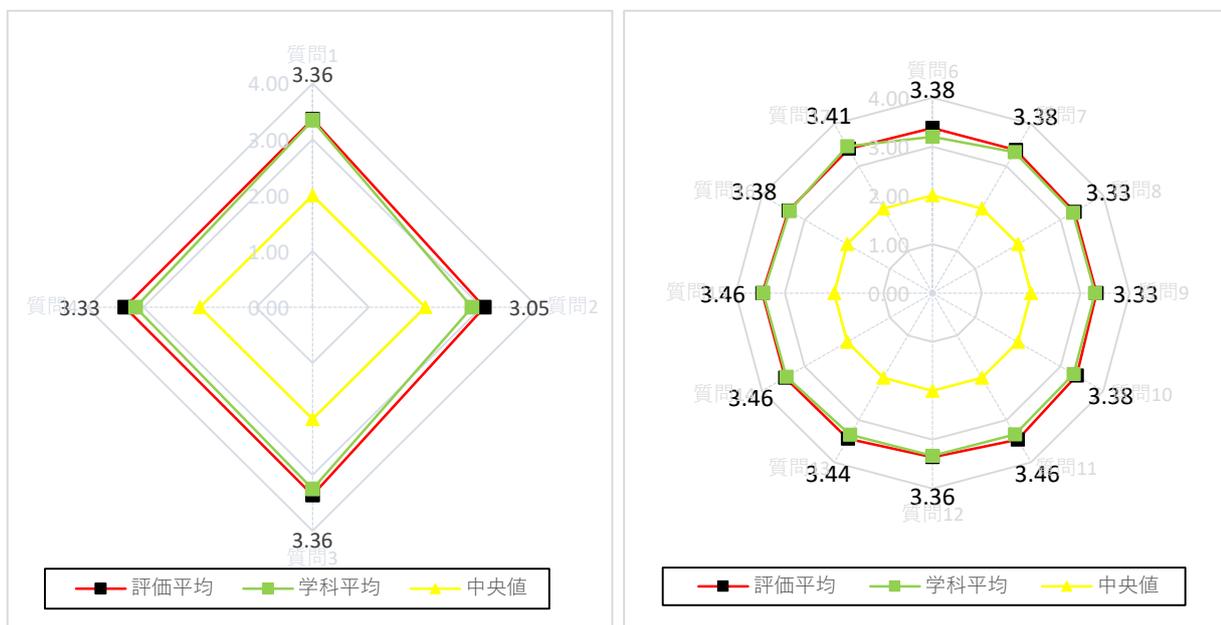
講義の内容に関する情報は配付資料に網羅したので、スライドのページめくりが早かったかも知れない。

(3) 次年度に向けての取り組み

スライドのページめくりのスピードを調整する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		地球環境科学	126名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

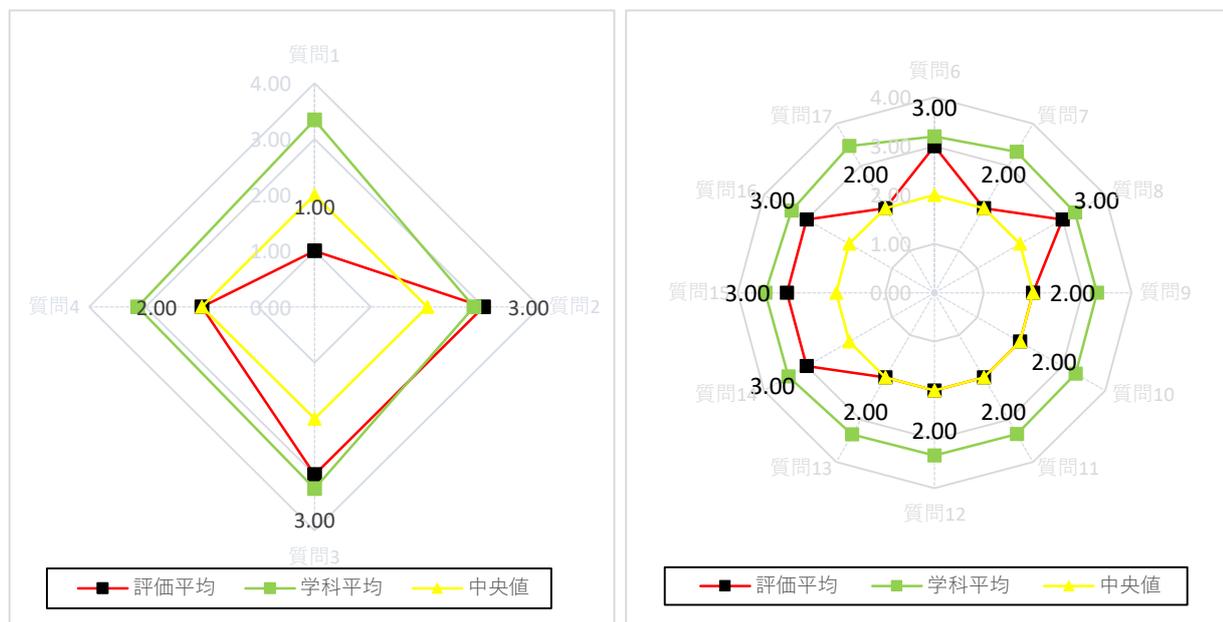
シラバスについての説明において、理解できていない学生がみられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

理系科目が不得意な学生もいることから、身近な生活における題材を取り上げることを考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 リハビリテーション学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		総合英語 I	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

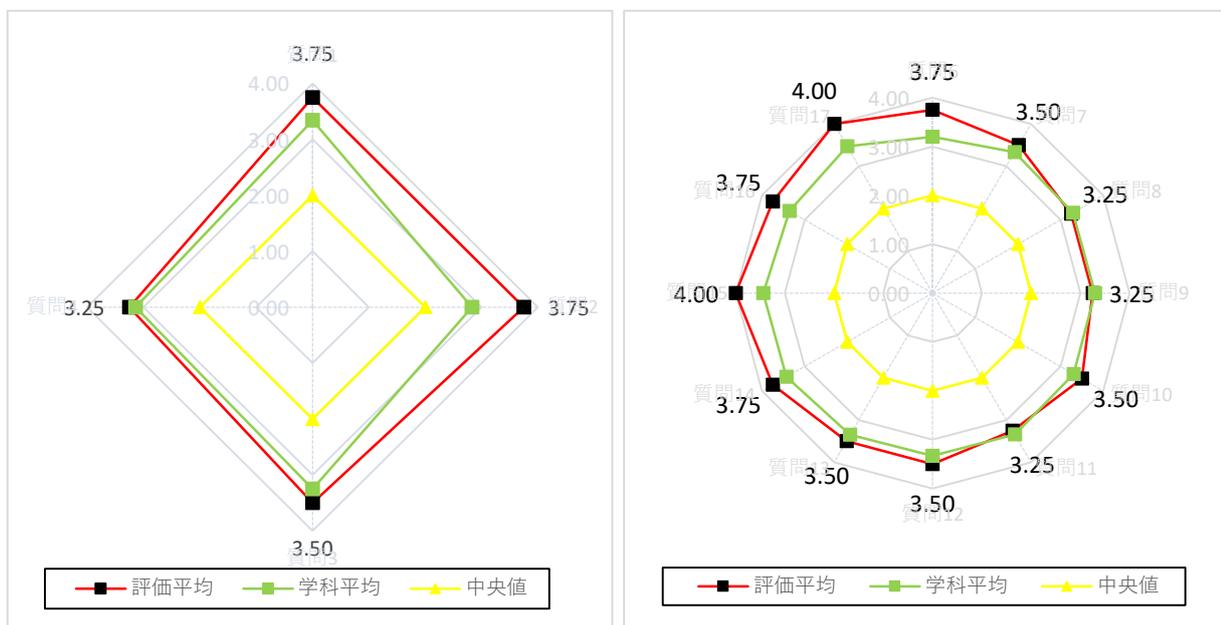
アンケートに参加してくれたのが一人で、この結果はその個人の数字ということになる。再履修の授業故一般的に理解、自己評価が低めで、数値的に2が多いものになってしまっていると考えられる。質問9から13にわたる部分の学生個人の理解度が低めで、質問14から16にわたる授業中のインターアクションについての項目が比較的満足しているというところだろうか。17が少し低めになってしまったのは今後の授業の参考にしたいと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

2018年度から再履修クラスは廃止となるので、このような人数での授業は今後開講されないことになる。したがって再履修クラスへの取り組みの改善はもうすることができないが、今後もでてくるであろう理解度の低い学生が授業を受けて少しでもよかったと思えるような授業内容をこのアンケートの結果を少しでも参考にして実現していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		総合英語Ⅱ	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

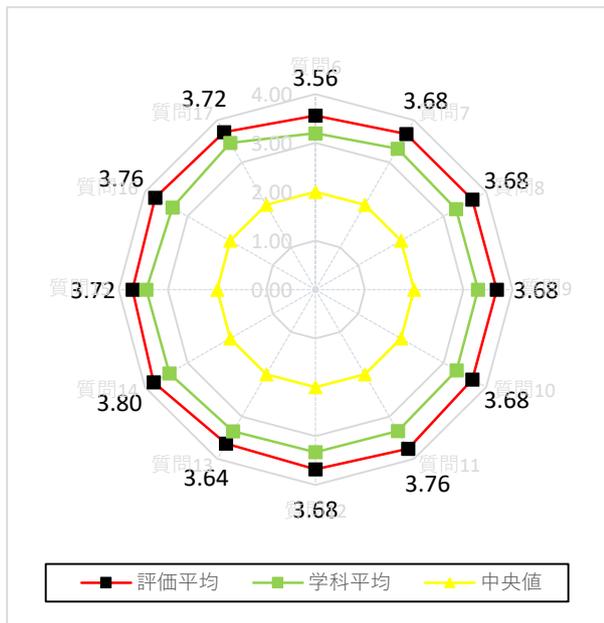
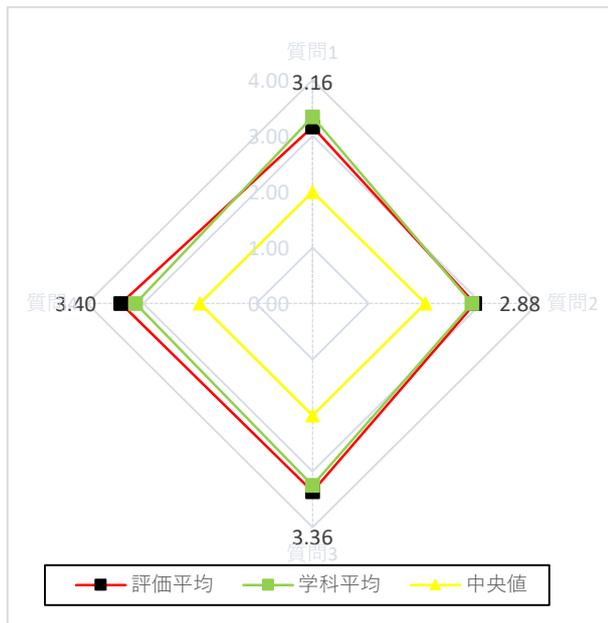
学生の評価は概ね良好であると思われる。项目的に質問8、質問9が学科平均とほぼ同じぐらい、質問11が学科平均より弱冠低めというところが問題点だったかと思う。質問8、9については、総合教材を用いた英語の読解力強化という目標のため、文章を構造的に考えて読んでいくという演習を行ったつもりだったが、おそらくはその内容がすこし理解しづらかったのかなと考えている。質問2に関しては他のクラス同様、シラバスを常に参照していたことで高評価につながっているのだと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

本年度の後期にも総合英語がある。前年度と概ねやり方は同じスタイルで計画しているので、この授業評価アンケートの結果を踏まえ、文章の意味を分析していくプロセスを少しでもわかりやすくしていきたいと思う。とはいえ、基本的な文法を踏まえていない学生についてはやはり実践的な読解となるとハードルが高いと思われるので、個別指導のパートで授業内容の理解度に対して少しでもフォローをいれるようにしてみたいと思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		英語表現Ⅱ	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

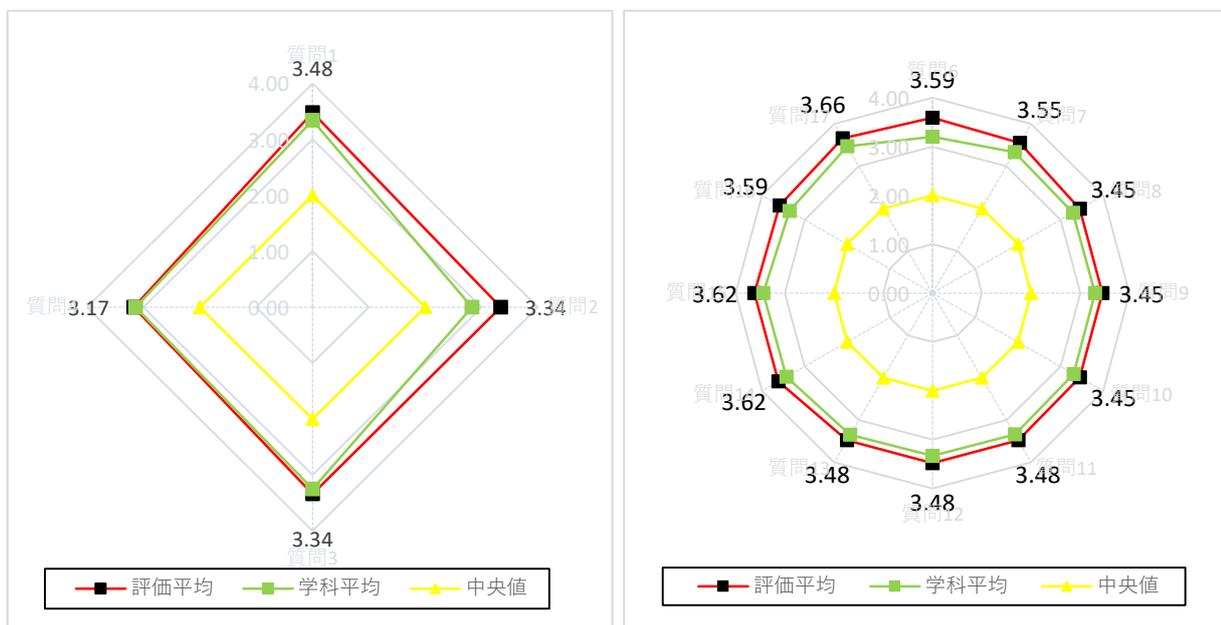
結果は平均より上です。次年度も同じぐらいキープしたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も高い評価を目指して頑張ります。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		英語表現Ⅱ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

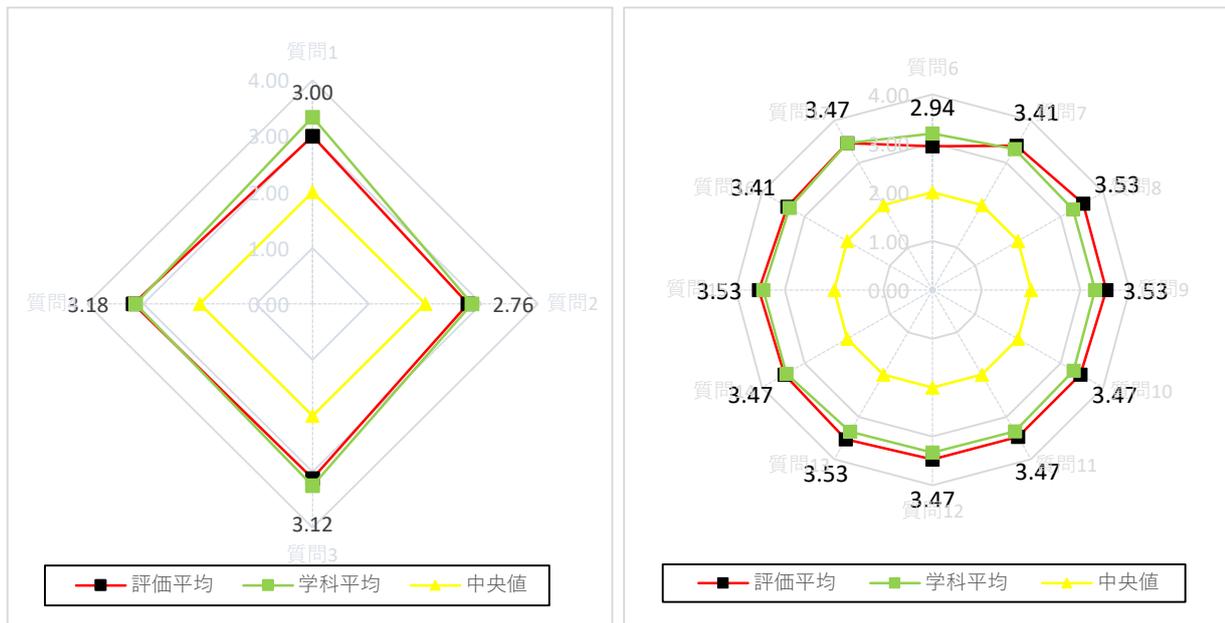
学生の評価は概ね満足している様子がうかがえる。シラバスに関しては毎回の授業で現在位置を確認し続けたことが高評価につながっているのだろうと思われる。予習、復習や欠席をしたときなどにも常にシラバスは参考にしてもらいたいのので今後ともこの方針は続けるつもりである。

(3) 次年度に向けての取り組み

本年度も基本的に同じ方針で現在授業を続けているつもりである。現在まだ3時間目であるが、例年通り学生の様子もだんだん安定してきたように思われる。英作文の基礎を学ぶという本授業で最低限身につけてもらいたいものを取りこぼすことなく学生には過ごしてほしいと思っている。例年気を配っていることではあるが、学生個人個人になるべく目を向け、できるだけ細やかな指導をしていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 リハビリテーション 子ども		グローバル・コミュニケーション(英語)	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

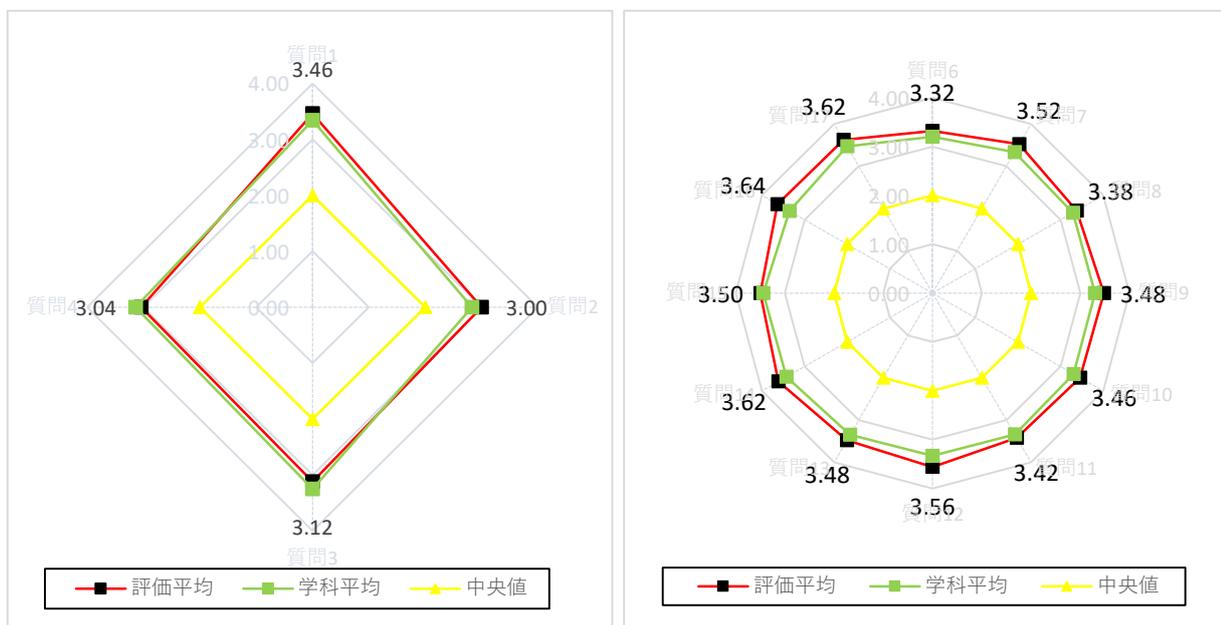
結果はいいと思います。ただ、質問6に対してもっと丁寧に説明する必要あると思います。ハードな科目なので、学生にサポート大いにしたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度もいつもと同じぐらいのパワーで頑張りたいです。学部の先生とのやり取りをできるだけ早めにした
いと思います。予算の大幅減額にどう対応すればいいか悩むところでもあります。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康・スポーツ科学	117名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

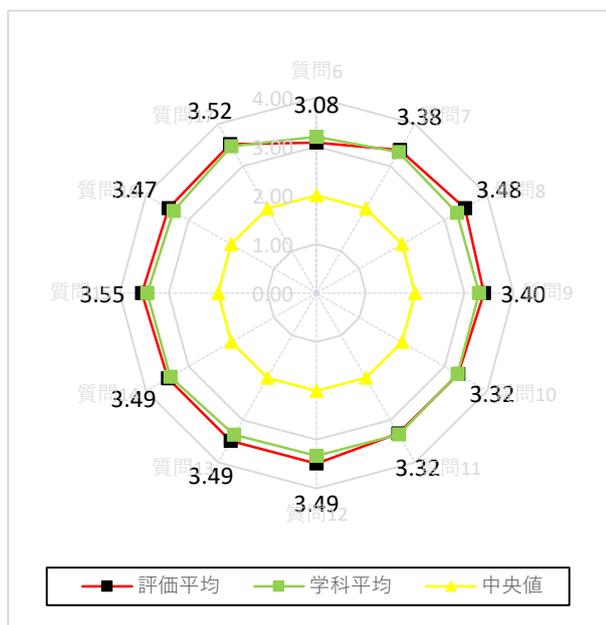
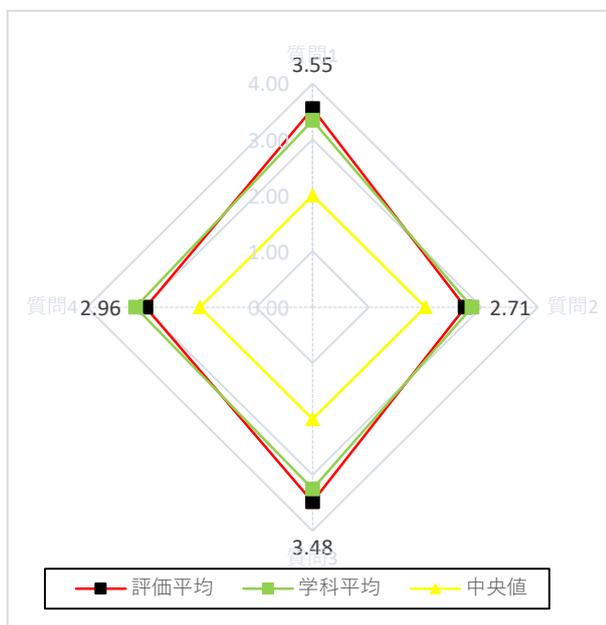
学科平均と比較してほとんどの項目で上回っていたことから、一定の評価は出来ると思われる。これは、昨年の反省を活かし、毎回の授業で授業の感想や質問を受け付ける時間を設け、積極的に双方向の授業となるような工夫をしたことによるものと考えられる。次年度でもさらに工夫をしていきたい。しかし、質問3、4では他の項目よりも値が低いのをみると、学生が主体的に取り組むような授業展開をしていくことが課題として挙げられる。また、自由記述に一部の学生による「授業中の態度が悪く、授業に集中できなかった」旨のコメントがあったことに関して、コメントした学生に対し申し訳なく思うと同時に、その指摘のあった学生に対しての対応も考えていく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

質問3、4で低い値が出ており、主体的に取り組むような授業展開が求められる。そこで、次年度からの授業においては今の双方向の授業からさらに、学生へ投げかける質問を増やし、1回の授業時間内で完結せず、15回トータルで学生が考えていくような授業展開を図っていく。また、自由記述に記された一部の学生による授業の雰囲気悪化に関して、1回目の授業の際に十分に注意を促したり、注意をしても改善が見られない場合の対応芳の仕方も検討していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 リハビリテーション学部	健康栄養 リハビリテーション		フィットネス・スポーツ	79名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

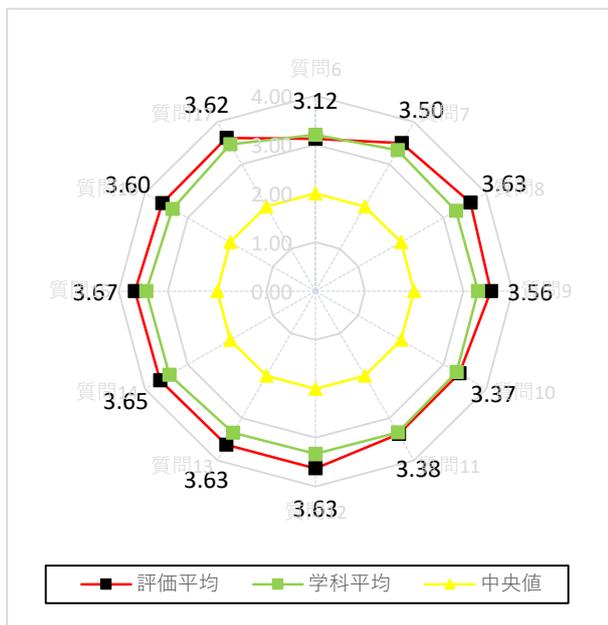
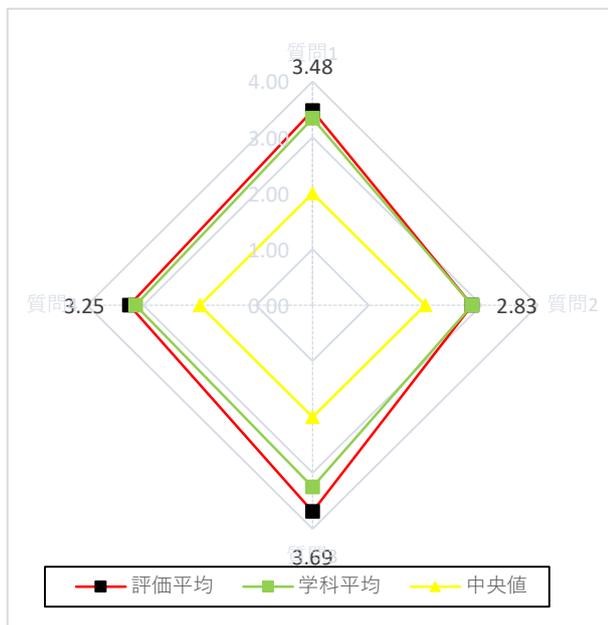
新たな学校生活、初めて出会う同級生や教師など不安も多かったとおもわれるが、そんな中でも体を動かすことうまくコミュニケーションがとれたのではないかと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

新しいカリキュラムに少しでも早く慣れるよう、講義内容や目的をはっきりさせて進めていきたい。うまくコミュニケーションが取れるような楽しい雰囲気の中で体力アップと健康作り。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		フィットネス・スポーツ	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

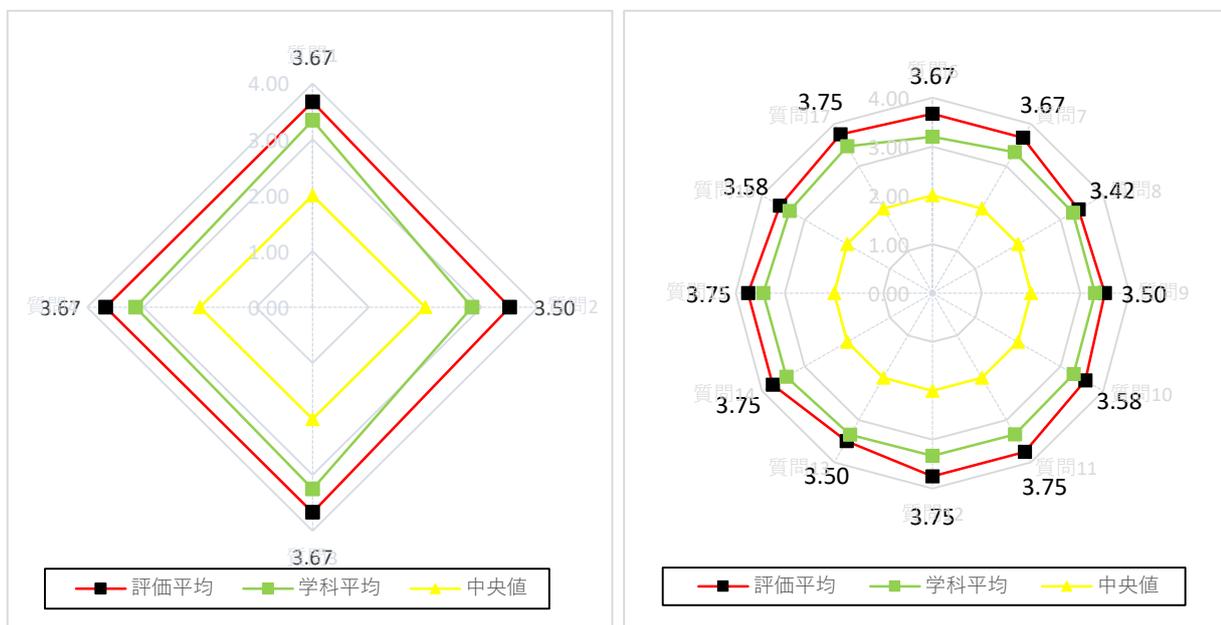
学科平均と比較してほとんどの項目がその値を上回っていた。
 質問3をみてわかるように、ほとんどのが学生が授業に積極的に参加していることが伺える。
 授業を進めるにあたって、出来る限り多くの時間を学生が動く時間を確保していったことが今回の結果につながったと推察される。
 また、自由記述でも「楽しさ」について言及している学生や「気分転換」といったような精神的健康の改善をあげた学生もいたことから、
 大学体育の目的にも沿った授業がなされたと評価できる。
 しかし、質問6や自由記述で「競技のルール説明をもう少ししてほしい」とあったことから、授業展開の仕方に改善すべき点はあると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回は学生が動く時間を多く確保したため、ルールや技術の解説の時間をできる限り減らしたことが学生の評価につながったと考えられる。
 聞く時間と動く時間のバランスを考えて授業展開をしていくことを検討する。
 また、実施するスポーツの種類が多い分学生にとっては様々なスポーツを体感できることは非常に多くのメリットがあると思われる反面、一つ一つのスポーツへの理解が浅くなっている可能性がある。そのため、どこまでそのスポーツへの理解が深まっているかのチェックなど、学生が自身を評価するようなセルフモニタリングシートを作成し授業毎に記入するような授業展開を検討していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学セミナーⅡ	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

出席率、授業計画の理解、授業への取り組みについて、大変良好であり、課題に対しても積極的に参加することができていた。

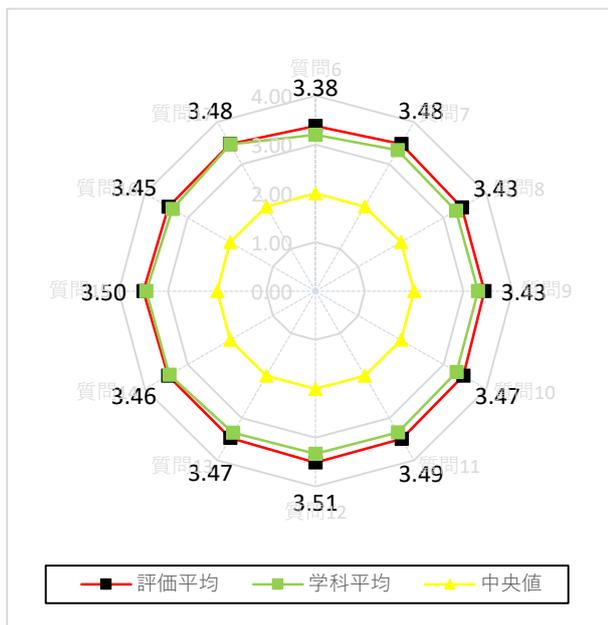
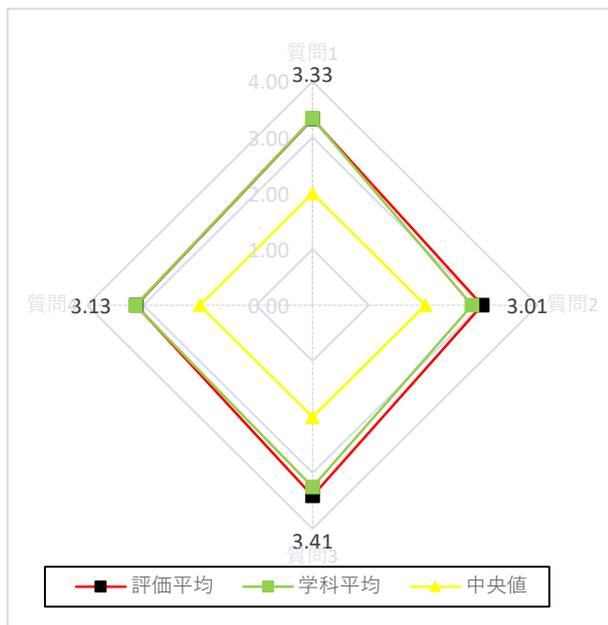
グループでの活動を中心に、対象とする地域の地域診断、地域住民に対する栄養教室の企画、実施、運用等を実際に経験する授業であり、この一連の流れを経験することにより、学生たちは自分自身の意識・態度の変化を顕著に感じることができている。

(3) 次年度に向けての取り組み

栄養教室実施における評価、反省等を次年度の内容に反映するよう努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学概論	112名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

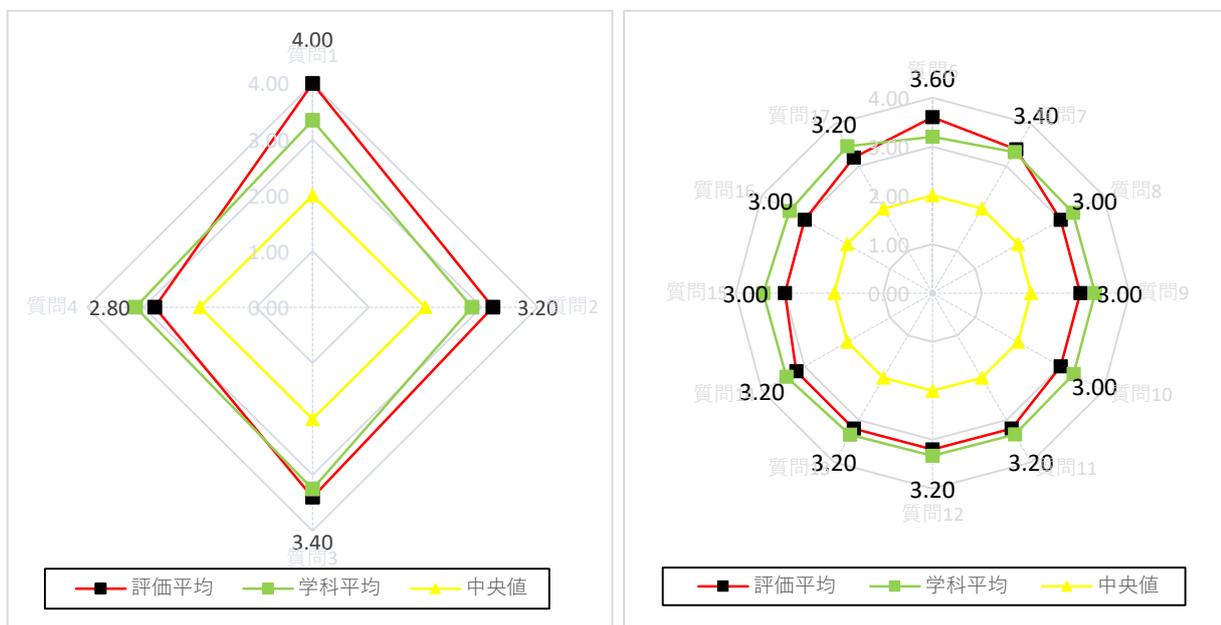
学生の声を真摯に受け止めより改善に努めたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の声を真摯に受け止めより改善に努めたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学セミナー I	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

解答率が異常に低い(5/38名:13.2%)ことから参考程度として解析する。学生自身の自己評価は、全て出席をしており授業に対する真摯な態度が見受けられる。しかし、自分自身で授業を理解するための工夫はやや欠けていると感じている学生の授業評価であった。次に「シラバス(授業計画)について説明がありましたか。」や「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」については、学科平均と同等かそれ以上の評価であった。

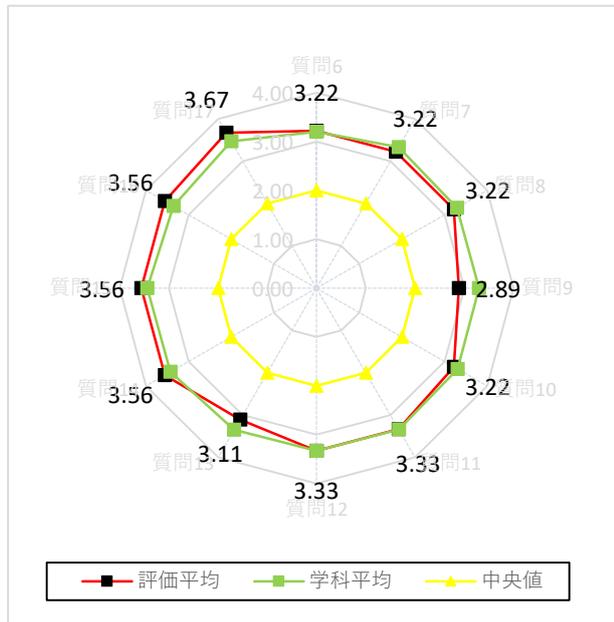
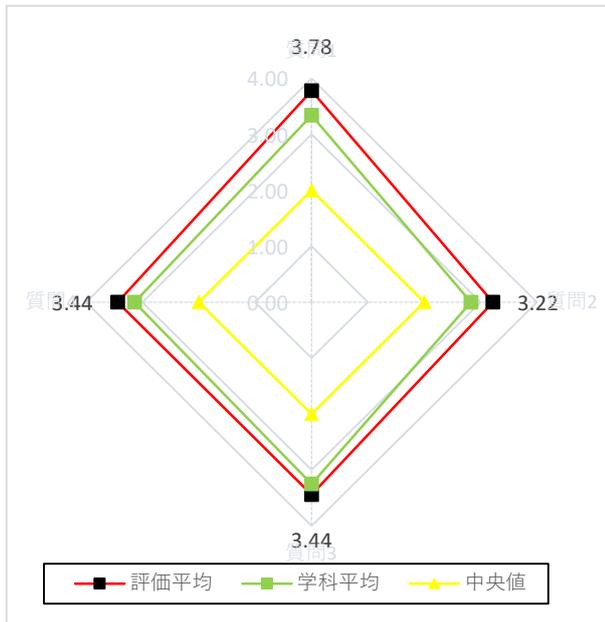
質問8~14及び17に関する評価は、授業自体が試行錯誤の状態ですすめてきたことから学科平均をわずかに下回っており、改善の余地が見受けられる。「公平に学生に対応しましたか。」に関しては、授業進行を気にし過ぎて熱心な学生に対しての指導を行った生で、講義中の態度が悪い学生を置き去りにした感があった。今後はこの点に関してもより公平性を高める努力が必要であると考えます。「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」この点はかなり気がけて行っていたつもりであるが、学生からの質問項目がほとんど出ていないことから、この点の聞き取りを行う必要があると考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

本年度の事業評価をもとに授業展開や内容の構成を再構築しながら満足度の高い教育を実施して行きたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学セミナー I	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

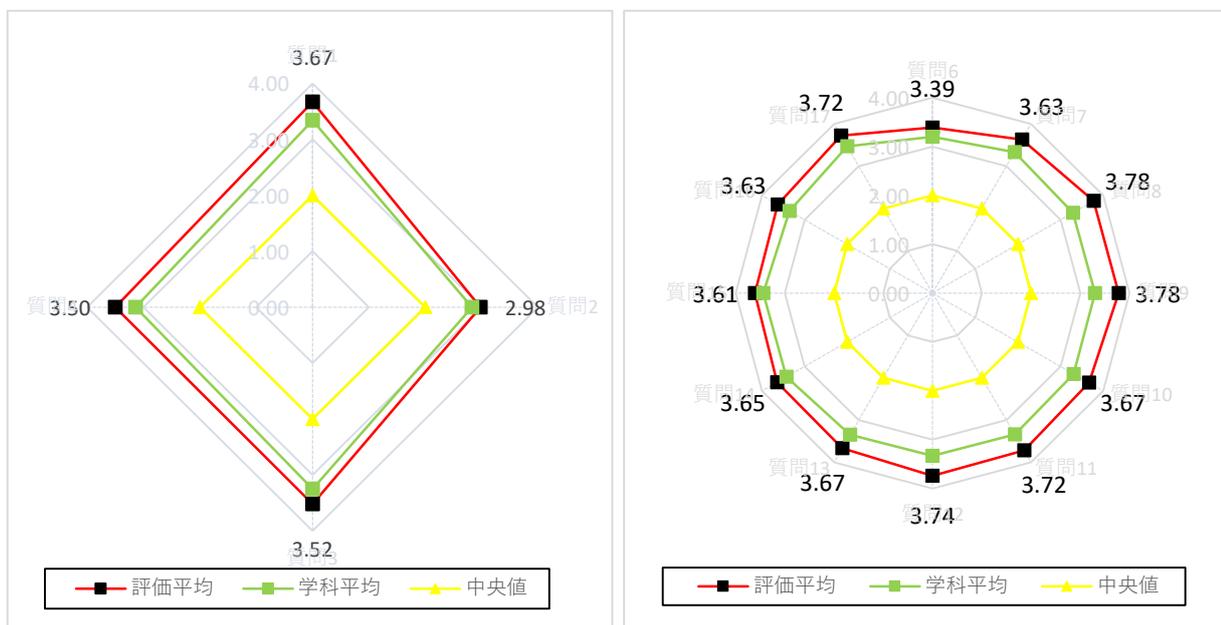
学生の意見を真摯に受け止め改善に努めたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の意見を真摯に受け止め改善に努めたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆衛生学 I	112名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

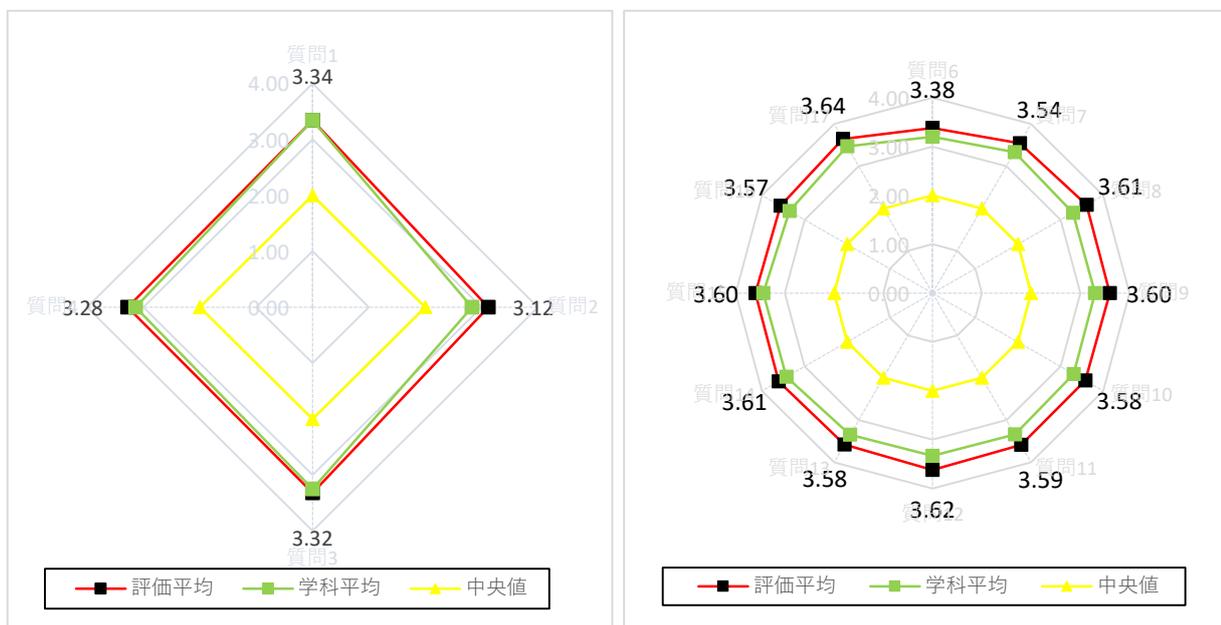
健康栄養学科1年生を対象とした必修科目である。すべての項目が学科平均以上であった。しかしながら、シラバスに関連した質問への評価が低かった点が特徴的である。質問(2)のシラバスの活用については、特に活用を指示することもなく、またシラバスを見ながらでない講義がわからないというようなスタイルの講義ではないため、評価が低かったものと思われる。また、「シラバス」を見なさい等という指示、あるいはシラバスをコピーして配布するなどのことを行っていないためである。

(3) 次年度に向けての取り組み

必修科目は、科目への興味関心が乏しい学生たちをも含めて対象としているにもかかわらず、高い評価を得ている。また112名を対象とした大講義室での一斉授業であるにもかかわらず、高い評価を得た。この評価を維持できるように今後も精進したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆衛生学Ⅱ	122名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

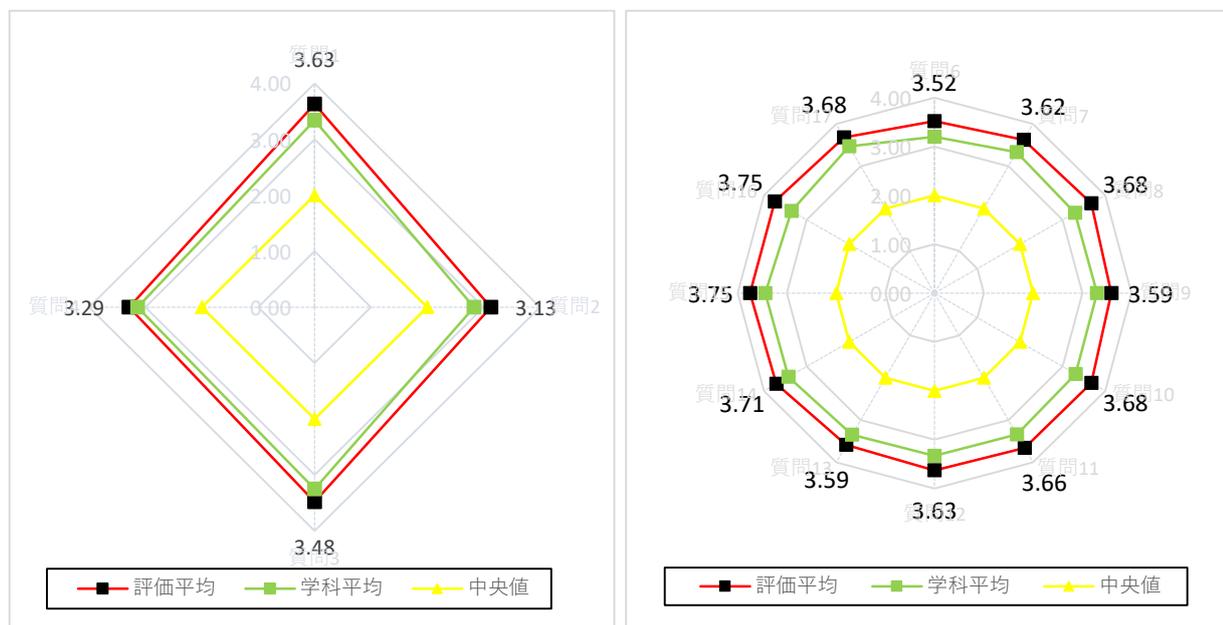
健康栄養学科2年生を対象とした必修科目である。すべての項目が学科平均値、あるいは平均値以上であった。しかしながら、シラバスに関連した質問への評価が低かった点が特徴的である。質問(6)のシラバスの説明の有無については、シラバスを見ながらでないで講義がわからないというようなスタイルの講義ではないため、評価が低かったものと思われる。また、「シラバスを見なさい」等という指示、あるいはシラバスをコピーして配布するなどのことを行っていないためである。

(3) 次年度に向けての取り組み

必修科目は、科目への興味関心が乏しい学生たちをも含めて対象としているにもかかわらず、高い評価を得ている。また122名を対象とした大講義室での一斉授業であるにもかかわらず、高い評価を得た。この評価をさらに高くできるように今後も精進したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆衛生学実習	99名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

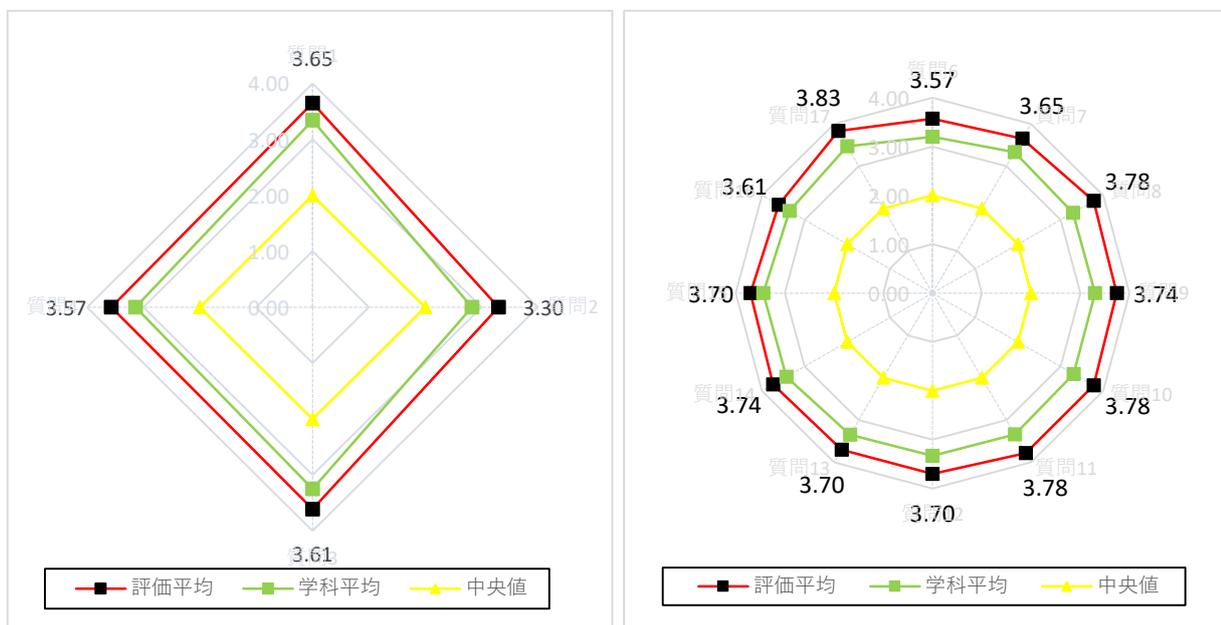
管理栄養士資格を取得を希望する学生にとって必修となる3年生を対象とした実習である。99名の学生（ほぼ全員）が受講した。前半はグループ学習、後半は感染症対策の実技修得の2本立てである。すべての項目が学科平均または平均以上の評価であった。このことから、学生から一定の評価を得ている実習であると判断している。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習科目は、グループでのアクティブラーニング形式（前半）であるため、興味関心が乏しい学生たちは面倒だったり、グループ内でトラブルになりやすいのだが、それにもかかわらず、高い評価を得ている。この評価を維持できるように今後も精進したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆衛生学Ⅲ	117名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

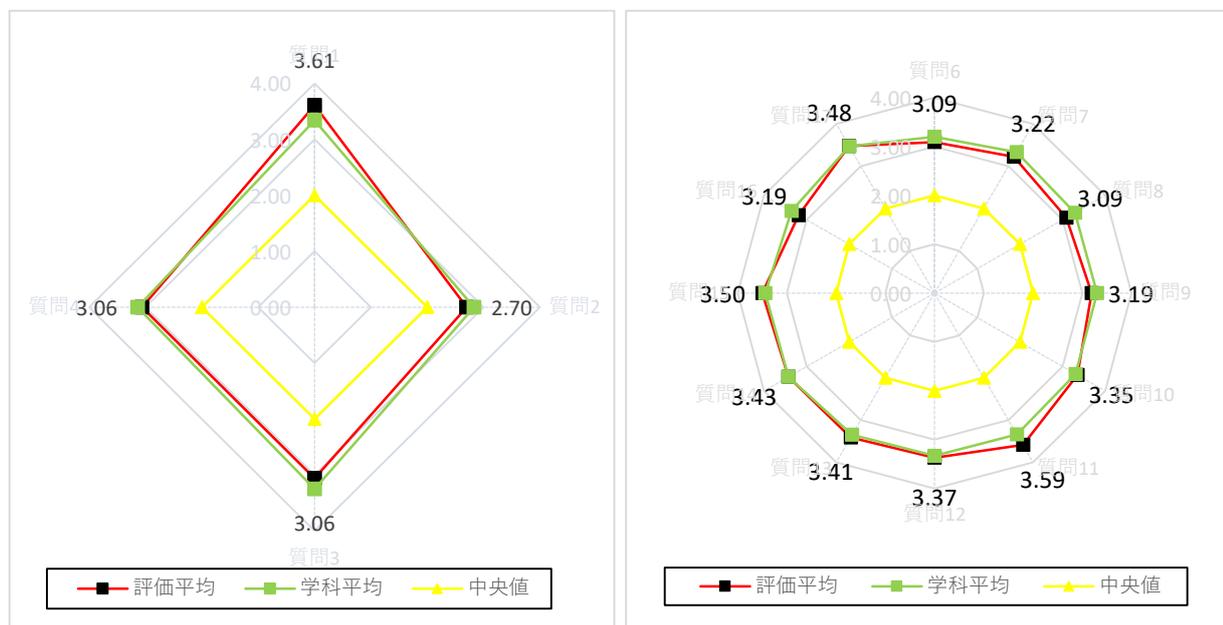
健康栄養学科2年生後期を対象とした管理栄養士資格の取得を希望する学生に対しての必修科目である。すべての項目が学科平均以上であった。感染症、社会保障制度等が主な学習内容である。学生たちにとって身近ではない問題が多いため身近な問題に置き換える工夫、随所に既出国家試験問題を取り入れ解かせることで達成感を味あわせる工夫、身近な将来の問題として考えさせる工夫をしている。その点が評価されたのだと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

2年生後期という多忙な時期、中だるいが心配される時期である。そのような中、学生から高い評価を得た。この評価に慢心せず、さらに高い評価が得られるように精進したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学	112名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

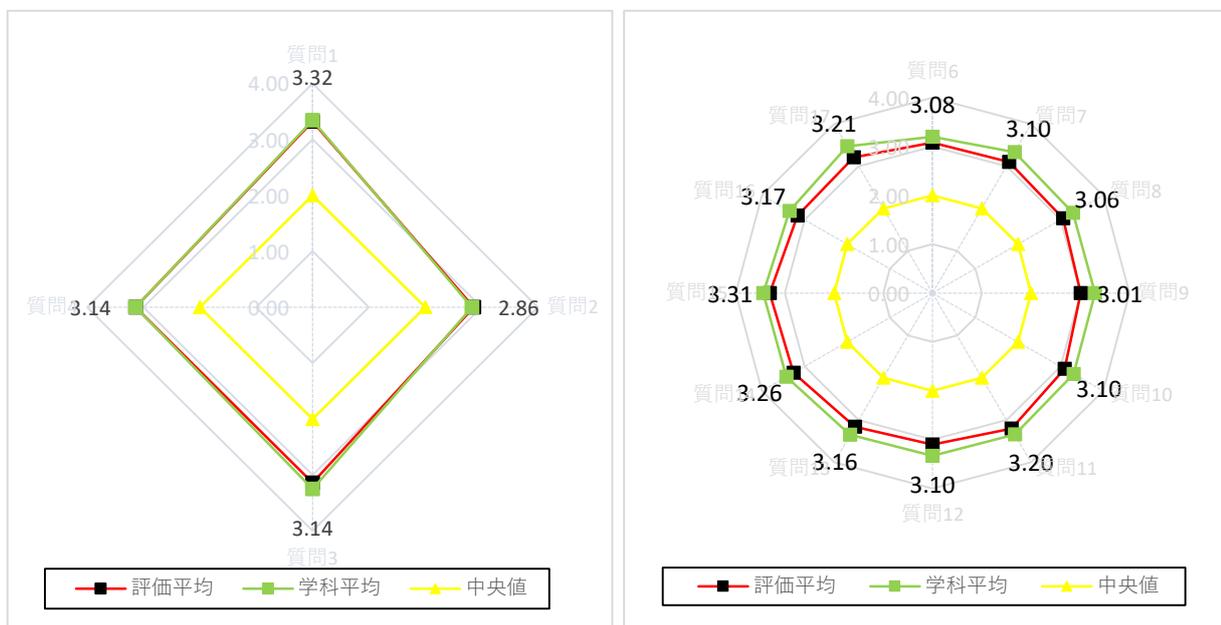
食品学の授業評価においては、いずれの項目においても学科平均とほぼ同じであった。従って特に大きな課題は無いと思われた。ただし「シラバスを活用しましたか」と「シラバスについて説明がありましたか」が少し学科平均より低いので、授業当初にシラバスの活用を促す必要があると思われる。本学への赴任1年目であったので、学生の平均的な学力やバラツキ度合いがわからなかったのが、今後の改善の余地があると考えている。本授業は専門科目の中では基礎的な分野であるが、国家試験に向けては大切な科目の一つでもある。多くの学生は、国家試験の為だけではなく、食品に関しては興味関心を持っていると感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

食品学の授業評価においては、ほとんどの項目において学科平均レベルにあったので、大きな課題は無いようであった。しかし、学生の中には明らかに理解ができていない者や理解に苦労している者も見られた。食品学の基本的な知識において、より丁寧な説明が必要であると感じている。また、前年度も小テストや課題プリントを実施したことは良かったと思うので、より試験勉強に直結するように小テスト、課題、定期試験をリンクさせて臨みたいと考えている。また、学生が授業に能動的に参加するように、板書やパワーポイントの使い方を考えたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学実験	113名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

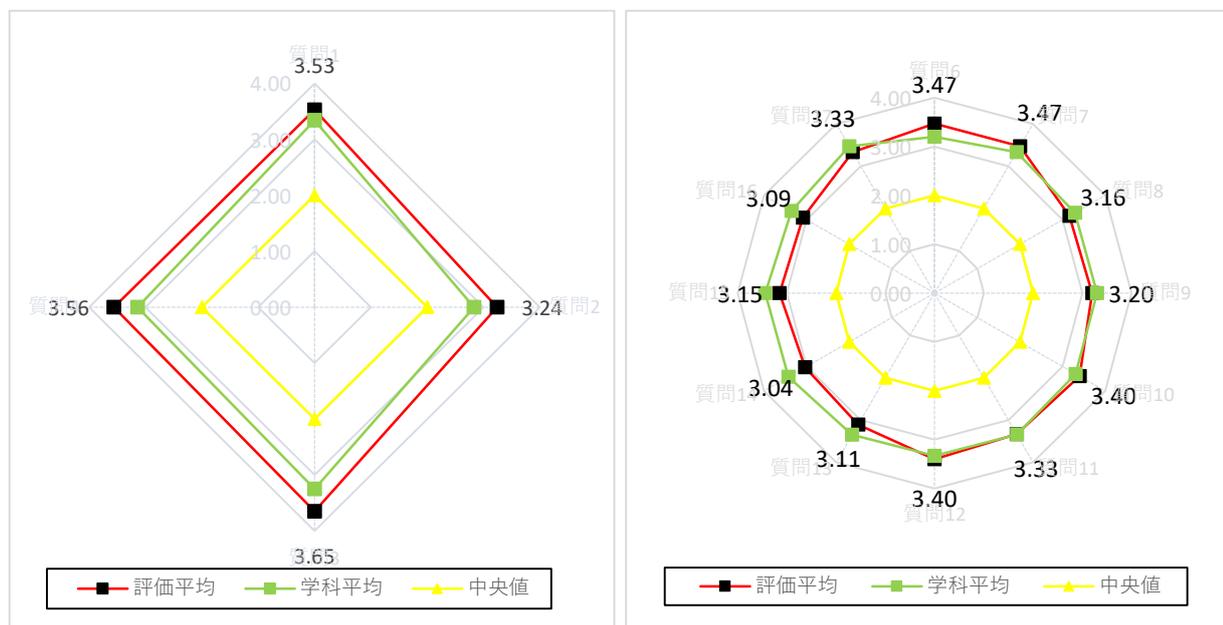
食品学実験の授業評価においては、ほぼすべての項目において、3.5よりわずかに低い程度で、学科平均よりもわずかに低いレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、改善の余地はあると思われる。化学を背景にした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとっては難解に感じることがあるようだった。実験の内容としては成分表の理解に重きを置いており、実験としてはやや面白みにかけるところがあるかもしれない。しかし、資格取得のための基礎知識としては食品学においては必須と考えるので、内容の変更は考えていない。

(3) 次年度に向けての取り組み

食品学実験の授業評価においては、ほぼすべての項目において、3.5よりわずかに低い程度で、学科平均よりもわずかに低いレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、改善の余地はあると思われる。化学を背景にした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとっては難解に感じることがあるようだった。実験の内容としては成分表の理解に重きを置いており、実験としてはやや面白みにかけるところがあるかもしれない。しかし、資格取得のための基礎知識としては食品学においては必須と考えるので、内容の変更は考えていない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		調理教育学実習	101名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

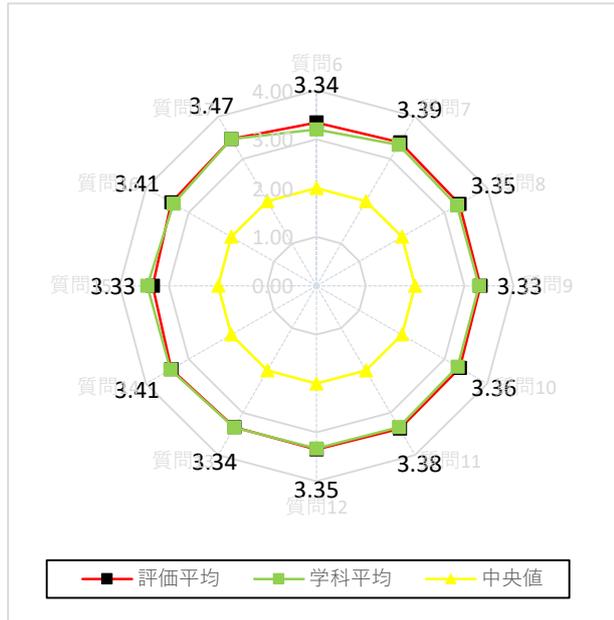
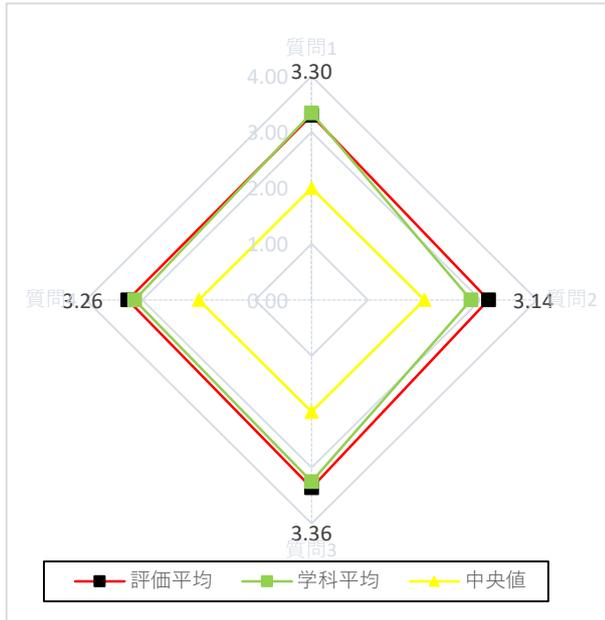
実習科目という特性上、問1～4の評価平均が学科平均を概ね上回っているのは、当然の結果といえる。特にこの科目は、料理教室の企画から実施までを学生主体でこなし、社会に出た後もそれができるようになっているというところに目標を置いていたので、より一層、点数が高く出ているのかもしれない。逆に、問13～17の評価平均が学会平均より低いのは、先ほどと逆の現象で、学生主体としているため、極力学生に考えさせるため教員の手助け、支援を最小限にしているところからこのような評価となったと考えられる。また、グループごとに役割分担して作業する中で、積極的に相談しに来る学生と相談しに来ない学生、などで差が出た可能性もある。役割分担や学生自身の積極性、コミュニケーション能力、責任感などで問13～17の回答点数が影響を受けた可能性があることも想像される。

(3) 次年度に向けての取り組み

2018年度は開講時期が3年後期から3年前期に早まるため、料理教室のテーマや進め方に工夫が必要となる。過年度までは病院実習の直前ということもあり、病院で想定される課題としても取り組むことを念頭にしていたが、今回は病院実習までに間が空くために、どちらかといえば料理教室運営の手順と適切な計画の立て方に主眼をおいた授業展開とし、先々の病院実習で役立てられるようにしていきたい。また、問13～17で評価平均が下がった原因とと思われる、学生自身の態度等についても役割分担への介入と、各役割の最低作業内容の提示などによって学生間で差がでないように留意したい。さらには、学生が主体的に行う授業であることも明確に説明し、積極的に取り組む姿勢を促したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教育心理学	120名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目は、教職課程の必修科目であり、受講生が120名と多い。必修科目であるためか出席率が高い。しかし、4学科からなる学生で学生の心理学に対する理解も幅が大きいため、授業をどう組み立てていくかが課題である。

あらかじめ、グループ学習を行わせ、それに基づいて発表する形をとったが、資料等の準備が十分ではなかったと思われる。

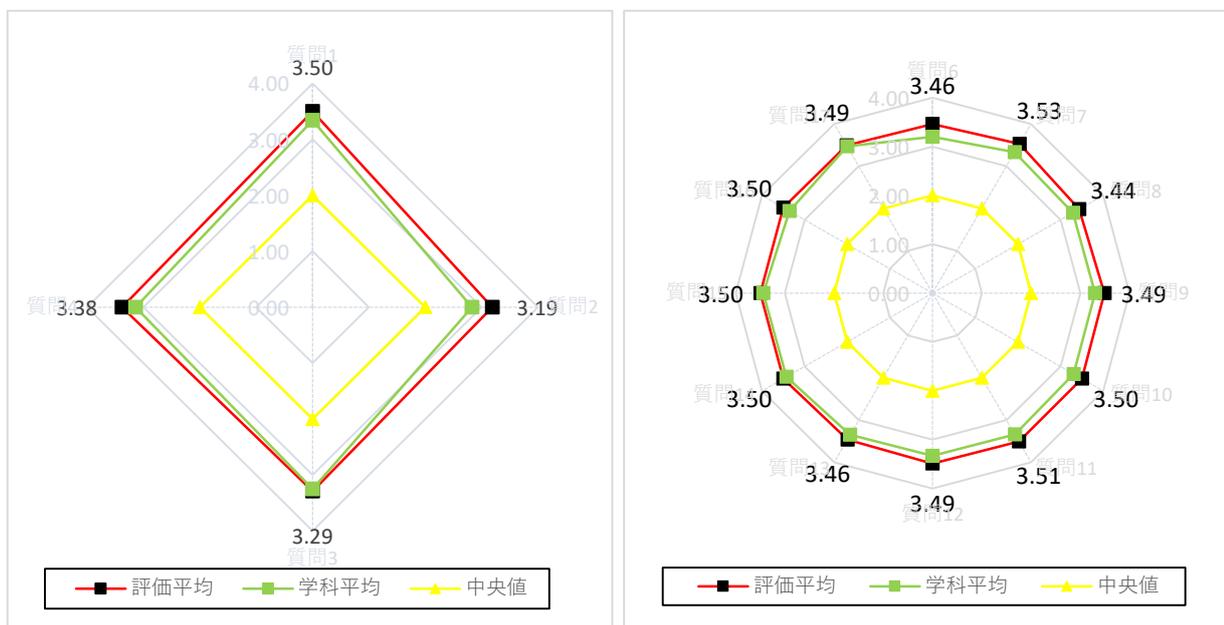
教職課程の必修科目を100名を超える学生で授業を展開するのは限界があるのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は担当しない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食事設計実習	116名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

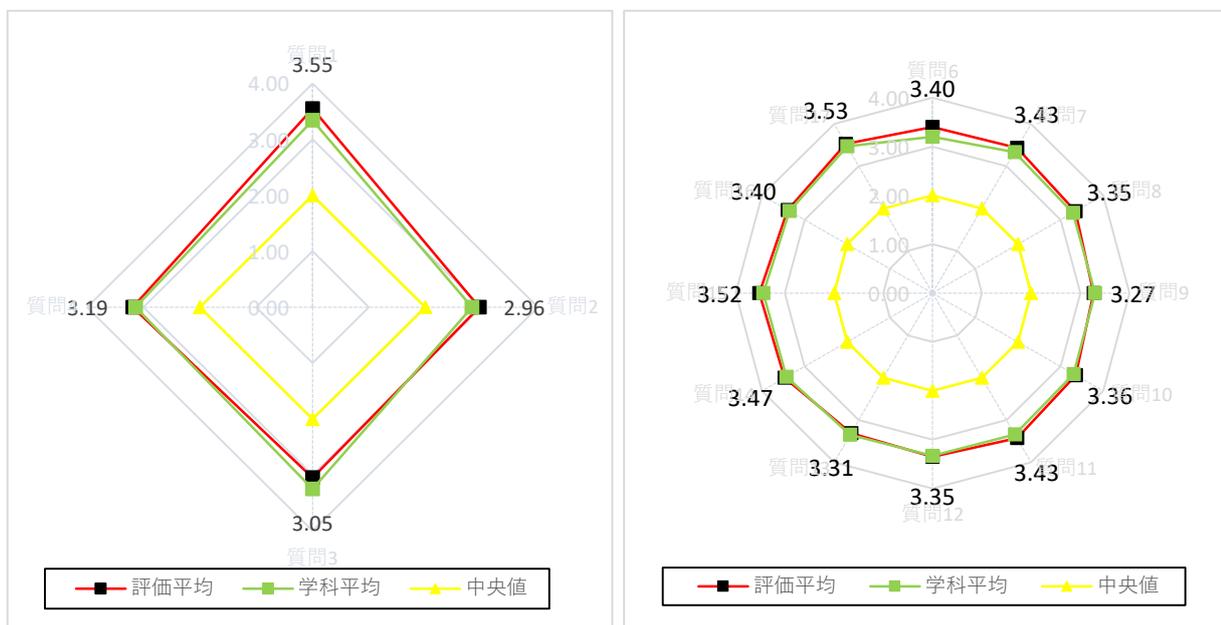
各項目が高い平均点だった要因として、学生の声を多く聞きながら実習を実施していったことが関連していると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も学生の満足度があがるように、学生のニーズにも注目しながら進行していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		基礎栄養学	115名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

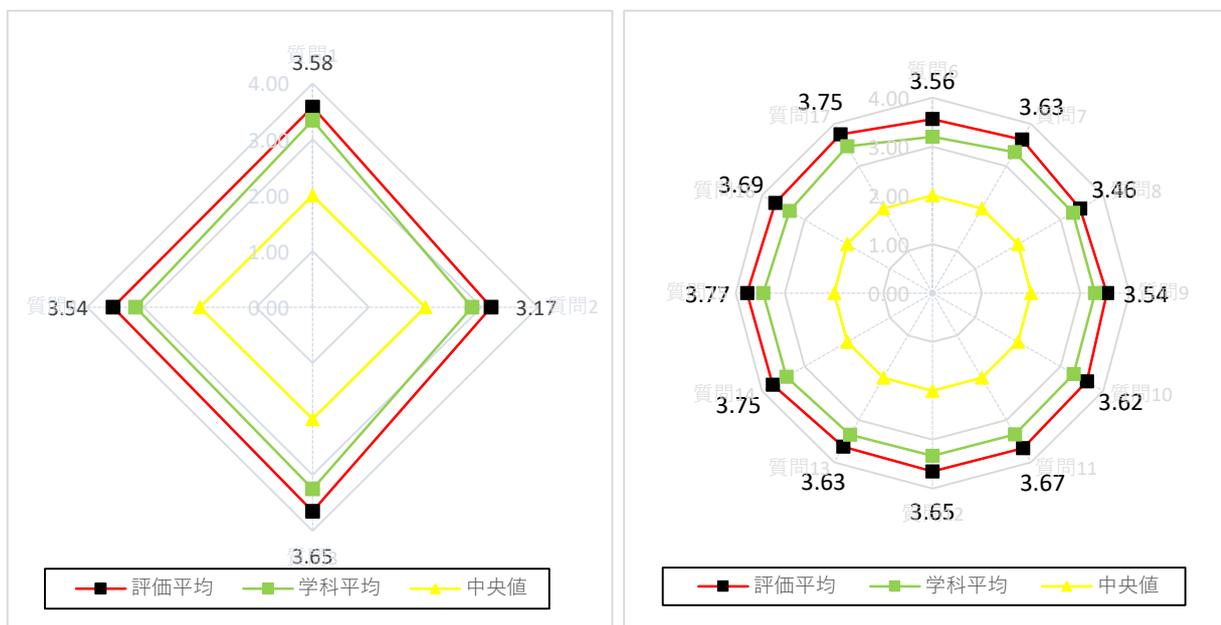
- ・ 質問3 「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」が、わずかに学科平均を下回っていた。このことについては、居眠りや私語をしなかった ための更なる工夫が必要であると考えられた。
- ・ それら以外の全ての質問項目については、学科平均とほぼ一致していることから、より高い評価が受けられるような授業を心がけたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 基本としては、限られた授業時間のみでは足りない部分を学生自身の予習、復習と不明な点を理解するための質問体制等を何度も根気よく呼びかけ、講義時間以外でフォローアップする体制を更に充実させて行きたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		基礎栄養学実験	122名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

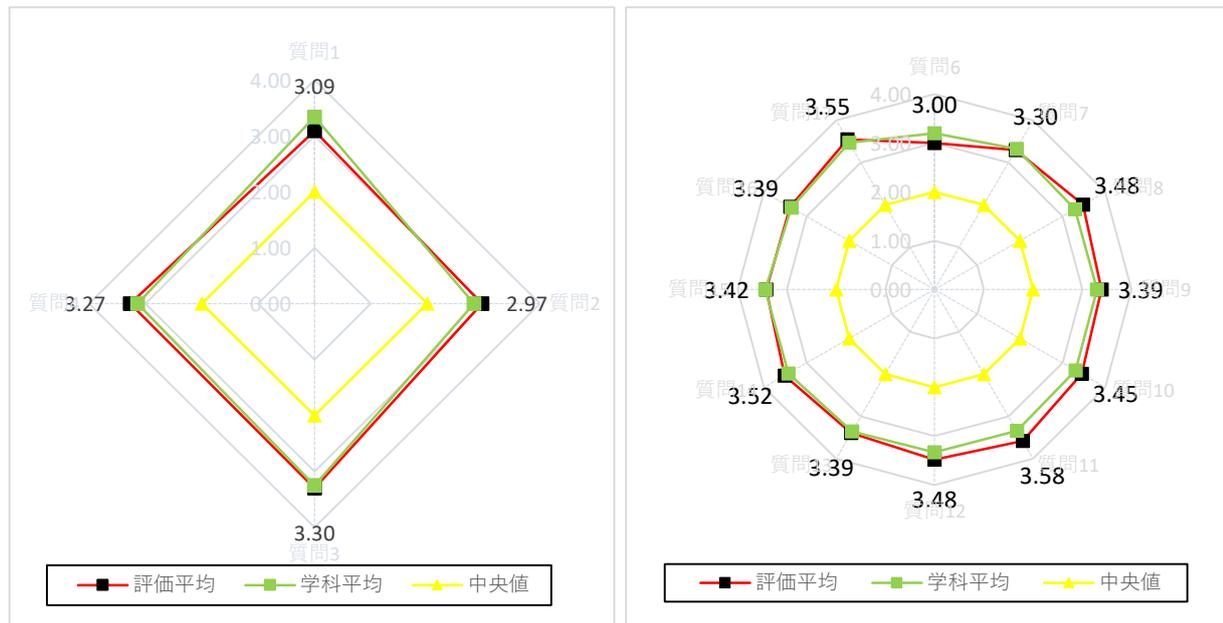
・全ての項目において、学科平均以上であったことから、今後もより満足度の高い授業評価を受けられるように努力していきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

・次年度も、今年度以上の評価が受けられるように努力を続けていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教育原論	74名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

欠席回数が多い学生が多かったと思います。1限開講ということもありましたが、授業に魅力がなかったことが、欠席回数が多い原因であったと考えられます。

シラバスの説明については評価が低かったです。第1回の授業では、シラバス（授業内容や成績評価）の説明をしているつもりではありましたが、学生にとってはあまり印象に残っていないようでした。

双方向の授業という点では課題を感じています。今回は、ワークシートを活用して質問や授業改善の意見を受けられるようにしていましたが、もう少し直接的なやりとりが気軽にできるように改善する余地はあるでしょう。

ハンドアウトや板書に関しては、大きな問題はなかったと思いますが、学生の成績（テストやレポートなど）から判断しますと、学生の理解促進に貢献できていないと感じています。

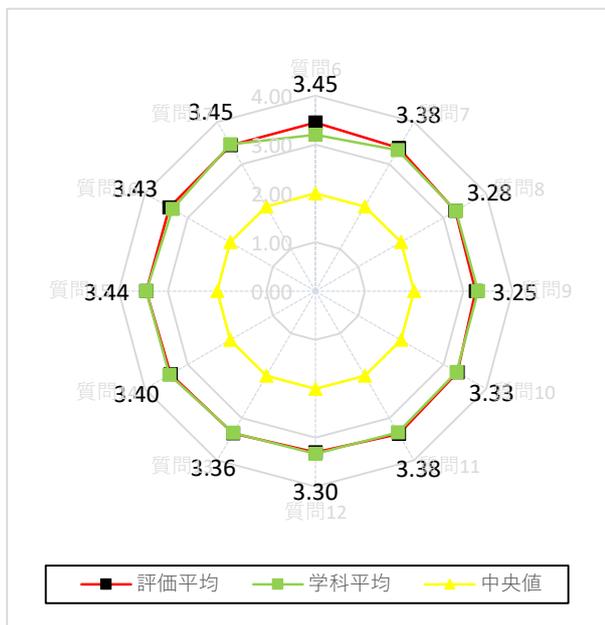
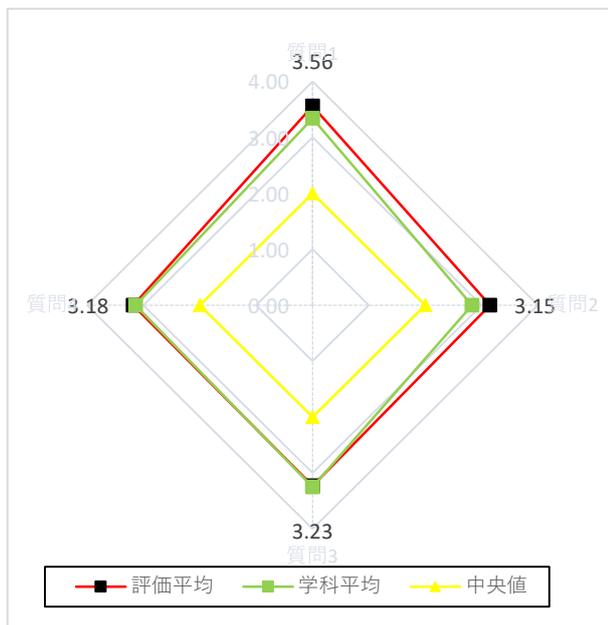
(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスについて時間をかけて説明しようと思います。これまで口頭での説明をしてきましたが、配布資料にして残すとより学生の印象にも残ると考えられます。

学生の欠席回数が多いこと、双方向の授業ができていないこと、学生の成績が芳しくないことに対しては、文部科学省が志向する主体的、対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を実践できれば、改善できると考えております。これまでの授業では、一方的に話すことが多く、学生の関心・意欲・態度を引き出すことが十分にできていませんでした。グループワークを多く取り入れ、学生一人ひとりに授業における役割を持たせ、かつその場で理解状況を確認することができれば、欠席率も改善し、学業成績も向上することが期待できます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食事摂取基準概論	123名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

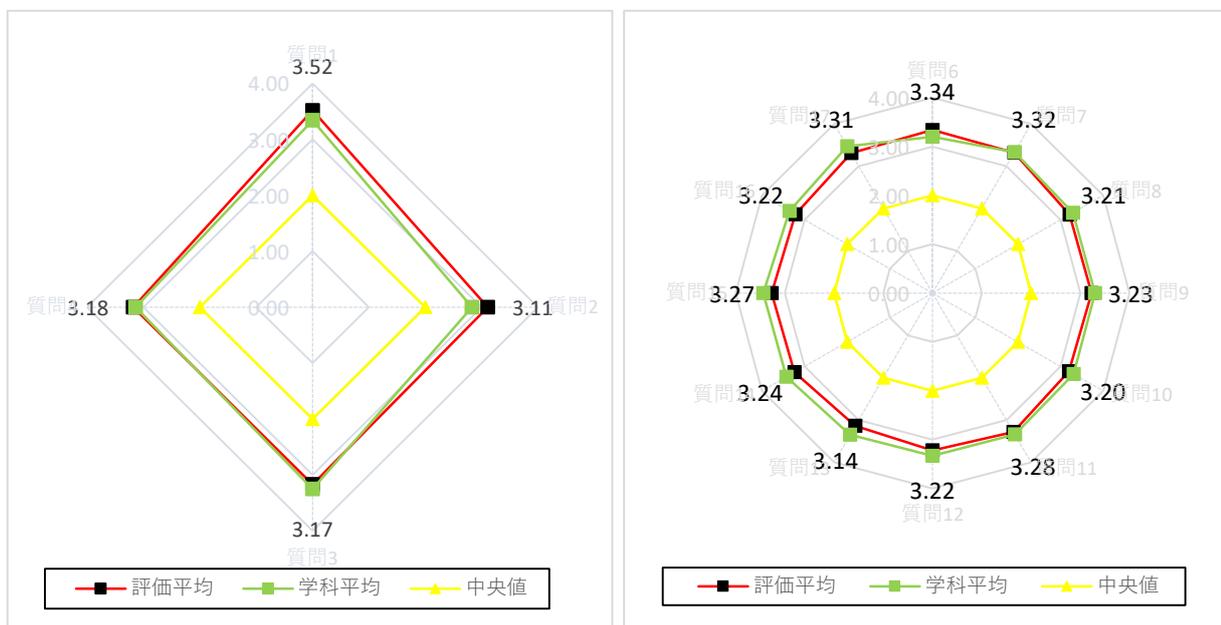
・全ての質問項目において学科平均とほぼ一致していることから、より高い評価が受けられるような授業の工夫を心がけたい

(3) 次年度に向けての取り組み

・次年度も本年度以上の評価が得られるような授業内容を模索して行きたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養マネジメント概論	136名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

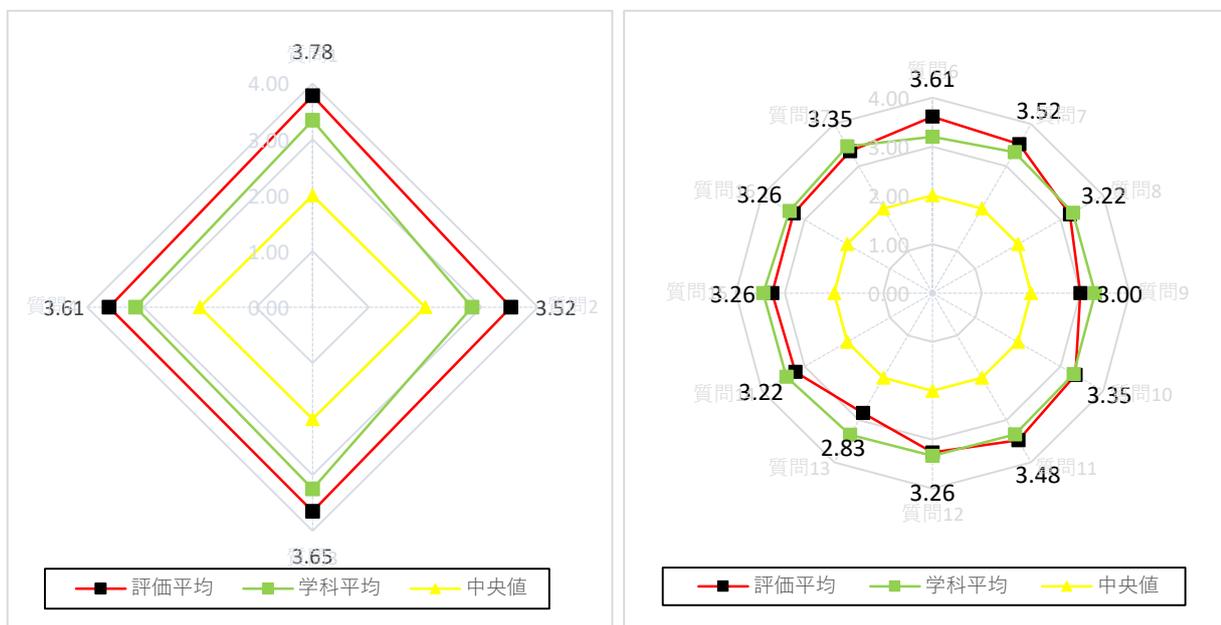
概ね、どの質問項目も学科平均と同等の結果となった。若干、質問13~17が低いが講義科目である性質上、妥当な結果であるといえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

2018年度からは学科科目の整理があった関係上、授業内容の一部を他の科目でになってもらえることから、少し余裕ができたため、演習形式の授業を取り入れながら学生の理解度を確認しつつ授業を行う予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		応用栄養学実習	113名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

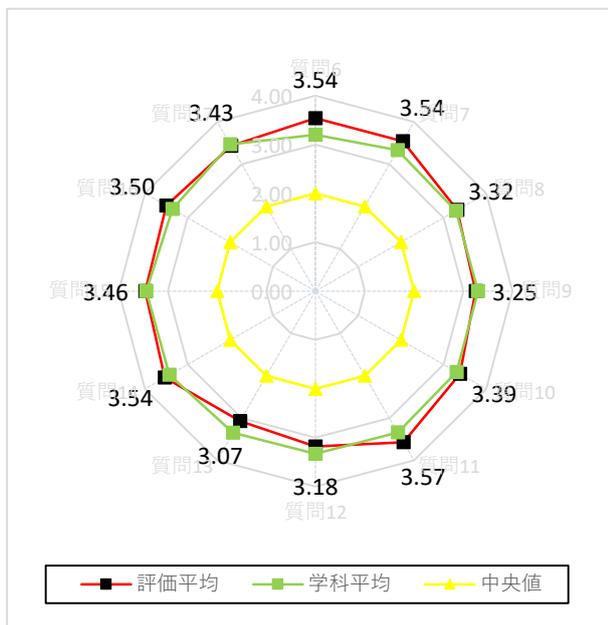
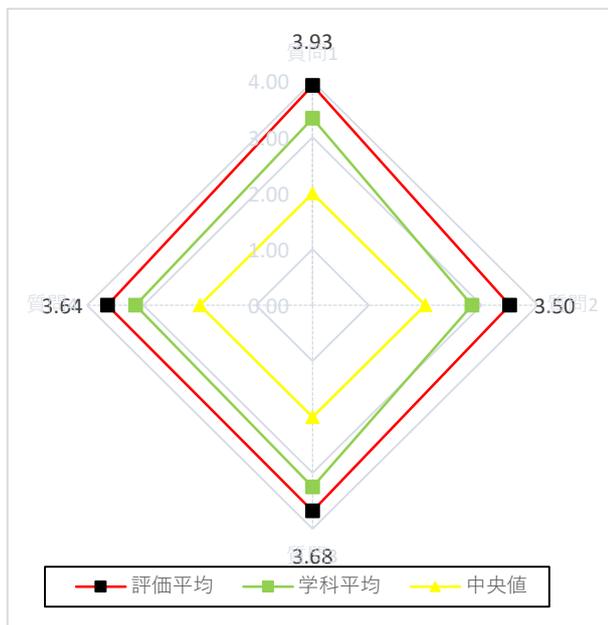
概ね、学科平均と同等もしくは上回っているものがあるが、質問9、13の評価が低いのが目立つ。この科目はオムニバスの実習科目であり、連続した内容の授業ができないことが低評価につながった要因のひとつではないかと考えられる。また、科目の性質上、事前の課題をもとに授業を進めることも多く、課題をやらない学生にとっては理解が追い付かない授業となったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は他の教員が担当する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		臨床栄養学実習	103名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

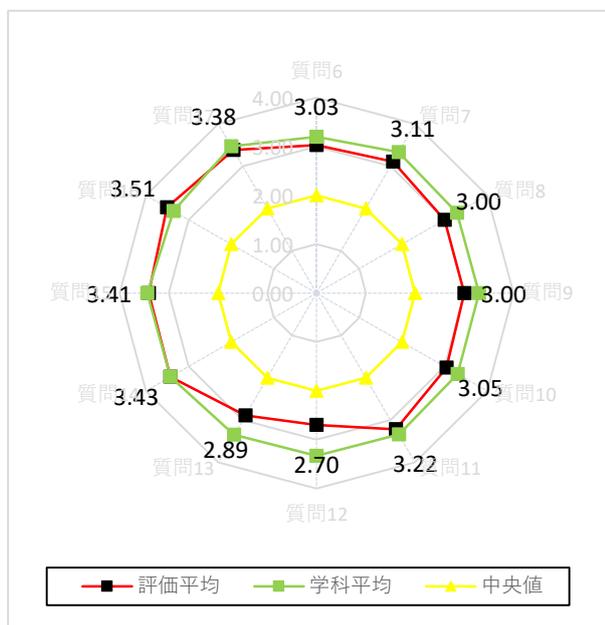
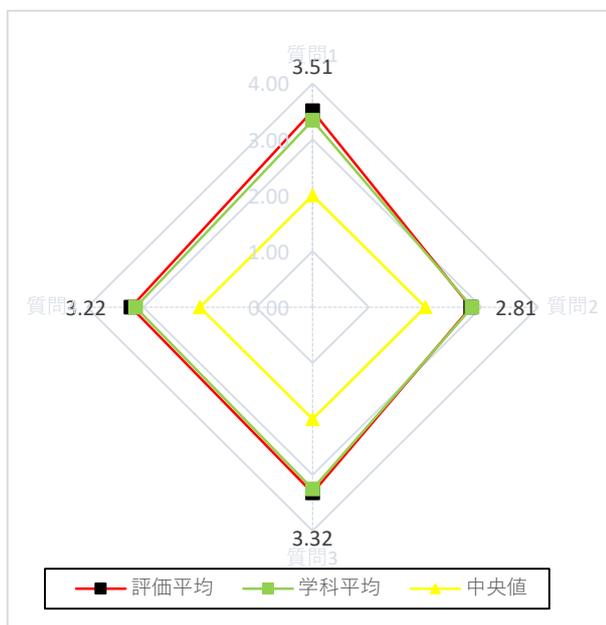
学生の意見を真摯に受け止め改善に努めたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の意見を真摯に受け止め改善に努めたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		臨床栄養管理学	105名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

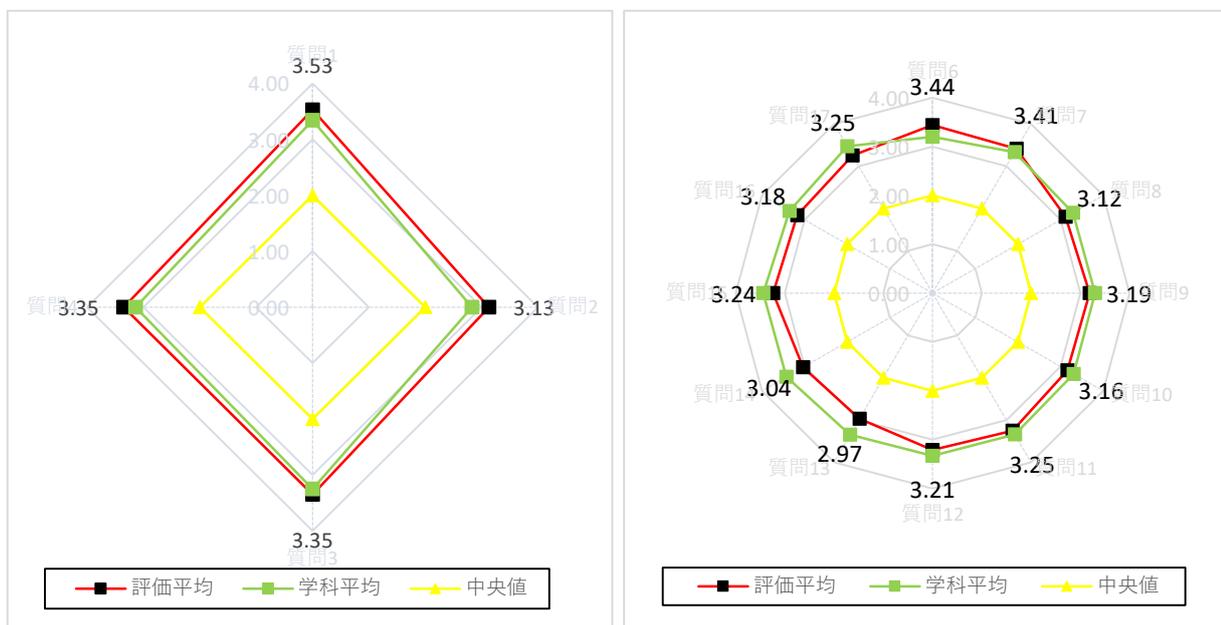
学生の意見を真摯に受け止め改善に努めたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の意見を真摯に受け止め改善に努めたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養療法論	108名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

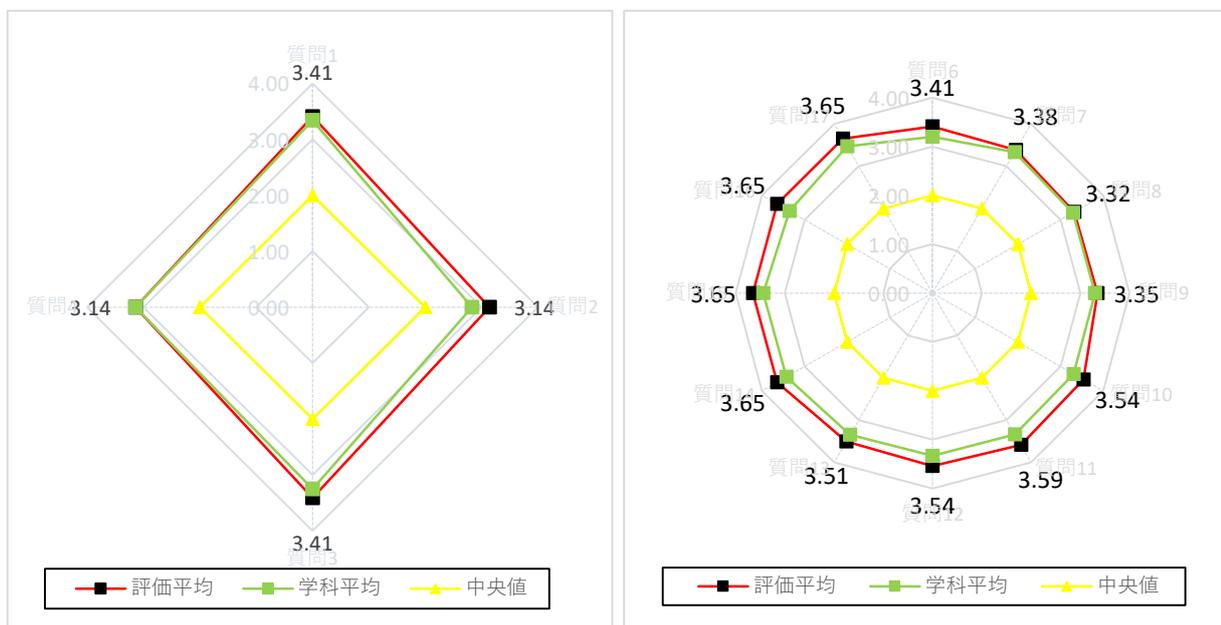
概ね学科平均と同等の結果であるが、質問13～17についてはやや評価が低くなっている。講義科目であるため、低くなりやすい項目であると考えられるが、病院で働く管理栄養士に必要な知識と技術両面の講義科目であったため、内容が複雑であったことも原因のひとつではないかと想像する。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は開講時期が2年後期と早まるため、最低限の内容をきちんと身に付けさせることを目標とし、授業内容を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学実習	107名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

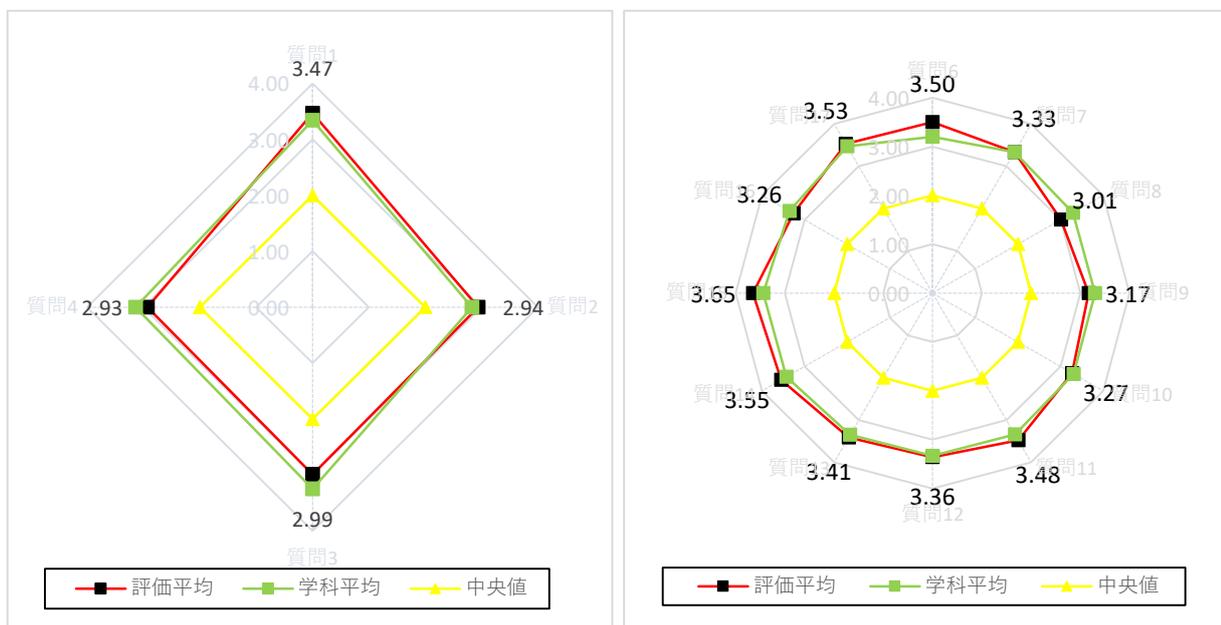
学生の出席率は高く、授業への取り組みも積極的だったが、授業に向けて自ら学ぶ姿勢は低かった。授業は、前半は個人で、後半はグループで作業を行う内容であったため、積極的に学ぶ学生と、消極的な学生との差が生じた。また、パソコンを使用する作業が多いため、パソコン操作の得意な学生と不得意な学生とで差が生じ、不得意な学生にとっては、興味・関心が持てなかったようである。

(3) 次年度に向けての取り組み

興味関心が持てるような授業展開となるように努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学 I	100名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

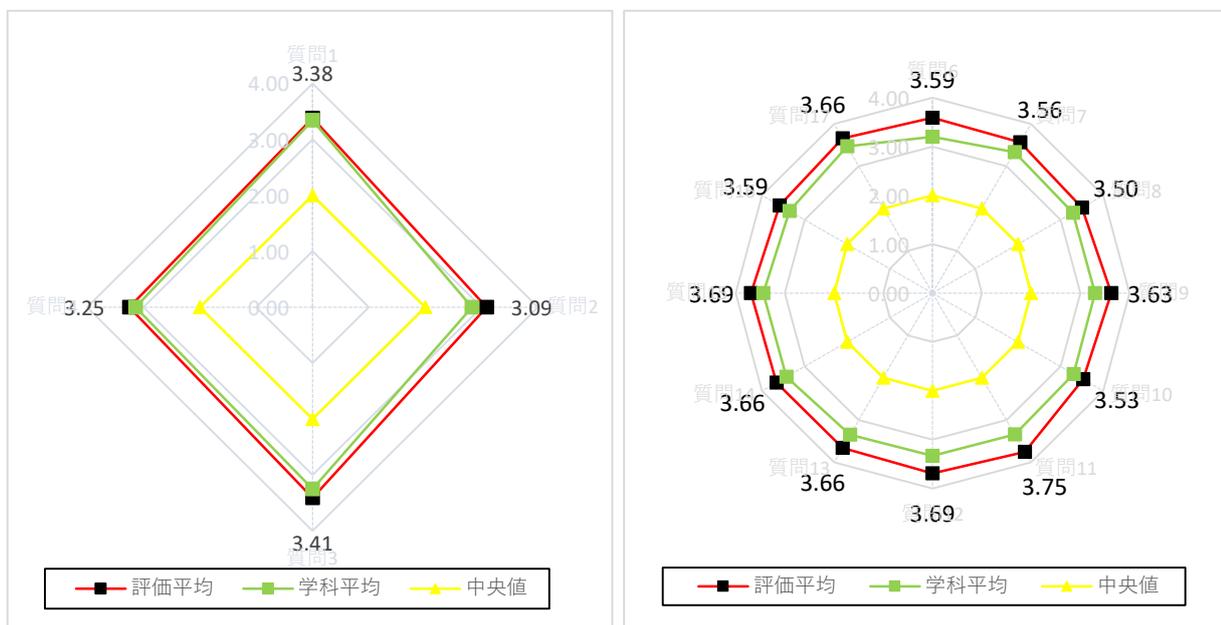
授業の参加率、授業態度ともに良好であった。健康・栄養に関する法律や施策についての内容が多く、興味・関心を持ちにくかったようである。
授業中にカッコ埋めのプリントを使用したことは、居眠り、私語の防止に役立った。

(3) 次年度に向けての取り組み

興味関心が持てるよう、授業内容の工夫に努める。さらに、双方向的なやり取りをもっと取り入れながら進めることに努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学Ⅱ	106名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

業の参加率、授業態度ともに良好であった。健康・栄養に関する法律や施策についての内容が多く、興味・関心を持ちにくかったようである。

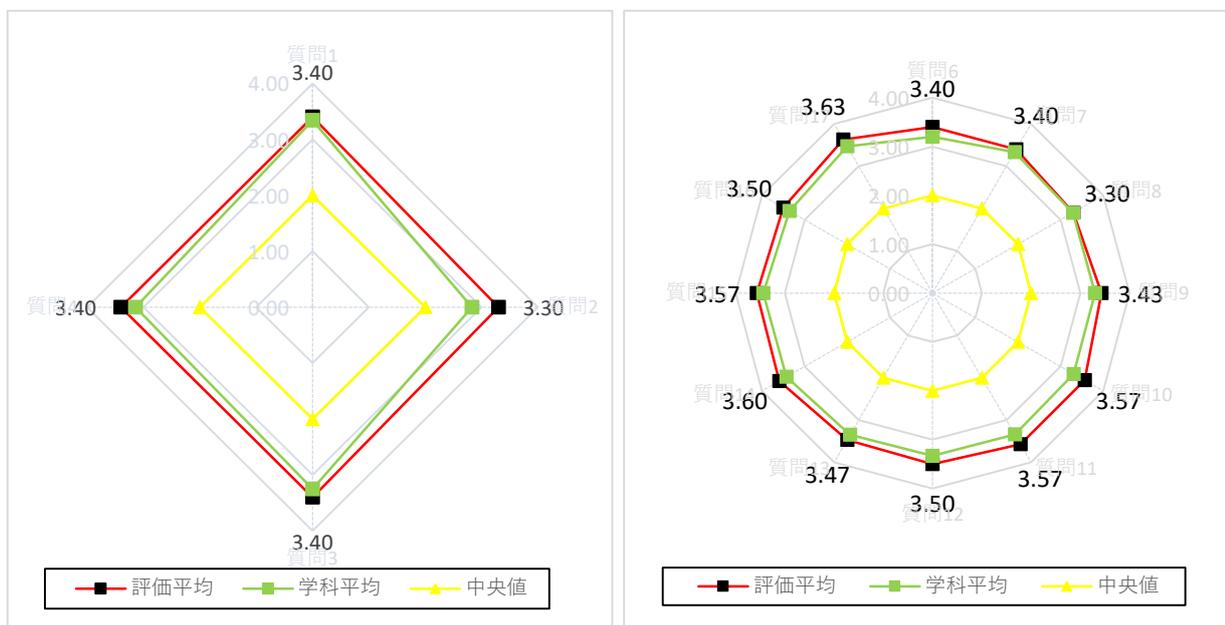
授業中にカッコ埋めのプリントを使用したことは、居眠り、私語の防止に役立った。

(3) 次年度に向けての取り組み

興味関心が持てるよう、授業内容の工夫に努める。さらに、双方向的なやり取りをもっと取り入れながら進めることに努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		給食経営管理論	105名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

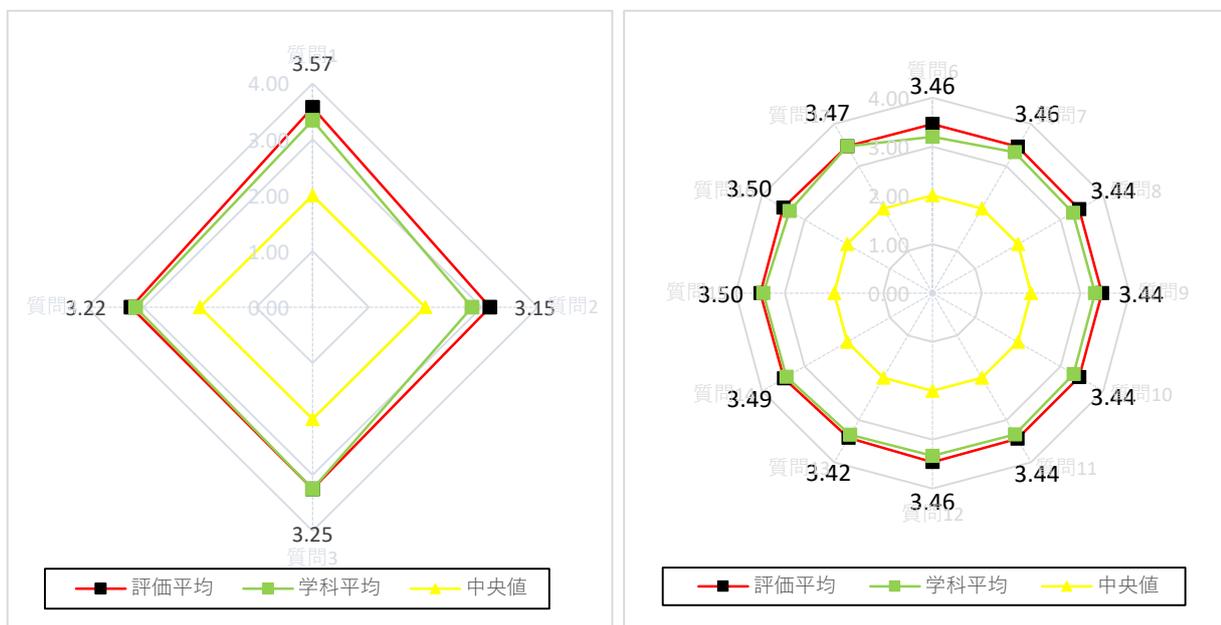
大人数を対象とした講義であったが、講義の目標を明確にしながら進行していったことが、高い点数に繋がったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も学生の修得度をみながら、講義を工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		給食計画論	118名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

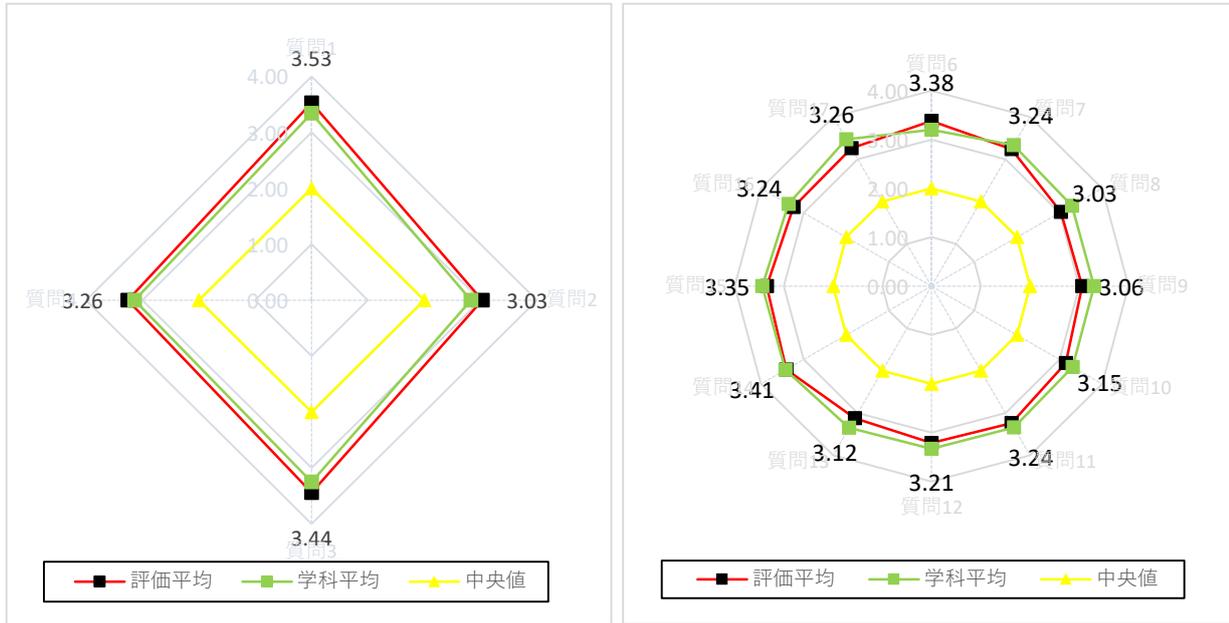
管理栄養士の具体的な業務となる給食管理の最初の講義ということで、苦手意識を持たないように工夫して講義を実施したことが、点数に繁栄したと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も管理栄養士として重要な業務である給食管理に対して、より理解を深められるような講義としていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養総合演習Ⅱ	99名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

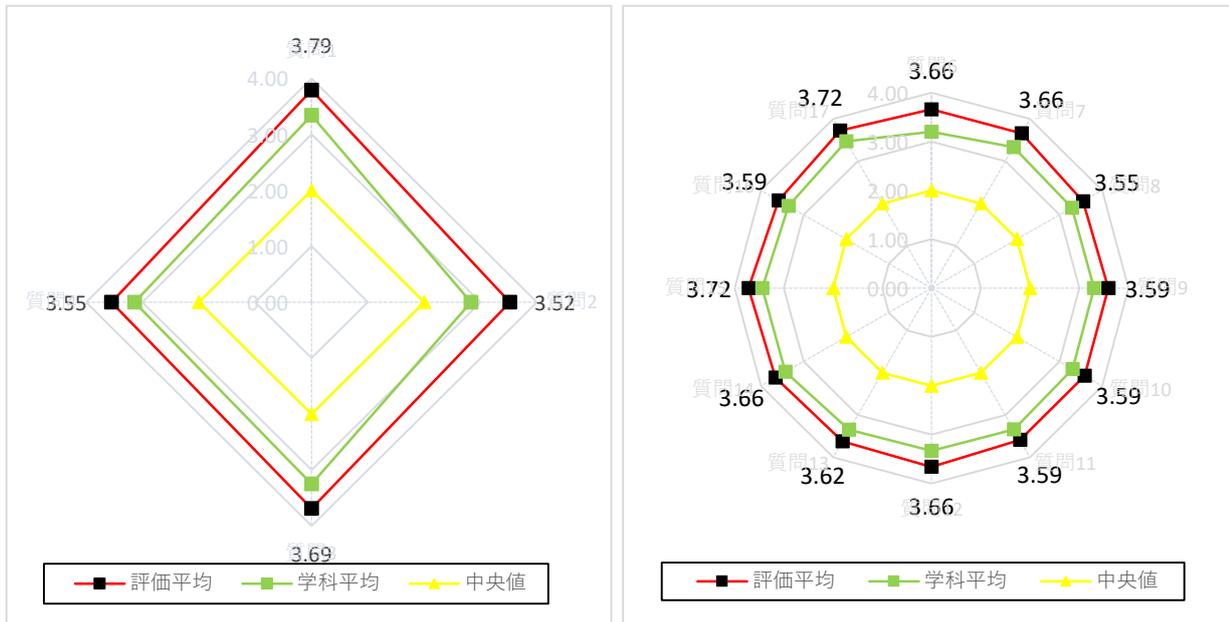
臨地実習の事前事後指導であり、学生も目的意識をもって取り組めた結果であると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も実習がスムーズに行えるような事前指導・事後指導に努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養総合演習 I	103名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

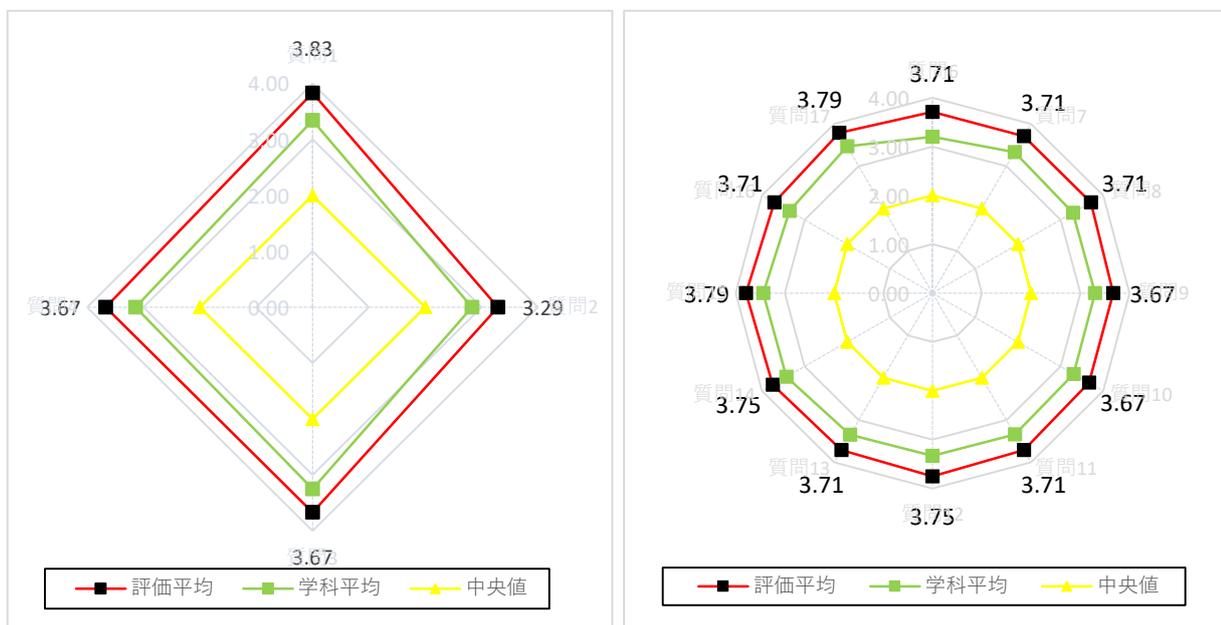
初めての学外での実習である臨地実習 I の事前事後指導である本科目では、学生が実習を無事終了できるように、多くの時間、様々な支援をしながら実施したことが高い点数に繋がったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も臨地実習 I が有意義な実習となるような内容としていきたい。また、多くの時間を本演習につかっているため、生産性を高められるような体制を期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		給食経営管理実習	110名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

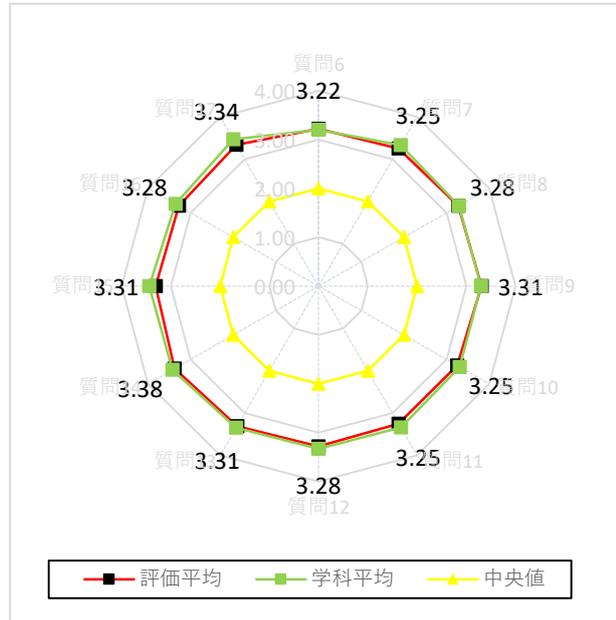
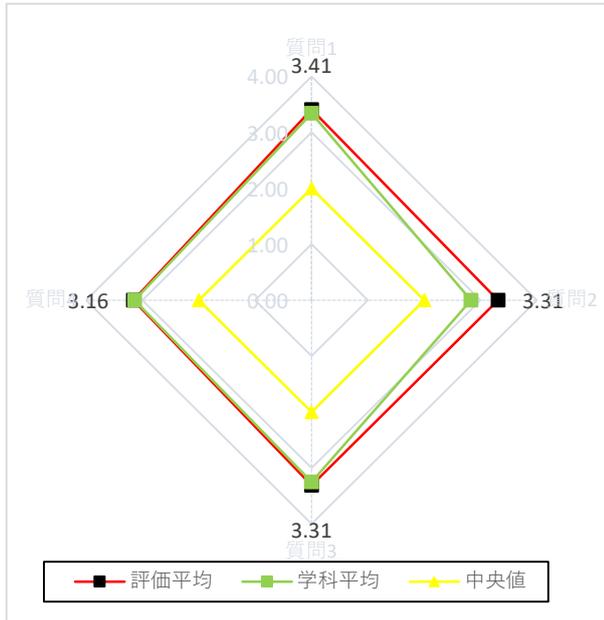
給食管理の実務的な内容となる本実習では、可能な限り実際の現場を想定しながらの実習としたことが、学生の高い評価に繋がったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

実務に直結する実習であるので、今後も給食管理の一連の流れを把握できる体系的な実習としていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		臨地実習Ⅲ（公衆栄養）	96名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

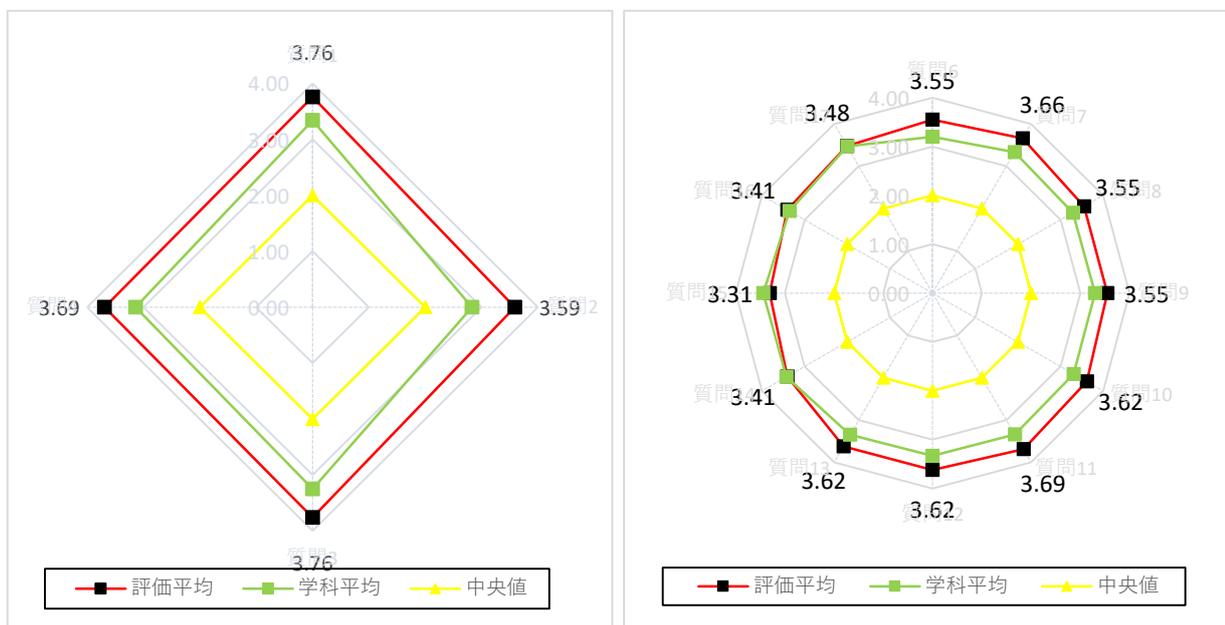
臨地校外実習であり、積極的に取り組んでいた。

(3) 次年度に向けての取り組み

臨地校外実習先での学びが有意義なものとなるように、継続して事前指導を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		臨地実習Ⅱ（臨床栄養）	94名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

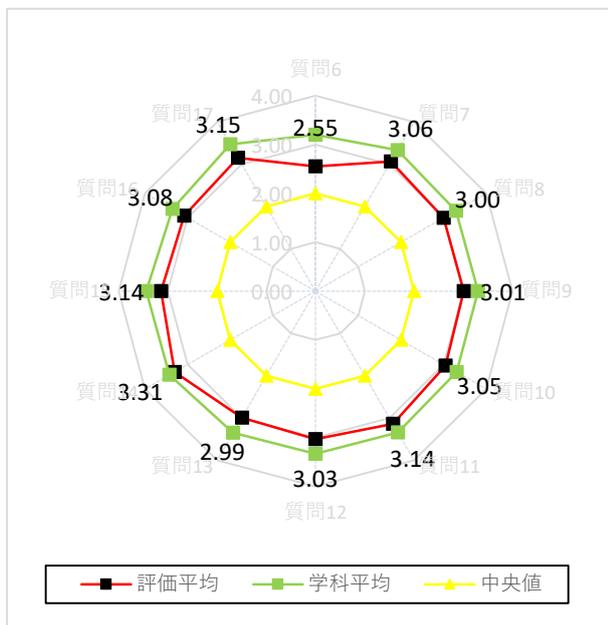
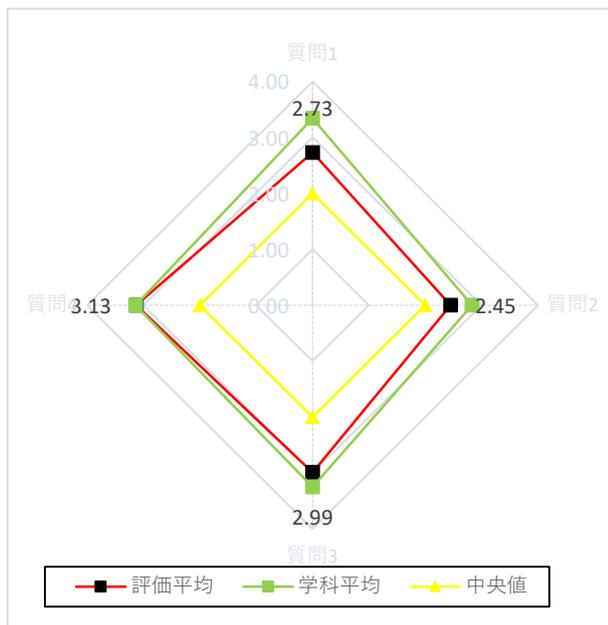
この科目は、病院における管理栄養士業務の実践を行う実習である。したがって、学生が評価している対象はほぼ、現場でご指導くださった管理栄養士の先生方となる。詳細は各実習施設で異なるので割愛するが、全体的に評価が高いのは、これまで大学で勉強したことの意味が現場の管理栄養士の方の姿を見て理解できたためであると想像する。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様に病院実習の支援を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		卒業研究・演習	119名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

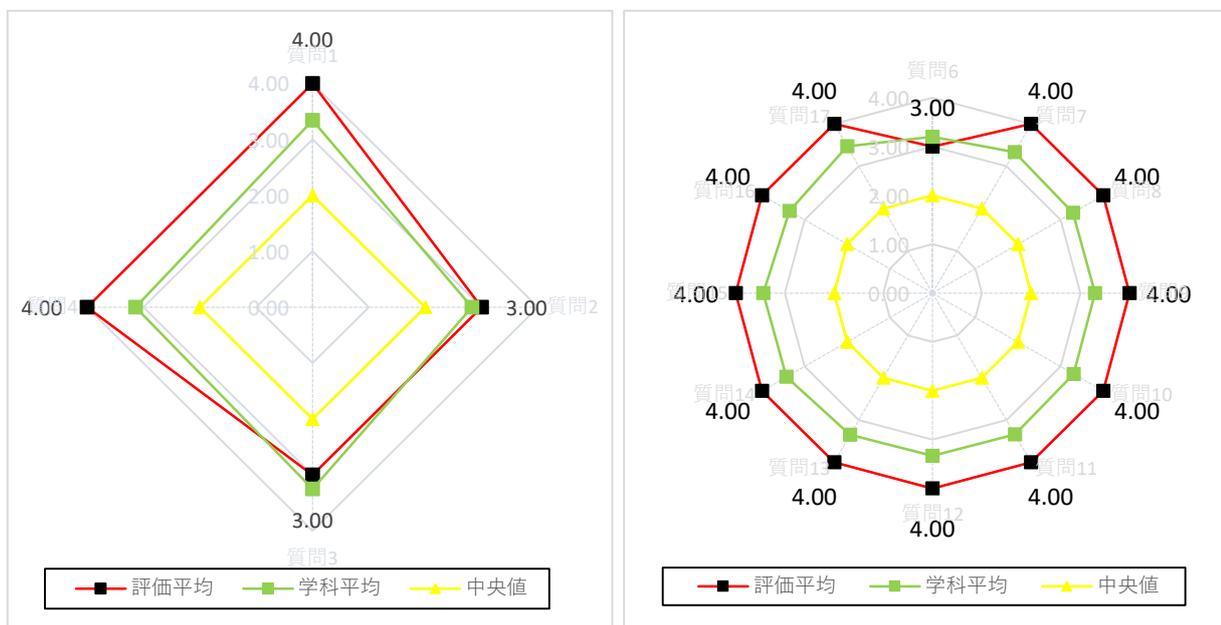
学生の意見を真摯に受け止め改善に努めたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の意見を真摯に受け止め改善に努めたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		卒業研究ゼミナール	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

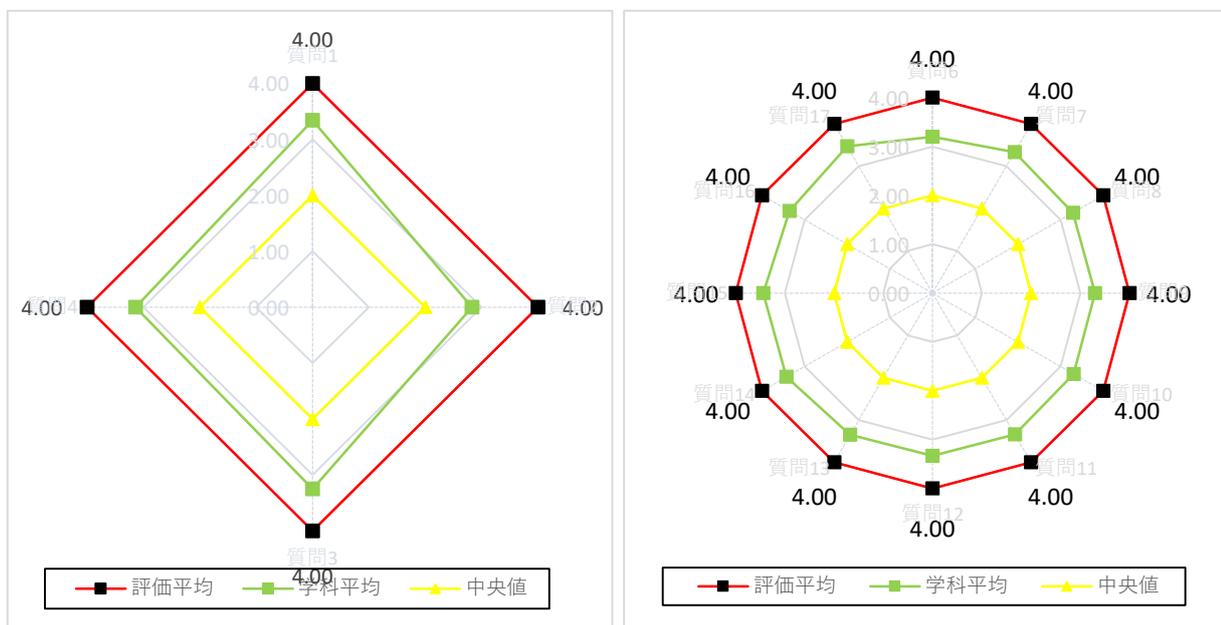
卒業研究ゼミナールの授業評価においては、質問2、3、6を除き、全員が4点の評価をつけていた。少人数のゼミではあるが、卒業研究、国家試験への取組み、就職において、全員が目的を達したのではないかと、安心した。質問2と6については、シラバスに関するものであり、赴任一年目は仕方なかったと思う。ゼミの人数は少数なので、多様な学生に対応した教育を維持していく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業研究ゼミナールの授業評価においては、全員が自分の目標を到達できたようなので、次年度も維持できるように進めたい。なお、授業内容について、早めに理解させるようにしたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		卒業研究ゼミナール	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

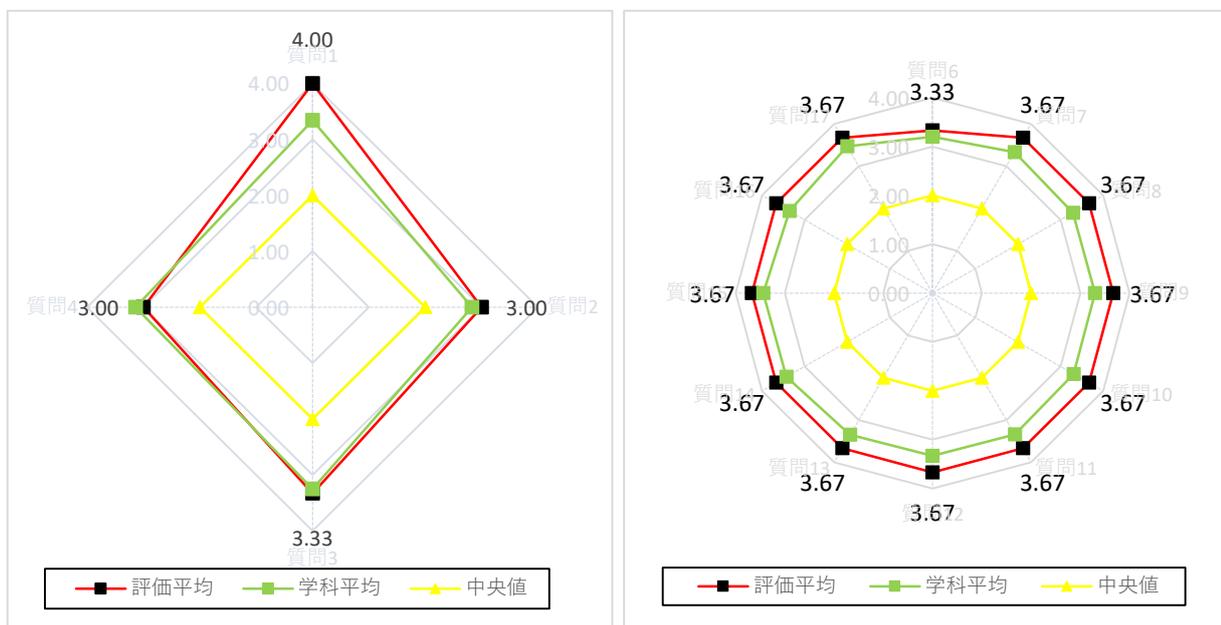
第5期生の横尾ゼミの学生たちである。ネパールでの13日間の実習を経験した学生たちである。強く叱ったり、何度もやり直させたりと、厳しく指導したにもかかわらず、ほぼ満点の評価を得たことは、学生たちが教員の指導の意図をよく理解してくれた証拠だと考える。ていねいに接することが秘訣だと思う。ありがたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

第5期生と同様の高い評価が得られるように、今まで以上にていねいに（それは決して甘やかすことではなく）一人ひとりに接していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		卒業研究ゼミナール	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

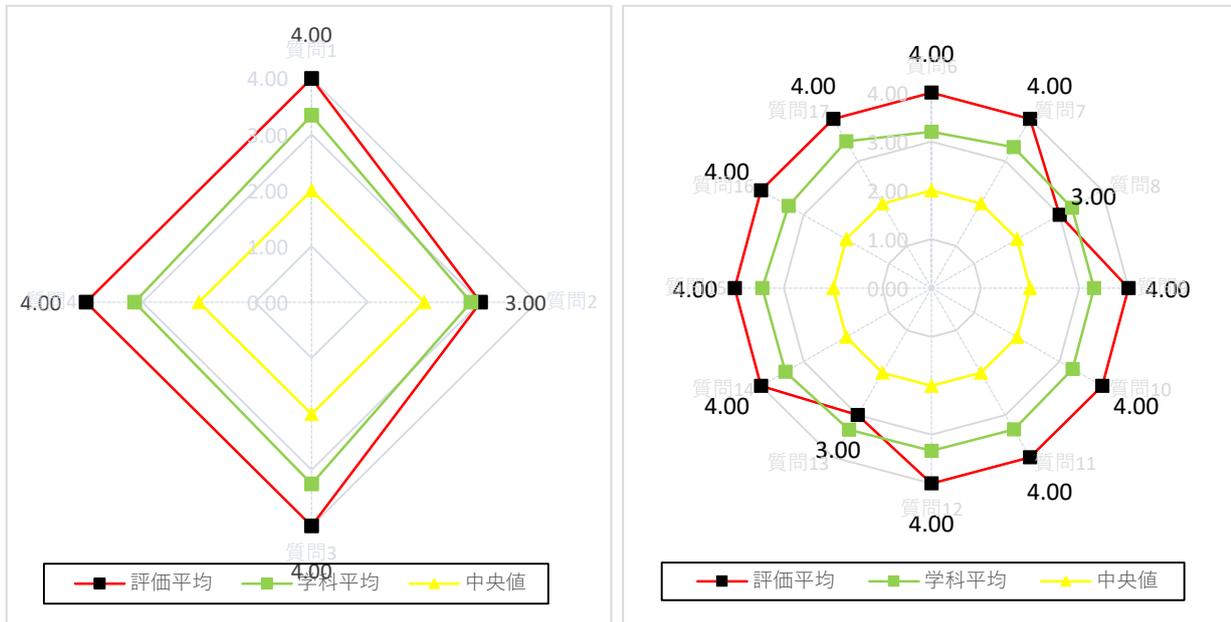
研究についてイメージが付きにくく、授業内容の理解が難しかったようであるが、取り組む姿勢は真剣であった。ゼミナールでのグループでの取り組みは、積極的に取り組んでいた。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業研究について、わかり易い説明、論文検索、研究の進め方等、もっとイメージができるようにわかり易く説明する必要がある。今後は、学生の立場からわかり易いように説明し、指導する工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		卒業研究ゼミナール	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

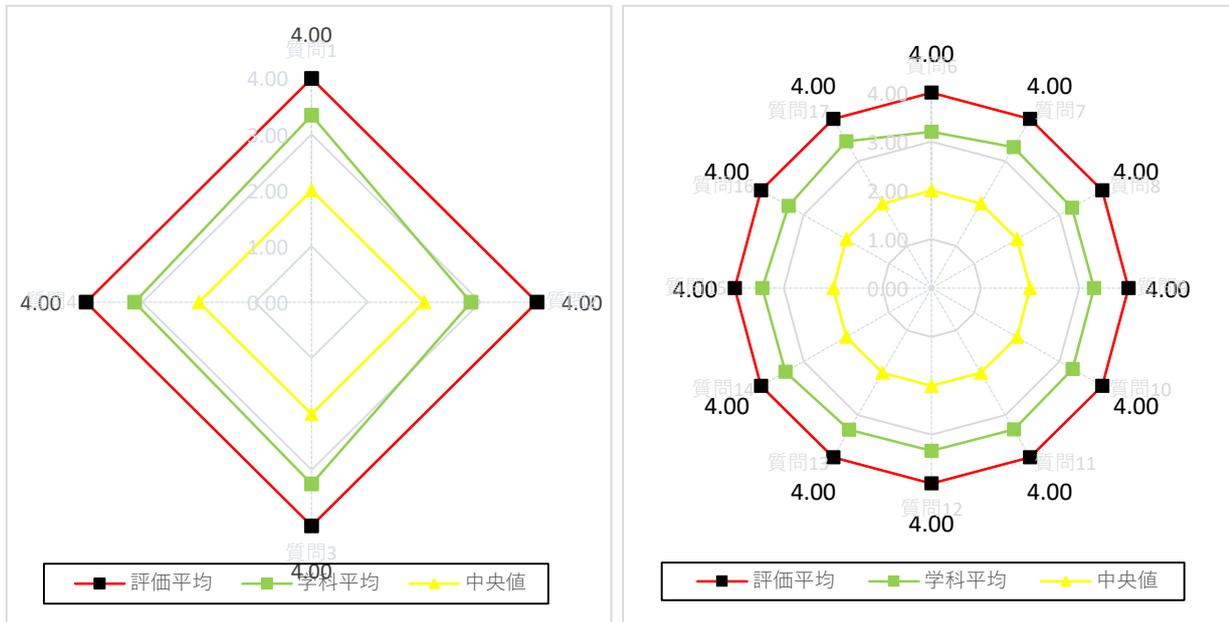
学生の評価を真摯に受け止め、改善に努めたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の評価を真摯に受け止め、改善に努めたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		卒業研究ゼミナール	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

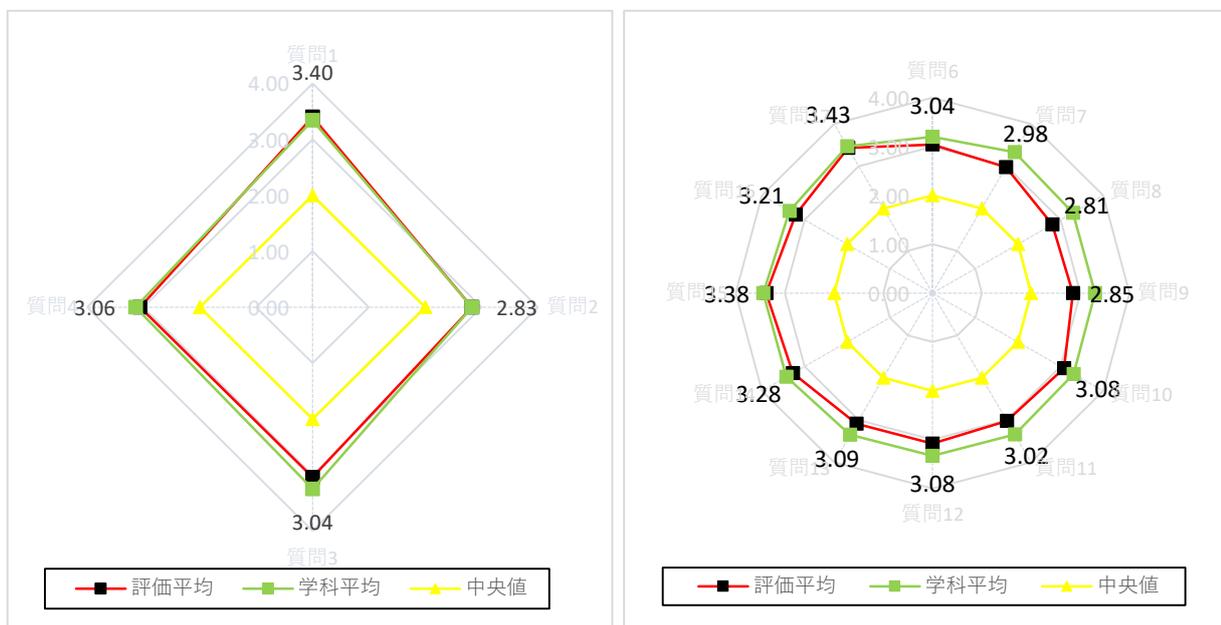
- ・ 全ての項目において4.0の評価を得ていることから特に問題は無かったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 来年度も今年度同様、学生の満足度が高い授業内容を心がけたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		化学	59名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

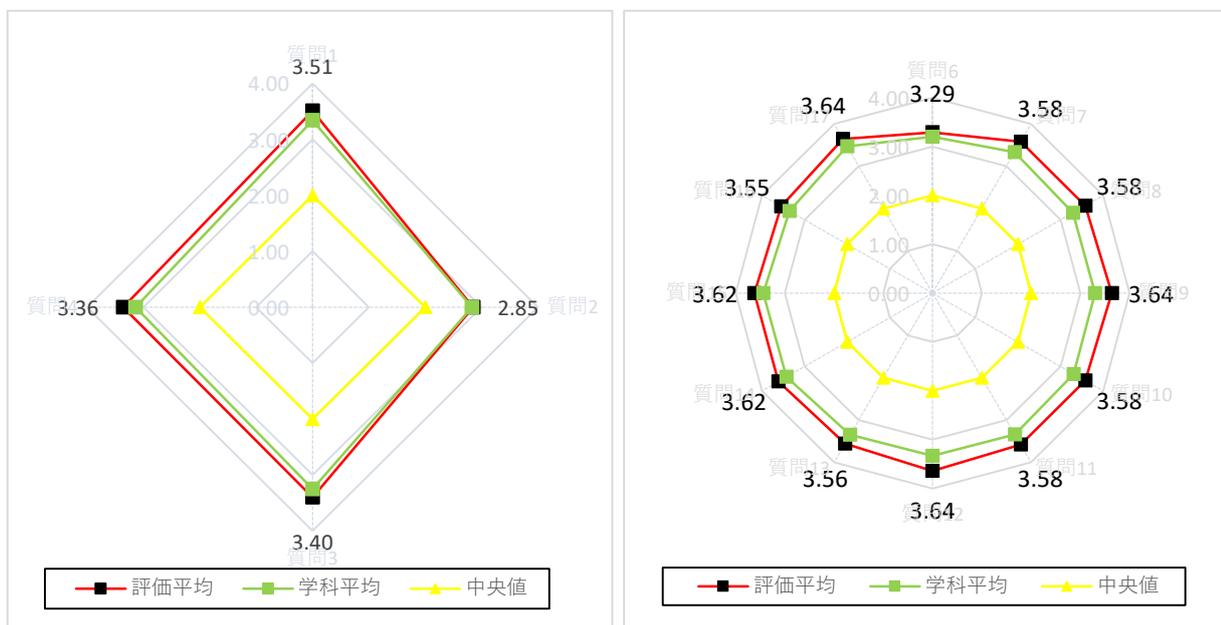
学生による自己評価は概ね学科平均と同等であった。授業評価は学科平均を下回っている項目がほとんどであった。授業のスライドなどわかりづらい点を改善していく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の進行について見直しを行う。理解が低いと思われる内容に時間をかける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		化学	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

「化学」の講義は、高校の時に学んでいない学生がおり、レベルの差が大きいため、最初の時間にプレースメントテストを行い、習熟度別に2つのクラスに分けている。私は、そのテストでレベルの低い方のクラス（aクラス）を担当した。中には、化学記号からわからない学生もおり、講義の進め方に大変苦勞した。毎回、小テストにより前の時間の復習を行ったが、復習をしてきていない学生も見受けられた。化学嫌いの学生が多いため、興味を持つように身近な例をあげたり、演示実験を行ったり、計算の時間を十分に与えたりした。

授業評価の結果は概ね良好で、授業を工夫した成果だと思われる。

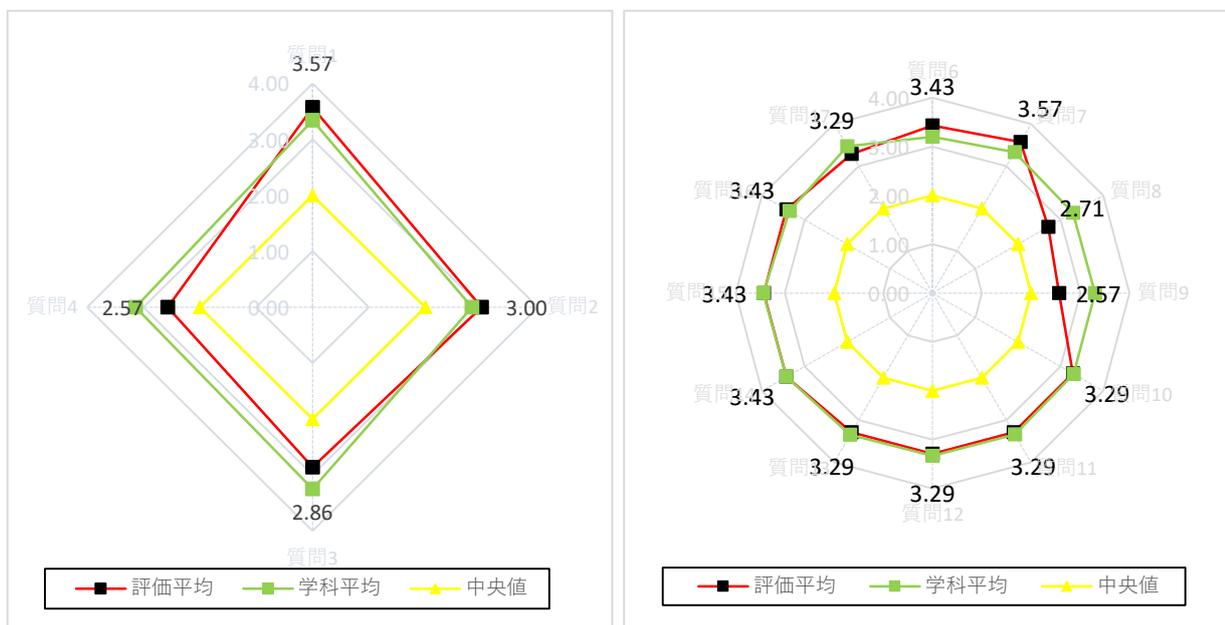
(3) 次年度に向けての取り組み

昨年度に引き続き、習熟度別のクラス分けを行い、わかりやすい授業を心掛けたいと思っている。復習をしていない学生については、個別に指導したりすべきではないかと思っている。

次年度は、入学前教育により化学を少し勉強しているので、授業がやりやすいのではないかと予想している。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		運動指導論	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

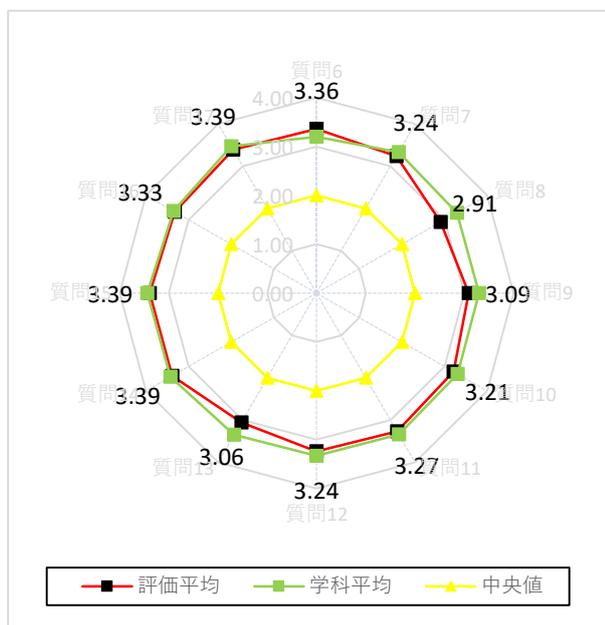
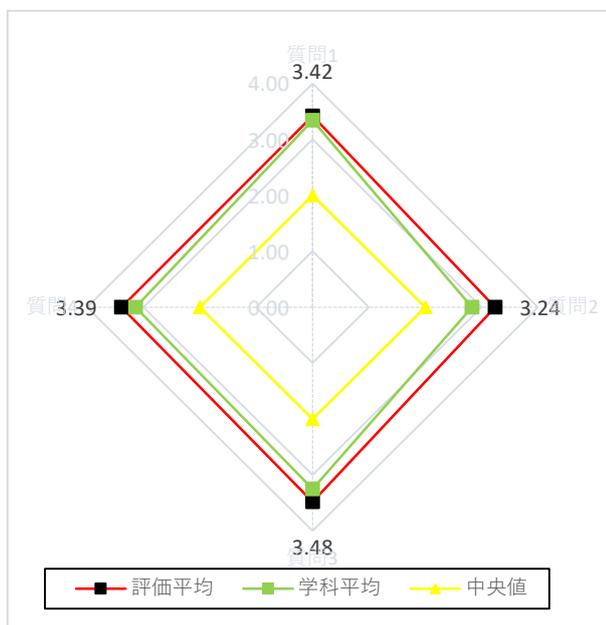
履修者の半数からの回答であった。全体的には高い評価を得た項目が多いものの、質問4、8、9においては3.0評価を下回っていた。授業内容が栄養の専門内容と異なるために、さらにわかりやすい授業への工夫が必要であったかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度も引き続き興味や理解を深めるために実習を取り入れた授業への工夫をしたものの、十分な理解を得るほどの効果が得られなかったものとする。次年度は、この点も含め授業改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学演習Ⅱ	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

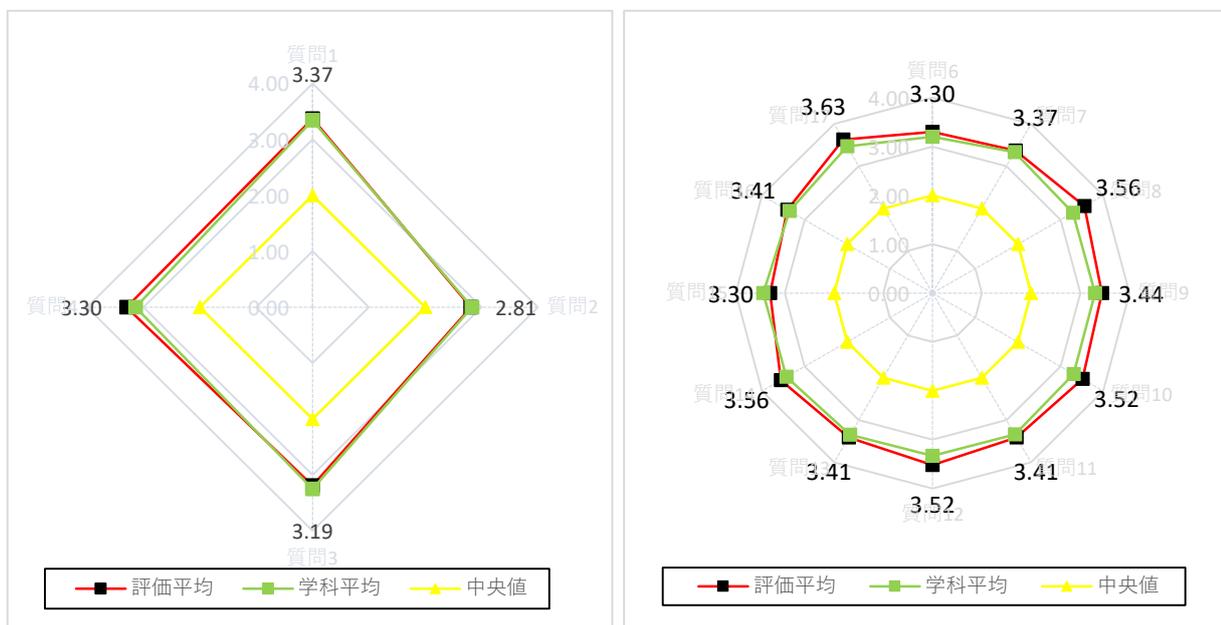
学生の意見を真摯に受け止め改善に努めたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の意見を真摯に受け止め改善に努めたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品機能学	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

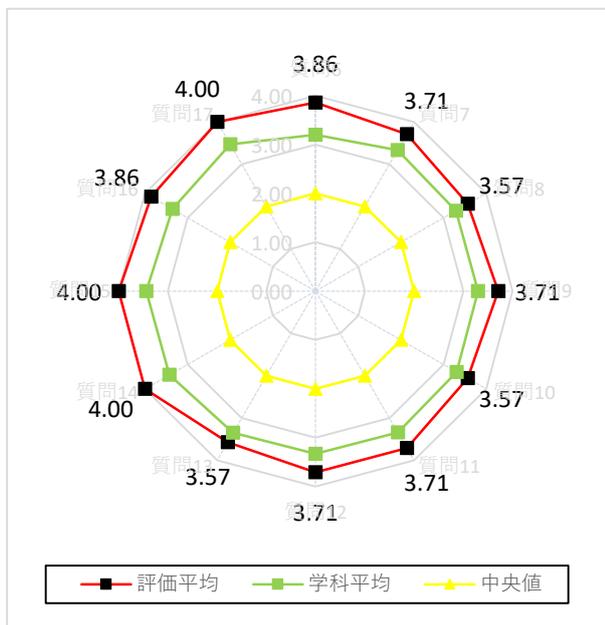
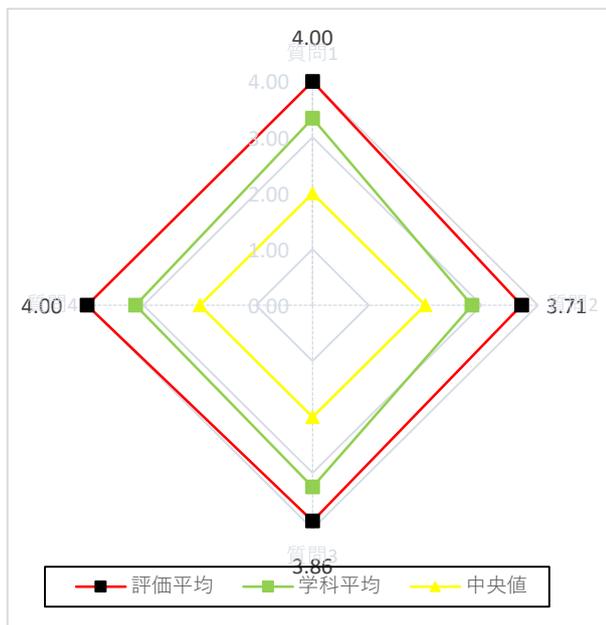
学生による評価は、学科平均と同等かそれ以上であった。
 また、質問8や9の評価が高く、授業は興味・関心を持てる工夫として、授業の中で出てきた食品の機能について、自分の研究や学会で得た知見を交えて話したのが興味を引いたと思われる。さらに、章ごとにまとめのプリントを配布し、宿題として問題を解かせている。これが事後学習に役立っていると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業は、選択授業で授業内容に興味・関心のある学生であったため、授業がやりやすかった。学生による評価も比較的良かったので、今年度のようなやり方を続けたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品の創製ゼミナール	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全ての質問について、学科平均よりかなり評価が高かった。

質問1、4、14-17は満点であった。

この科目は、学生主体で商品開発を行うもので、学生にとってとても興味を引くものであったことがうかがえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度も、いくつかの商品を実際に販売することができた。

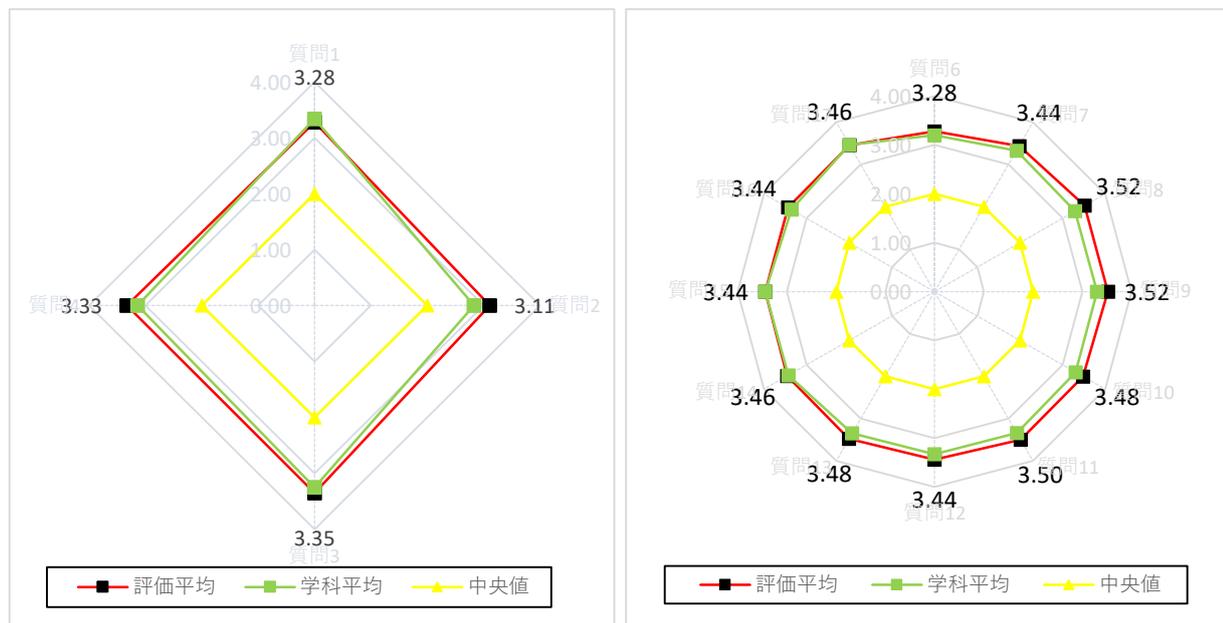
これらは学生にとって良い経験になっていると思う。

しかし、教員側は打ち合わせや企業側とのやり取りで非常に大変であった。

次年度も引き続き頑張りたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教職論	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

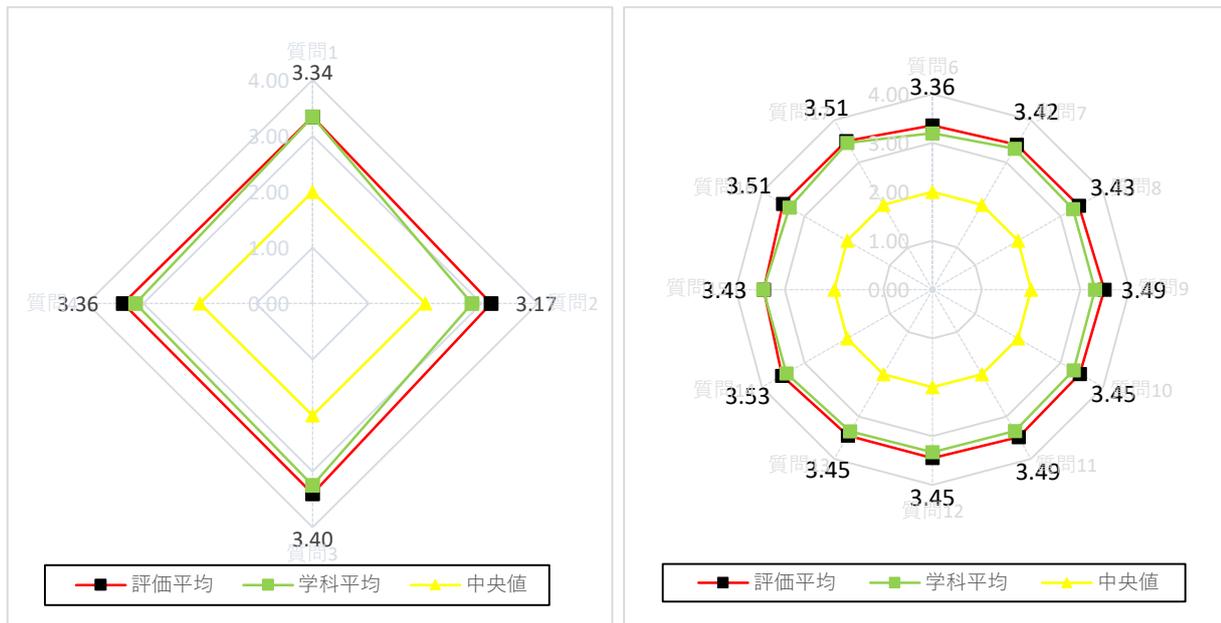
欠席回数が多い学生が多かったと思います。授業へのモチベーションを高められなかったことが、欠席回数が多い原因であったと考えられます。全体的にはあまり評価が低いところがありませんでしたが、双方向の授業という点では課題を感じています。今回は、ワークシートを活用して質問や授業改善の意見を受けられるようにしておりましたが、もう少し直接的なやりとりが気軽にできるように改善する余地はあるでしょう。やや評価が高かった項目として、「質問8：授業は興味・関心が持てる工夫がされていきましたか。」「質問9：授業は分かりやすくする工夫がされていきましたか。」「質問10：視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」があります。教材・板書に工夫を凝らして、学生たちが理解しやすくなるよう努力した結果が表われたかと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の欠席回数が多いこと、双方向の授業ができていないことに対しては、文部科学省が志向する主体的、対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を実践できれば、改善できると考えております。これまでの授業では、一方的に話すことが多く、学生の関心・意欲・態度を引き出すことが十分にできていませんでした。グループワークを多く取り入れ、学生一人ひとりに授業における役割を持たせ、かつその場で理解状況を確認することができれば、欠席率も改善し、学業成績もさらに向上することが期待できます。教職論は教師の仕事内容を理解し、教師として必要な資質を高めることを目的としています。一人で完結するのではなく、受講者同士が積極的に議論できるようにすれば、さらにこの目的が達成できると思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教育制度論	72名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

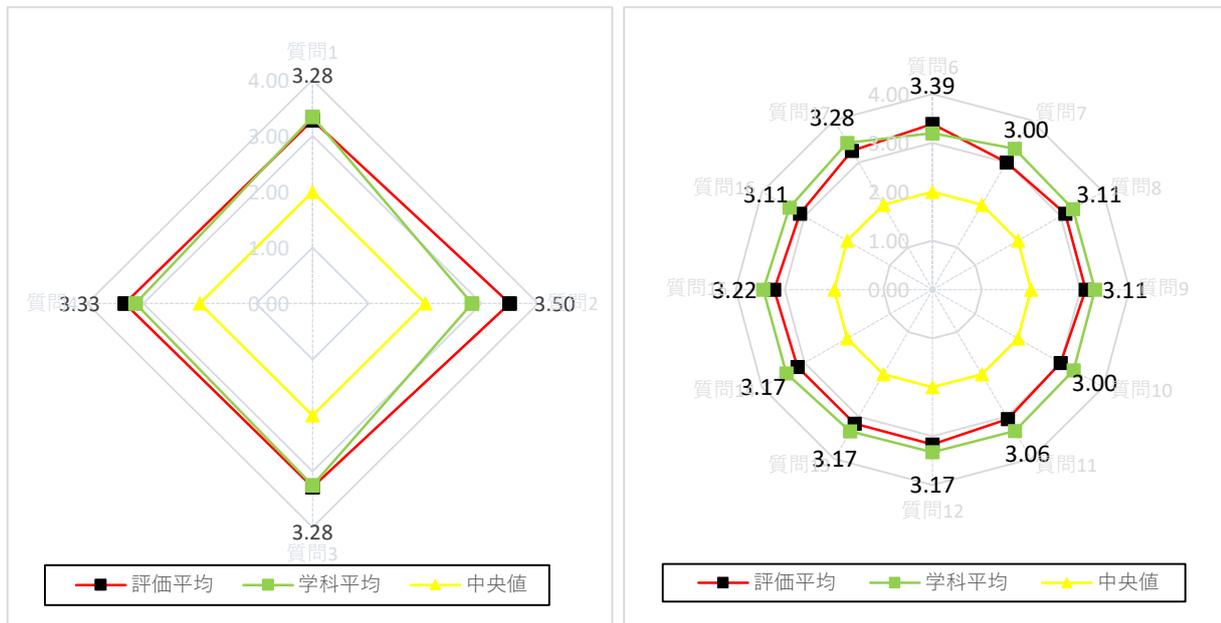
欠席回数が多い学生が多かったと思います。授業へのモチベーションを高められなかったことが、欠席回数が多い原因であったと考えられます。全体的にはあまり評価が低いところがありませんでした。双方向の授業の評価もやや高いのですが、私としては課題を感じています。今回は、ワークシートを活用して質問や授業改善の意見を受けられるようにしていましたが、もう少し直接的なやりとりが気軽にできるように改善する余地はあるでしょう。やや評価が高かった項目として「質問9：授業は分かりやすくする工夫がされていたか。」「質問10：視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」があります。教材・板書に工夫を凝らして、学生たちが理解しやすくなるよう努力した結果が表われたかと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の欠席回数が多いこと、双方向の授業ができていないことに対しては、文部科学省が志向する主体的、対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を実践できれば、改善できると考えております。これまでの授業では、一方的に話すことが多く、学生の関心・意欲・態度を引き出すことが十分にできていませんでした。グループワークを多く取り入れ、学生一人ひとりに授業における役割を持たせ、かつその場で理解状況を確認することができれば、欠席率も改善し、学業成績もさらに向上することが期待できます。教育制度論は、法学や政治学の知識も必要となり、学生にとっては少し難しい内容であろうかと思っております。社会科学が苦手な学生にとっても理解しやすいように、ケーススタディをさらに増やして、具体的な話から抽象的な話へと展開しようと考えております。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教育課程論	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

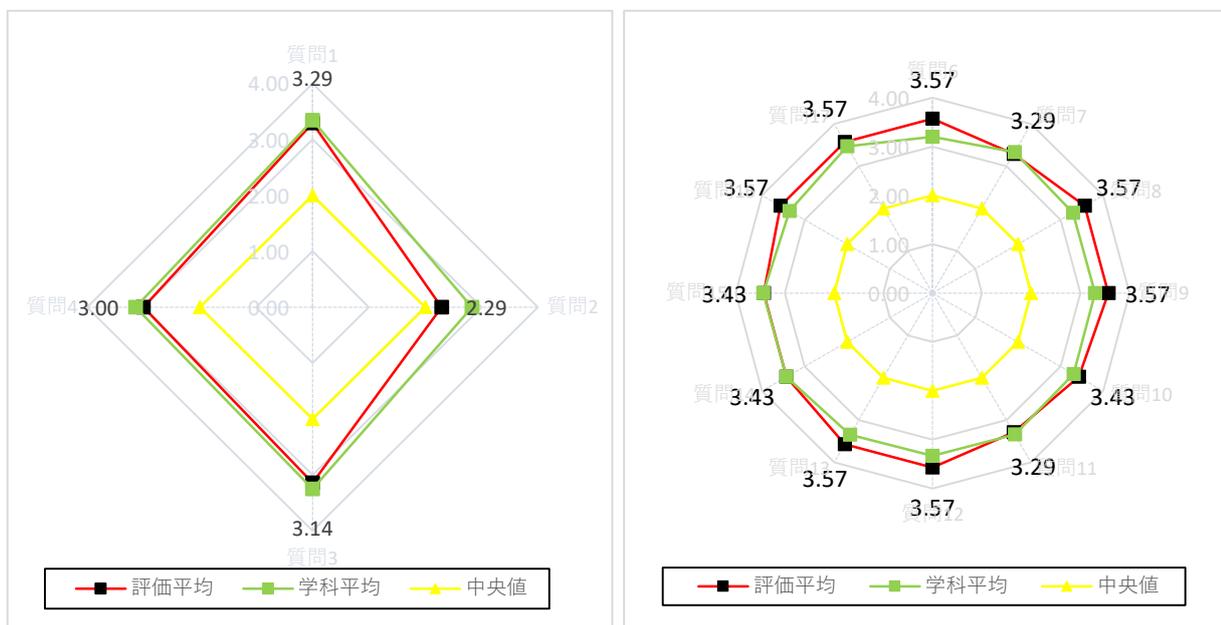
学生ははじめによく授業に参加した。途中、欠席してそのまま授業を辞める学生もいたので、教職への意欲付けが課題にあると思う。授業への参加度もまずまずよい。学生の授業への協力を得られたことが何よりであった。専門や興味が大きく異なる学生への授業であるため、どこに照準を合わせるか、苦労した。それには良い評価をもらったと思うので、自己省察を厳しく行っていくようにしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も、複数の学科の学生を対象に行う授業であることに配慮して、学生の主体的な参加を中心に、学生と協力・協議しながら、授業のやり方を工夫していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		地域の食産業	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

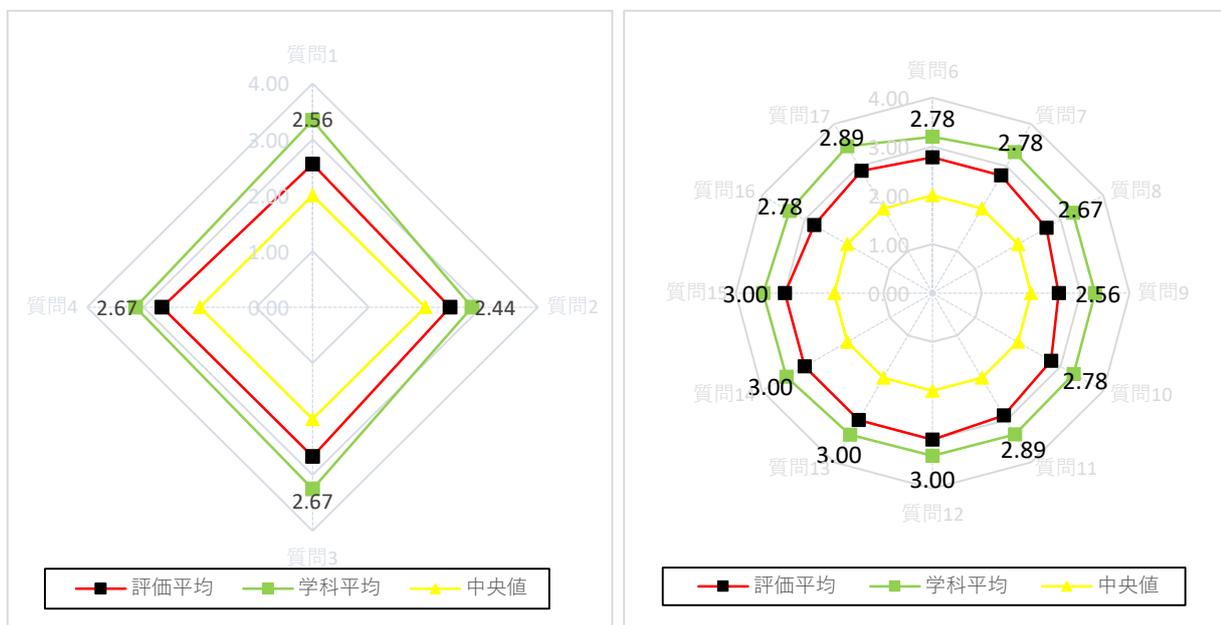
この科目は、数名のゲストスピーカーによる講義とアクティブラーニングを特徴としている。学生による評価は学科平均より高く、興味深い授業であったことがうかがえる。プレゼンテーションも各自行ったので、授業に積極的に取り組んでくれた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度もこのスタイルで行っていきたいと考えている。ゲストスピーカーによる講義も学生によっては新鮮のようで、次年度も食産業の分野でご活躍されている6名に講義を行ってもらおう予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		教職実践演習（栄養教諭）	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

教職実践演習（中・高）はすべて平均点以上の評価であったのに対し、教職実践演習（栄養教諭）はすべて平均以下の評価という結果になっています。両方担当している立場から見ると、中高免の受講生は4月から教員として働いたり、子ども関係やスポーツ指導員の仕事に就いたりする学生が多く、教職に対するモチベーションが高い学生が多いのに対し、栄養教諭の受講生は管理栄養士を目指している学生が多い（しかも国家試験の勉強の真っ最中である）ことから、教職に対するモチベーションが低い学生が多いという印象がありました。

また、担当教員も学科の教員ではなく、これまで接点がなかった学生がたくさんいましたので、信頼関係を築けていなかったとも考えられます。

ただし、栄養教諭は受講者数が少ないことから、統計的に信用性が低いと言えるかもしれません。（記入者：植田）

(3) 次年度に向けての取り組み

栄養教諭の免許取得に対するモチベーションを上げていく必要があります。しかし、栄養教諭は採用がほとんどなく、それがモチベーションが上がらない一因になっていると考えられます。

ほとんどの受講生が目指している管理栄養士の職務・職能と栄養教諭の職務・職能で共通の部分を見出したり、栄養教諭の資質を持った人が学校現場以外においてどのような活躍が期待できるのかということを感じられたりすると、授業に対するモチベーションも上がるかと思えます。私の授業では「学校現場における教員の資質」に特化した内容で指導していましたが、少し工夫できる余地があります。

また、次年度の学生たちとも接点が少ないことから、授業外でもいろいろ話ができるようにしたり、授業中でも学生たちと対話的な授業ができるようにしたりするなど心がけていきます。（記入者：植田）